



## 国際金融公社 2006 年度 年次報告書

### 第 1 分冊 目次

IFC 概観	2
IFC 理事会	6
執行部からのメッセージ	7
高まる開発効果	12
業務レポート	24
責任ある投資と活動	32
地域別レポート	41
略語・注記・定義	77
参考資料	78

## IFC 概観

### 開発と民間セクター投融資の触媒として

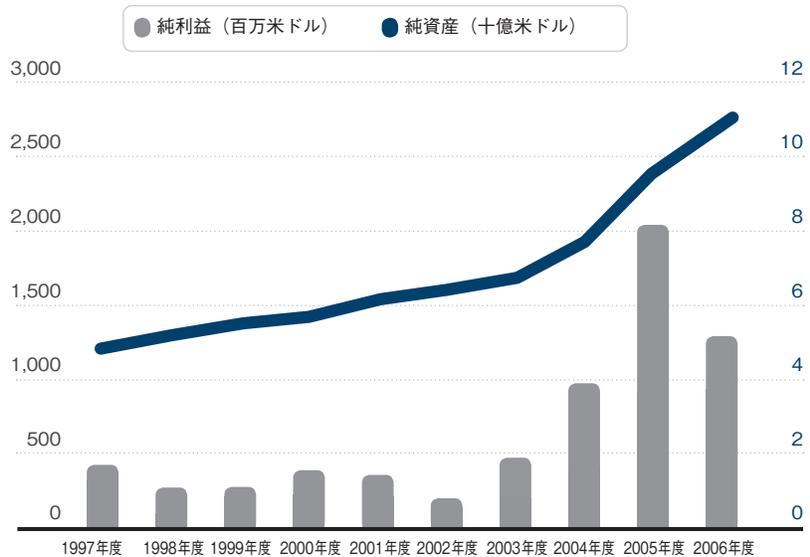
IFC は、開発途上国のみならず投資を行います。投資を刺激し、民間資本フローが流入する環境の創造を支援する私たちは、国際機関であり、多様な投資商品やプロジェクトを提供しています。IFC の財務結果は、世界各国の新興市場における企業の成長や成功を反映しています。

### IFC の使命

開発途上国の民間セクターにおける持続的な投資を促進することにより、貧困削減と人々の生活水準向上を支援することです。

### IFCの純利益と純資産

IFC は過去 50 年間毎年収益を上げ、新興市場への投資の有望性・将来性を実証してきました。



### 強固な財務基盤

IFC は、スタンダード・アンド・プアーズとムーディーズから AAA /Aaa の格付を取得しています。この格付は 1989 年以降毎年確認され、ステイブル・アウトルック (安定) で推移しています。

IFC は、新興市場の顧客への投融資に必要な資金を国際市場で調達する一方、開発途上国の資本市場の活性化のために各国通貨市場で債券を発行しています。

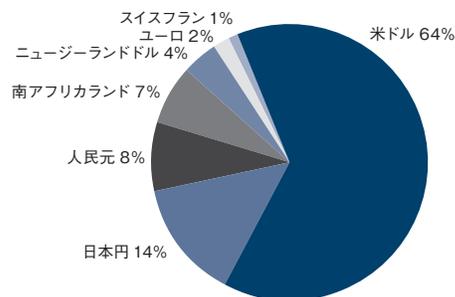
IFC の加盟国は 178 カ国あり、各加盟国の議決権は出資比率に基づいて決まっています。

ムーディーズ格付 Aaa  
(2005 年 10 月)

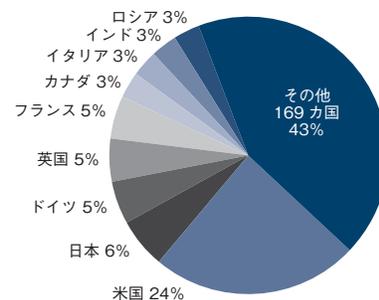
スタンダード・アンド・プアーズ格付 AAA  
(2005 年 9 月)

アウトルック：安定

2006 年度債券発行額 18 億ドル (7 通貨)



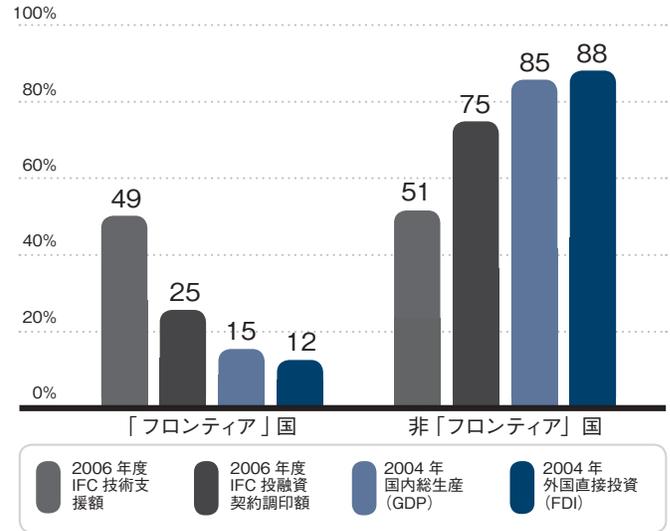
加盟国株主の強固なサポート



## IFCは、「フロンティア」国に 投資と技術支援の多くを集中

新興市場への投資が増える中、IFCは「フロンティア」国に一段と焦点を絞った戦略を展開しています。IFCは、他の投資家より低所得国または高リスク国へ重点的に投資を行い、これらの国へのIFCの投資は外国直接投資の約2倍を占めています。

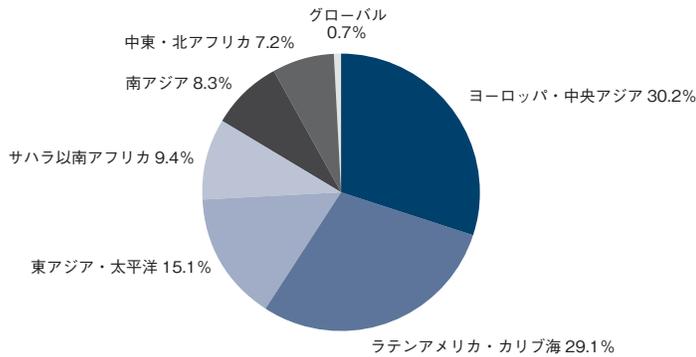
多くの「フロンティア」国の困難な投資環境の改善支援のために、IFCは技術支援・アドバイザー・サービス(TAAS)を提供し、民間投資に対する障害に立ち向かい、民間企業を支援します。「フロンティア」国に対するIFCの技術支援・アドバイザー・サービスの割合は、外国直接投資の約4倍に相当します。



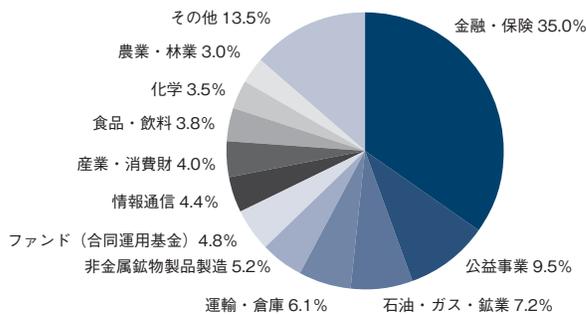
## 民間セクター開発への投資：契約調印残高

2006年6月30日現在のIFC自己勘定残高:216億ドル

### 地域別\*



### セクター別



### 契約残高上位国\*\*

国名	百万米ドル	総額に占める割合
ロシア	1,974	9%
ブラジル	1,505	7%
中国	1,498	7%
インド	1,261	6%
トルコ	1,197	6%
メキシコ	1,093	5%
アルゼンチン	810	4%
インドネシア	606	3%
ナイジェリア	544	3%
ウクライナ	533	2%

投融資残高には 112 カ国の  
1,368 社への投融資が含ま  
れています。

\* 一部の金額には、正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている投融資の各地域対応分を含む。詳細は地域別レポートを参照。

\*\* 地域的およびグローバルなプロジェクトの個別国シェアを除く。

## IFC 概観

### IFCの投融資業務と資金調達（2002年度～2006年度）

(百万米ドル)

	06年度	05年度	04年度	03年度	02年度
<b>投融資契約調印</b>					
プロジェクト数 <sup>1</sup>	284	236	217	204	203
対象国数	66	67	64	64	76
契約調印合計額	\$ 8,275	\$ 6,449	\$ 5,632	\$ 5,037	\$ 3,494
IFC 自己勘定	6,703	5,373	4,753	3,856	2,957
協調融資 <sup>3</sup>	1,572	1,076	879	1,181	518
<b>投融資実行</b>					
投融資実行合計額	\$ 5,739	\$ 4,011	\$ 4,115	\$ 4,468	\$ 2,072
IFC 自己勘定	4,428	3,456	3,152	2,959	1,498
協調融資	1,311	555	964	1,509	574
<b>契約残高<sup>2</sup></b>					
企業数	1,368	1,313	1,333	1,378	1,402
契約残高合計額 <sup>3</sup>	\$26,706	\$24,536	\$23,460	\$23,379	\$21,569
IFC 自己勘定	21,627	19,253	17,913	16,777	15,049
協調融資 <sup>3</sup>	5,079	5,283	5,546	6,602	6,519

<sup>1</sup> 各プロジェクトについて初めて契約が調印された年度に計上。複数企業に投融資を行うプロジェクトは、1契約として数えている。

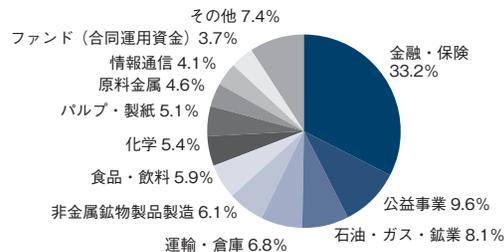
<sup>2</sup> 保証とリスク管理商品を含む。

<sup>3</sup> 契約残高合計と協調融資は、証券化されたローンを含む。

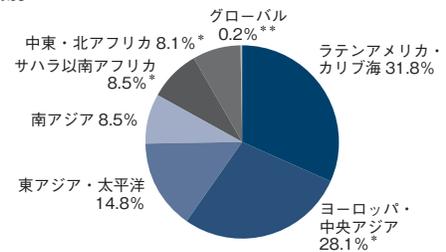
### 2006年度 投融資プロジェクト

総額83億ドルの契約調印合計額 (IFC自己勘定と協調融資)

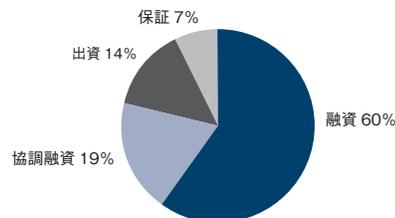
#### 業種別



#### 地域別\*



#### 商品別



\* 一部の金額には、正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている投融資の各地域対応分を含む。詳細は地域別レポートを参照。

\*\* 一地域以上を包括するプロジェクトは「グローバル」として分類してある。

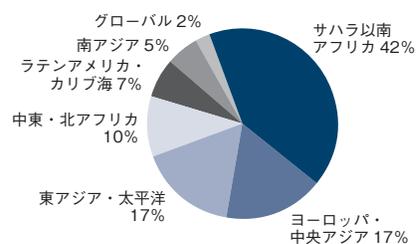
私たちは、50周年に当たる今年自己勘定で総額67億ドルの投融資を世界66カ国へ提供しました。

IFC は、80 を超える国の政府や企業に技術支援を提供することも行っています。今年度援助承認総額の約40%がサハラ以南アフリカ地域での業務に向けられています。

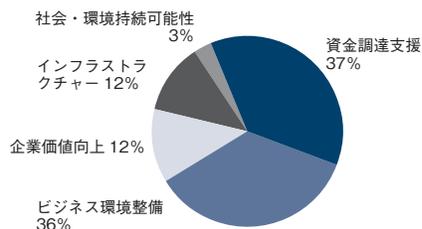
### 2006年度 技術支援および アドバイザー・サービス・プロジェクト

援助承認総額約 2 億ドル\*

#### 地域別



#### プロジェクト別



\* データは、IFCのシステム上2005年7月1日～2006年6月30日の期間に承認された技術支援およびアドバイザー・サービスプロジェクトに基づくもので、監査は実施されていない。2006年度に承認されたプロジェクトの一部は統計処理されておらずここに含まれていないが、業務分野や地域別分布に著しい影響を与えるものではない。

### 貸借対照表主要項目

(百万米ドル)

	06年度	05年度	04年度	03年度	02年度
<b>資産</b>					
流動資産（デリバティブを除く）	\$20,594	\$22,781	\$18,397	\$17,004	\$16,924
引当金控除後の投融資	12,731	11,489	10,279	9,377	7,963
デリバティブ資産	1,128	1,516	1,092	1,734	1,077
受取債権およびその他資産	3,967	3,774	2,593	3,428	1,775
資産合計	38,420	39,560	32,361	31,543	27,739
<b>負債</b>					
借入金・債券	\$14,967	\$15,359	\$16,254	\$17,315	\$16,581
デリバティブ負債	1,288	2,332	1,549	1,264	1,576
支払債務およびその他負債	11,089	12,071	6,776	6,175	3,278
負債合計	27,344	29,762	24,579	24,754	21,435
<b>資本</b>					
資本金	\$ 2,364	\$ 2,364	\$ 2,361	\$ 2,360	\$ 2,360
内部留保	8,711	7,433	5,418	4,425	3,938
その他	1	1	3	4	6
資本合計	11,076	9,798	7,782	6,789	6,304

### 損益報告書主要項目

(百万米ドル)

	06年度	05年度	04年度	03年度	02年度
融資からの利息および手数料収入	\$ 807	\$ 660	\$ 518	\$ 477	\$ 547
流動資産トレーディング収入	444	358	177	475	524
借入費用	(603)	(309)	\$(141)	\$(226)	(438)
出資金収益	1,228	1,365	658	145	160
貸付および保証に関する 引当金引当て・繰戻し 純費用	(15)	261	103	(48)	(389)
TAAS 費用*	(55)	(38)	(29)	—	—
パフォーマンス・ベース ・ Grant 費用	(35)	—	—	—	—
<b>営業収益</b>	<b>\$1,409</b>	<b>\$1,953</b>	<b>\$ 982</b>	<b>\$ 528</b>	<b>\$ 161</b>
トレーディング以外の 金融商品に関わる純損益	(131)	62	11	(41)	54
<b>純利益</b>	<b>\$1,278</b>	<b>\$2,015</b>	<b>\$ 993</b>	<b>\$ 487</b>	<b>\$ 215</b>

\*技術支援およびアドバイザー・サービス



(写真左より)

(立席) Gino Alzetta, Zou Jiayi, Marcel Massé, Paulo F. Gomes, Jakub Karnowski, Jaime Quijandria, Mulu Ketsela, Dhanendra Kumar, Yoshio Okubo, Sid Ahmed Dib, Pierre Duquesne, Joong-Kyung Choi, Jennifer Dorn, Herwidayatmo, Mahdy Ismail Aljazzaf, Abdulrahman M. Almofadhi, Biagio Bossone;  
(着席) Otaviano Canuto, Thorsteinn Ingolfsson, Eckhard Deutscher, Alexey Kvasov, Jan Willem van der Kaaij, Tom Scholar. 写真なし: Luis Marti.

## 理事および理事代理

### 理事

Mahdy Ismail Aljazzaf  
Abdulrahman M. Almofadhi  
Gino Alzetta  
Biagio Bossone  
Otaviano Canuto  
Joong-Kyung Choi  
Eckhard Deutscher  
Sid Ahmed Dib  
Pierre Duquesne  
Paulo F. Gomes  
Herwidayatmo  
Thorsteinn Ingolfsson  
Dhanendra Kumar  
Alexey Kvasov  
Luis Marti  
Marcel Massé  
Jaime Quijandria  
Tom Scholar  
Mathias Sinamenye  
Jan Willem van der Kaaij  
Pietro Veglio  
Zou Jiayi  
(vacant)  
(vacant)

### 理事代理

Mohamed Kamel Amr  
Abdulhamid Alkhalifa  
Melih Nemli  
Nuno Mota Pinto  
Jeremias N. Paul, Jr.  
Terry O'Brien  
Walter Hermann  
Shuja Shah  
Alexis Kohler  
Louis Philippe Ong Seng  
Nursiah Arshad  
Svein Aass  
Zakin Ahmed Khan  
Eugene Miagkov  
Jorge Familiar  
Gobind Ganga  
Alieto Guadagni  
Caroline Sergeant  
Mulu Ketsela  
Anca Ciobanu  
Jakub Karnowski  
Yang Jinlin  
Jennifer Dorn  
Toshio Oya

## 理事会：

### IFC の未来の展望と監督

今年度、理事会はIFCによる多数の投融資を承認し、引き続きその戦略の開発と実行について詳細な監督を行いました。理事会はまた、国別の業務を検証するとともに、世界銀行、IFC、多数国間投資保証機関(MIGA)による17件の共同国別援助戦略および関連商品についても検討を行いました。

理事会は、IFCの5つの戦略的重点分野への支持および、IFCが開発効果の向上のために活動を拡充することへの支持を再確認しました。具体的な課題としてIFC経営陣と議論した中には、IFCの社会・環境持続可能性に関する新しい政策とパフォーマンス基準が含まれています。監督責任の一環として、理事会は年次業務評価とIFC経営陣による回答についても討議しました。IFC経営陣と独立評価グループとの間で建設的な対話が継続していることを理事会は歓迎しています。

IFCのパフォーマンスについて、理事会は、IFCの2006年度業績を高く評価しています。これには、好調な財務結果、アフリカを中心とした「フロンティア」市場での目覚ましい活動拡大そして投融資および技術支援の開発効果の測定分野における大幅な前進が含まれます。

### 総務会への書簡

IFC 理事会は、IFC の規則に基づいて今年度の年次報告書を準備させました。理事会の議長でもある Paul Wolfowitz IFC 総裁は、年次報告書を監査済み財務諸表とともに総務会に提出しました。

理事会は、2006年6月30日に終了した会計年度において、IFCが民間セクター・プロジェクトへの資金提供業務とアドバイザー・サービスを通じて持続可能な開発効果を拡大したことを総務会に報告します。



(写真左から)

Paul Wolfowitz ポール・ウォルフowitz  
世界銀行グループ総裁

Lars Thunell ラース・テュネル  
IFC 長官

## 総裁からのメッセージ

国際社会の貧困との闘いが最も功を奏した4半世紀であった過去25年間に、中国、インドなど成長した途上国で5億人の人々が貧困生活から抜け出ることができました。これらの成功の多くは民間企業の成長と雇用創出を可能とする改革によってもたらされたと言えます。過去1年間5つの大陸を旅する中で私は、貧困者の生活を一変させ、その子どもたちがより良い未来を獲得する機会を付与する重要な役割を民間セクターが果たした感動的な多数の事例を目の当たりにしました。

メキシコのモンテレイでは、IFCがプライベート・エクイティ・ファンドを通して投資した会社Homexが開発したコミュニティで、手頃な価格で新築住宅を手に入れた4,000を超える家族のうちの1家族Ruiz一家に出会いました。良い学校、レクリエーション施設、保健医療施設に恵まれたReal de San Joseコミュニティへ引っ越してくるまで、Ruiz家の8人は水道など基礎的インフラ無しで生活していました。

タンザニアでは、蚊帳工場を訪問しました。そこで官民パートナーシップを通じ、貧困者へ政府がサービスを提供するための支援を民間セクターが提供する現場に立ち会いました。貧困者は特にマラリアに感染しやすいため、タンザニアでは全ての妊娠中の女性が小売店で蚊帳と

引き換えることのできる券を受け取る権利を付与されています。5人の子どもが皆マラリアに感染し、初めて蚊帳を手に入れることのできた母親との会話に私は強く心を打たれました。

過去20年間に開発途上国への資金提供の基本的構造は様変わりし、民間資金フローが開発分野で最も大きな影響力を持つようになりました。各国政府が行う開発途上国への政府開発援助1ドルに対し、富裕国から貧困国へ流れる民間投資の額は現在4ドルを超えています。今日開発途上国の雇用機会の9割を民間セクターが占めており、これらの雇用の先に貧困脱却への明るい進路が繋がっているのです。

IFCの投融資は、民間セクターの資金を持続的な経済効果のある創造的かつ革新的なプロジェクトに向かわせます。長期的視野に立ち、忍耐強く資本を提供することによって雇用創出や所得水準の向上に直接効果をもたらします。この方法で数え切れない家族を貧困の淵から家族ずつ引き上げてきました。そして新しい雇用や機会がそれぞれの世代に前よりより良くなるチャンスを与えています。

私たちが行動できる—そして、実際に行動に移している—最も重要なことは民間のビジネスの障害となる規制を政府が特定するのを助けることです。政府の規

制がいかに経済成長に影響を与え、また(多くの場合抑制しているか)を評価する世界銀行とIFCの共同報告書「Doing Business」は、各国のビジネス環境の評価を求める政府関係者、政策立案者、研究者そして投資家の標準的な手引きにいち早くなり、また多くの国々で「Doing Business」の結果は経済改革の出発点として利用されています。

開発の成功は、多くの機関や人々の参加によるチームワークによって達成されます。過去50年間、IFCの職員の献身的な取り組みによって、IFCは民間企業が目に見える開発効果と利益を調和させながら人々の生活水準の改善に力を持つことを示す先導役になってきました。私はIFCの職員の疲れを知らない努力に感謝します。同時にIFCの使命を受け入れ、世界中に不可欠な資金を提供し、企業を育成するIFCの取り組みを支援してくださる加盟各国と援助国にも謝意を表します。

ポール・ウォルフowitz  
2006年6月30日

## 長官からのメッセージ

### 力強い成長と目覚しい開発効果

IFCは民間セクター開発における世界のリーダーとして、その業務を順調に拡大し、新興市場および成長市場における民間セクターの持続的な投融資の触媒としての能力を向上させています。今年度IFCは、自己勘定による投融資を25%近く増大させ、職員数も同じく25%増強しました。私たちは、また私たちの支援が最も必要とされている高リスク低所得地域における活動を充実させるとともに、IFC事業の開発効果の測定方法改善に努力しています。

IFC設立50周年を迎えた今年は歴史的節目の年であるのみならず、IFCの進化過程において重要な一步となる年でもあります。2005年、理事会は、技術支援の大幅拡充に加え、3年間で投融資契約調印額の50%増を目指すというIFCの長期拡大戦略を承認しました。本報告書の各所でも示されているとおり、IFCは前倒しでこの戦略を実行しています：

- IFC自己勘定による投融資契約調印額は、2005年度の54億ドルから本年度は67億ドルに増えました。
- 低所得あるいは高リスク国・地域への投資など開発効果の高い分野における活動は前年度の13億ドルを大きく上回る15億ドルでした。
- サハラ以南アフリカ地域への投融資契約調印額は、前年度より約60%増の7億ドルとなりました。

- 中小企業向けの投融資は過去3年間にほぼ3倍増を実現し、2006年度は10億ドルを超えました。
- インフラストラクチャー、民間セクターの保健衛生・教育といった重点分野の投融資は50%以上増えました。

目標を超える業績を実現する一方で、私たちはIFCの投融資の質の向上と持続可能な開発への貢献も重視しています。貸倒引当金の縮減で見る投資の質は、3年連続で本年度も改善しています。一方不良債権は減少しています。またIFCのプロジェクトは全般的に収益率を上回る経済効果を上げています。

IFCは、具体的な開発の成果を出しています。私たちが投融資したプロジェクトを通じ、昨年、2,400万人の患者が医療サービスを、そして32万人の学生が教育サービスを受けました。電気通

信分野へのIFCの投融資は1996年以降8,000万人の人々が電話サービスへのアクセスを確保することを支援しました。IFCが投資した石油・ガス・鉱業セクターの企業は、昨年開発途上国政府の歳入を44億ドル潤し、5万人の雇用を創出しました。

技術支援・アドバイザー・サービスも大きく前進しました。活動を5つの戦略的重点分野に再編することによって、IFCが強さを持っているところに集中し、プロジェクトの質を向上させ、知見の共有を促進します。

またIFCは、投融資活動と技術支援活動の開発効果をモニター・評価する新しいシステムを導入しました。私たちは、他の世界銀行グループ機関との間で官民パートナーシップや、地方政府へのファイナンスといった取引および、投資



中国 Yongshou 郡で子ども達と談笑するラース・テュネル長官。North Andre Apple Concentrate Juice Company の仕入れ先である子ども達の家族は IFC の投融資に関連する技術支援によって生産性の向上を図っています。

環境整備などの分野での技術支援プログラムなどを通じて戦略的協力関係の強化を続けています。IFC 理事会は、以下の戦略の5本の柱を再確認しました：1) 「フロンティア」市場への集中を強化、2) 開発途上国を拠点とする新興グローバル企業との長期的関係の構築、3) 社会・環境持続可能性政策を通じた先導、4) インフラストラクチャー、医療保健、教育の分野における民間セクター成長の抑制要因への取り組み、5) 革新的商品と制度構築を通じた地場金融市場の開発。

同時に、私たちは、より高い視点から成長戦略を1年延ばして2009年まで延長し、6つの重点目標を設定しました：

- アフリカと中東への集中を一段と高め、技術支援を強化し、投資環境の整備を支援することによってIFCの開発効果を向上させる
- 世界銀行グループ内でのより効果的な協力体制を構築する
- 環境・社会・コーポレート・ガバナンス分野を超えた指導力を発揮する
- 業務の本部集中化排除の推進と作業プロセスの改善による顧客満足度

を向上させる

- リスク・マネジメントへの集中を高め、健全な財務実績を維持する
- 多様性に富んだ有能な職員を採用・訓練・維持する。厳正に職員の業績を評価する

周年目のこの年を喜びの中に迎えることができました。IFC 職員が歴史を振り返ると、そこには自分達が民間企業の力を人々の生活向上に役立たせることができた無数の事例を見出すことができます。開発途上国の企業の成長を支援し

**IFC 職員が歴史を振り返ると、そこには自分たちが民間企業の力を人々の生活向上に役立たせることができた無数の事例を見出すことができます。**

IFC の長期戦略は、今後数年間にわたる強固な礎となるでしょう。しかし常に改善する余地はあります。本年1月から2月にかけて、経営陣は、外部環境や、顧客ニーズの変化さらに世界銀行グループのメンバーとしてのIFCの役割を考慮し、IFCの進むべき方向性について幅広い見直しを実施しました。

私たちの取り組みの成果によって、50

で、その企業が、雇用創出の牽引役となることから、民間の株式投資家の開発途上国市場への参入促進や、民営化や経済セクター全体の再編を支援までしています。過去数カ月を振り返っただけでも、他に先駆けた取り組みを続けています。中国では多国間機関で初めて債券を発行し、社会・環境持続可能性に関する新世代の運用基準を導入し、ブラ

ジルでは持続可能性インデックスの作成を支援しました。さらにアフリカの中心に位置する紛争後国であるコンゴ民

です。その役割とは、商業主義と開発効果を両立させることであり、経験豊富な投資家の時の試練を受けた智恵と

びつけることです。

今日の成功の全てが、昨日今日とられた政策の結果得られたわけではありません。その多くは、5年、10年前、あるいは20年前のスタッフの苦渋の決断や刻苦勉強があつて得られた結果です。そのような有能で献身的な職員と共に働けることを私は大変誇りに思います。私は、次の半世紀へとIFCを率いて開発途上国全体における民間セクターの機会増大というIFCの輝かしい実績をさらに積み上げていくことを楽しみにしています。



ラース・H・テュネル  
IFC 長官  
2006年6月30日

私たちが投融資したプロジェクトを通じ、昨年 2,400 万人の患者が医療サービスを、そして 32 万人の学生が教育サービスを受けました。電気通信分野への IFC の投融資は 1996 年以降 8,000 万人の人々が電話サービスへのアクセスするのを支援しました。

主共和国で試験的イニシアティブに着手しました。

IFCの課題は、誇り高き遺産を引き継ぎ、重要な役割を今後も担っていくこと

新しい開発課題の解決への開拓者精神の両方をバランスさせることであり、また資質の中でも最も捉えどころの無い指導力と具体的に評価可能な進展とを結

IFCマネジメント・  
グループ



Lars Thunell  
長官



Dorothy Berry  
副総裁  
人事・総務担当



Declan Duff  
副総裁  
産業担当\*



Javed Hamid  
上級顧問\*



Farida Khambata  
副総裁  
アジア・ラテンアメリカ  
担当\*



Michael Klein  
副総裁  
民間セクター開発担当  
IFC チーフ・エコノミスト



Edward Nassim  
副総裁  
ヨーロッパ・アフリカ・  
中東担当\*



W. Paatii Oforu-Amaah  
副総裁兼事務局長



Nina Shapiro  
副総裁  
金融・財務担当



Jennifer Sullivan  
法律顧問

PHOTOS: KATHERINE LAMBERT

\*2006年7月1日現在の役職名。



タンザニアでの殺虫剤を染み込ませた蚊帳の製造風景。蚊帳はマラリアの蔓延阻止に役立ちます。

## 高まる開発効果

IFCは、融資、出資、リスク管理商品、ストラクチャード・ファイナンス商品といった各種ファイナンスを開発途上世界で提供する世界最大の多国間機関です。1956年IFC設立時点においては、商業原則に基づく運営を行いながら、加盟国政府（設立当時31カ国、現在178カ国）に完全に所有されている初めての機関でした。1950年代半ばまでに公共セクターの強化が世界銀行の政府貸付によって様々な形で進められました。しかし、雇用の

業務を行います。持続可能な開発に貢献する一方で利益を上げ、民間セクターの顧客を支援する一方で出資者に対する説明責任を全面的に果たしています。民間セクター開発に対する莫大なニーズに対応するために、他の開発機関、非営利団体、金融機関、民間セクター組織と協力して事業を実施することもあります。

過去50年間にIFCは、140にのぼる開発途上国の3,531社に自己勘定から560億ドルの投融資を行い、250億ドルの協調

への投資をたびたび行い、また持続可能性向上の取り組みを通じ、こうしたプロジェクトから環境や地域社会へより多くのプラスの効果を与えることを支援しています。

過去20年間でIFCは、主として寛大な援助国の資金で10億ドル相当の技術支援およびアドバイザリー・サービスを提供し、技術支援の職員は現在800人を超えています。今日IFCは、投融資と民間セクターへのアドバイザリー・サービス分野における確固たる業績の上に開発効果の向上を目指して、前進を続けています。IFCは、主要な分野での進展に重点を置いた野心的な成長目標を設定しました：

- 最大のニーズがある国・地域へ一段と集中
- 新興市場の国際的プレーヤーとの長期的協力関係の構築
- 社会・環境持続可能性の確保
- インフラストラクチャーを含む主要セクターでの民間セクターの成長促進
- 地場金融市場の整備支援

IFCの事業範囲の拡充と能力向上を円滑に進めるために、各国事務所の職員を増員しています。こうすることでIFCがその資金提供、専門知識、革新性を最も必要とする市場の顧客により身近になることができます。

## 雇用創出やマクロ経済成長の基盤となるプロジェクトに投資を行っています。

創出、スキルの蓄積、生活水準の向上に大きな可能性を与える民間セクターをも同じように目が向けられるのに値していました。まさにそこに過去半世紀のIFCの挑戦がありました。私たちは、外部投資家と協力して、他から資金を得られない有望なビジネスやプロジェクトを支援するため、共に資金をリスクにさらしつつ投じてきました。市場の規律を維持するために、IFCは顧客と市場条件の下で

融資を組成してきました。新興市場向けのファンドを組成して、新しい資産クラスを導入を支援したり、貿易金融や住宅金融の利用可能性を拡大したり、地場通貨建て融資を行ったり、さらに多くの市場で多国間機関として初めて債券を発行するなどして、IFCは各国国内資本市場整備の最前線に立ってきました。私たちは、開発途上国の雇用創出やマクロ経済成長の基盤となる大規模なプロジェクト

## IFCの開発パートナー

IFCは、世界最大の民間セクター開発機関ですが、地域開発銀行、多くの加盟国政府の開発援助機関そして様々な国際金融機関などの主要なパートナーとの協力無しには開発の効果を上げることはできません。

例えば、IFCのマルチドナー・ファシリテーターの一つであるアフリカ民間企業パートナーシップ(Private Enterprise Partnership for Africa : PEP Africa) の職員がアフリカ開発銀行のために技術支援プログラムを実施しています。この技術支援は、サハラ以南アフリカ全域の小規模企業や女性企業家を対象にしています。他にもこの地域では、二国間や多国間機関の協力を得て、投資を行っています。欧州投資銀行やフランスのProparcoのような個別国の民間セクターの開発会社などがそれにあたります。

規模が大きくより複雑な投融資案件については、欧州復興開発銀行など他の機関と組織的なアプローチをとって調整を行います。IFCは、多くのプロジェクトについて他の金融機関と活発に競い合っています。

IFCは、環境的持続可能性、保健医療・教育、農村開発および社会的企業家精神に関わるパートナーシップに重点を置きつつ、様々なイニシアティブにおいて慈善団体や財団とも協力しています。私たちは、プロジェクトの実施やモニター支援のために、現場の技術支援提供者の幅広いネットワークをこれらの財団や組織が活用する機会を拡大しています。

援助国との協力は私たちの取り組みの成功には不可欠なものであり、その支援に感謝しています。本年度、80カ国以上の国で実施するIFCのプログラムに援助国から資金提供を受けました。これにより開発途上国が民間セクターの投資を誘引し、また成長を牽引し、雇用を創出し、人々を貧困から解放する強い企業を作ることを支援できたのです。

民間セクター開発に対する莫大なニーズに対応するために、他の開発機関、非営利団体、金融機関、民間セクター組織と協力して事業を実施します。



CHINDEX INTERNATIONALより写真提供



MICHAEL HIGGINS

## 「フロンティア」市場への投融資割合が20パーセント上昇

「フロンティア」国—典型的には、1人当たりの国民所得が低く、困難な経済課題を抱え、政治的に不安定な国々—での投融資プロジェクトがIFCの本年度契約調印額の4分の1以上を占めています。後発開発途上経済でのプロジェクトの規模は概して小規模傾向であるにもかかわらずです。2006年度の「フロンティア」国での契約調印額は15億ドルで、前年度比20%の伸びを示しています。

IFCは、アフリカと中東での投融資および技術支援を大幅に増やしています。

これらの国での開発の効果の最大化を目指し、金融市場整備、ガバナンスの改善、投資環境整備に焦点を置いています。また金融市場の整備が進んでいる国々では、マイクロファイナンスや中小企業向けのファイナンスなど支援が不十分だったニッチ分野に焦点を当てています。

サハラ以南アフリカ地域でのIFCの対応力の拡大の結果、3年前には僅か1億4,000万ドルだった契約調印額が本年度7億ドルに達しました。この地域で

の活動の多くは、トレード・ファイナンス、住宅金融、小規模企業向け金融です。

従来IFC業務の急速な展開が見られなかった中東・北アフリカ地域でも、本年度は、契約調印額が倍増しました。この投融資額の成長は、プロジェクト担当職員を50%増強して、当地域での技術支援の提供能力を強化したことに伴うものです。これにはコーポレート・ガバナンス関連のプロジェクトの大幅な拡充が含まれます。

### 最大のニーズがある地域へ一段と集中

	06年度	05年度
サハラ以南アフリカ地域における契約調印額	700百万ドル	445百万ドル
零細・中小企業向け契約調印額*	16億ドル	11億ドル
「フロンティア」国における契約調印額合計**	15億ドル	13億ドル

\* 契約調印額には：中小・零細企業（Micro, Small, and Medium Enterprises: MSME）向け直接貸付、50%以上の顧客が中小・零細企業の金融機関、その他主たる受益者として中小・零細企業を明示的に対象とする投融資を含む。

\*\* 「フロンティア」国とは、低所得（世界銀行所得分類）あるいは高リスク（Institutional Investor誌の格付け30以下）国である。「フロンティア」国における契約調印額の増加率20%は、小数点以下四捨五入しない数字によっている。2006年度、2005年度の実際の契約調印額は、それぞれ1,536百万ドルと1,277百万ドルである。

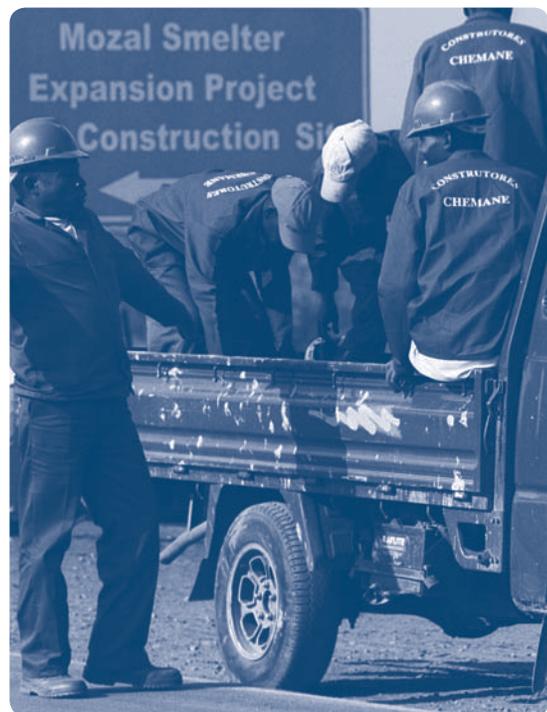
## 厳しい環境にある民間企業の育成

### 1990年代のIFC: モザンビークへの投融資

IFCは、多くの場合、リスクが高すぎると投資家が考える国々に新たな民間資本を導入する触媒の役割を果たします。モザンビークのアルミニウム精錬所Mozalへの初期の投資もその一例です。13億ドルのプロジェクトの成功に不可欠であった1997年のプロジェクト第1期のIFCの1億1,000万ドルの資金支援は、モザンビークでの初めての大規模な国外からの投資でした。この結果給料の高い仕事場がモザンビークに生まれ、壊滅的な内戦からの復興途上にあつた貧困国への他の投資家の参加を促しました。

当時、IFCの単一プロジェクトとしては史上最大であったMozalは、モザンビーク経済にプラスの効果をもたらし、2001年にはモザンビークの輸出額の55%、GDPの8%を生み出すまでになりました。2001年には同プロジェクトの第2期においてIFCは、2,500万ドルをさらに提供しました。IFCは、MozalのHIV/エイズ・プログラムを支援し、また地域の小規模企業からの調達の拡大も助けています。

IFCは、民間セクターの発展が最も必要とされいながら、資金提供が最も少ないアフガニスタン、コンゴ民主共和国、イラクなど厳しい環境への投融資を今日も続けています。



ANTOINE COURCELLE LARROSE

### 投資環境イニシアティブ

一般に、IFCが、開発効果を高めるためにあたって2つの障害があります。すなわち、投資環境と市場の受容能力です。私たちは、これらの障害に対処す

例えばIFCは、本年度アフリカ民間企業パートナーシップ (Private Enterprise Partnership for Africa: PEP Africa) を発足させました。このパートナーシップは、サハラ以南アフリカ地域での投資環境整

発に重点を置いています。

PEP Africaは、旧ソ連諸国で援助国の支援を受けて2000年以降実施してきた民間企業パートナーシップの成功に基づいて発足しました。旧ソ連諸国で、同パートナーシップは、金融セクターの強化、国際標準に合致したコーポレート・ガバナンスの導入、事業規制の簡素化、大企業のサプライ・チェーンへの小規模企業の組み入れといった業務を進めました。IFCは、総額9億1,500万ドルの資金を動員して投資を行い、10カ国全体で160社の新しい企業設立、3万人の雇用創出の支援を行いました。この経験から学んだ教訓は、IFCの世界各国における技術支援へのアプローチに影響を与えました。広範で持続的な経済成長のために、投融資活動と技術支援の融合を進めるという私たちの決意もその一つです。

## IFCの中東・北アフリカ地域の企業への投融資契約調印

額は本年2倍を超え、サハラ以南アフリカ地域は60%

近い伸びを達成。

るために、たくましい民間セクターを作ろうとする政府へのアドバイザー・サービスを強化しています。この取り組みには、民営化に関する技術支援とアドバイザー・サービスや、世界銀行との協力の拡充が含まれます。

備イニシアティブ間の調整を行い、IFCの投融資と技術支援を一体化させるように設計されています。これは企業の設立手続や税制の簡素化、民間セクターの財産権制度と資金へのアクセスの改善、および小規模企業の代替的資金調達方法の開



AGDより写真提供

## 成長する新興グローバル企業への投融資と技術支援の拡大

IFCは世界各地で活動し、専門知識を有することから、最も急速に外国直接投資が伸びている市場セグメントのひとつである他の開発途上国への投資を希望する新興市場の企業の支援が可能です。企業の成長に伴い資金を提供することに加え、私たちは、顧客の商慣行の改善、社会・環境およびコーポレート・ガバナンス基準の向上を支援することができます。実際、過去3年間にこの種の投融資活動へのIFCの関与は着実に増加し、2006年度には6億7,300万ドルに達しました。これらの南南協力プロジェクトの63%以上がリピーター顧客との間で実施されており、その1例としてはアフガニスタンに

おける新たな携帯電話ネットワークへの支援があります。

これらの投融資が可能となったのは、一つには、新規顧客そして長年の顧客により身近で、より深く関わっている地域事務所へIFC職員や資源をより多く移動させたことによります。実際、年に1回実施する顧客アンケートの最新の調査結果によると、顧客がIFCを選び、顧客であり続ける1番の理由は、長期的パートナーシップが期待できることです。

革新的な金融商品の提供に加え、企業の持続可能性の向上支援といった付加価値のあるサービスでもって顧客を支援する時、私たちは最大の開発効果を上げ

ることができます。企業が変化する環境に適応して繁栄するのを支援するというIFCの能力も顧客が挙げるIFCのもうひとつの比較優位です。

### コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス評価もまた新興企業のベスト・プラクティスの達成と成長を支援するIFCの取り組みの重要な部分です。同時にそれは、IFCの利益と他の少数株主の利益を長期にわたり保護するものです。

コーポレート・ガバナンスは、腐敗した商行為を回避しようとする企業にとって必要不可欠なツールです。全世界80

### 長期的パートナーシップの構築

	06年度	05年度
契約調印数に占める国内出資者の割合	63%	66%
南南協力契約調印額*	673百万ドル	484百万ドル

\* 他の開発途上国へ投融資を行っている新興市場に拠点を置く会社への投融資契約調印額。

## アルゼンチンの AGD が IFC クライアント・リーダーシップ賞を受賞

毎年IFCは、IFCの使命に沿って持続可能な開発に大きく貢献し、多大の成功を収めた企業顧客の功績を認め、クライアント・リーダーシップ賞を贈ります。今年度の受賞者は、アルゼンチンの大手農業関連産業グループで、1986年からIFCの顧客であるAceitera General Deheza (AGD)です。

AGDは、アルゼンチン最大の家族経営の油糧種子とその関連製品の輸出業者で、同社の2006事業年度の収入は16億ドルを超え、2,250人以上の従業員を抱えています。同社はセクター最大の利益を生み出し、厳しい投資環境や深刻な経済危機にもかかわらず、成功し続けています。農村地域の農家と仲買人の大規模ネットワークはAGDのおかげで成長と繁栄を続けています。

AGDは、アルゼンチン企業が通常のトレード・ファイナンスを利用できなかった2001～2002年時点における1億ドルの長期ファイナンス・パッケージを始め、



AGDより写真提供

IFCの融資と出資による支援を受け、国際競争力も高めています。IFCは、AGDとそのパートナーが進めるアルゼンチンの輸出インフラストラクチャーの整備や油糧種子加工産業の育成事業にも投融資を行っています。鉄道システムの改善、最先端の設備を備えた港湾建設、内陸部の貯蔵能力の増強を通じ、サプライ・チェーン全体にその恩恵を施しつつAGDは、輸送・取扱コストの節減を実現しています。

AGDは、主要工場のあるGeneral Deheza市の良き企業市民です。同社は地元の学校

を援助しているほか、総合保健医療サービスや、高齢者市民への社会扶助や、障害児の保護を提供する団体と協力しています。同社は、従業員に継続的研修と扶養家族も含めた医療保険を提供しています。

AGDの成功は、一つの会社が、事業の形成のみならず、地域や産業セクターさらには国を支援することにおいても、そしてまた国際市場の扉を開けさせることにおいても、変化を生じさせる力があることを示しています。IFCはAGDの長年のパートナーであることを誇りに思います。

カ国以上の国々の企業に対してIFCが提供する取締役会のあり方、株主の権利、内部統制環境、透明性、情報開示に関する技術支援は、IFCを新興市場におけるコーポレート・ガバナンスのリーダーにしています。過去10年間にIFCは、アゼルバイジャン、中国、グルジア、ロシア、ウクライナでの主要なプロジェクトを通じてコーポレート・ガバナンスに関する知見を共有してきました。また私たちは、東アジアとラテンアメリカでコーポレート・ガバナンス・フォーラムも主催しました。IFCのコーポレート・ガバナンス教材は世界の75のロースクールやビジネススクールで使用され、次世代の企業家に強力なコーポレート・ガバナンスの価

値を教えています。

民間セクターへの支援に加え、IFCは、各国政府関係者、規制当局者、株式市場の関係者さらに関連機関の長にもコーポレート・ガバナンスに関する助言を提供しています。本年度中東においてこうし

たプログラムを大幅に拡充しました。エジプト (p.76参照) とパキスタンで、これらの取り組みと新しいイニシアティブの開始のために担当職員の数を増加しています。

**IFC は最も急速に外国直接投資が伸びているセグメントである開発途上国へ投資しようとする新興市場の企業を支援しています。**



IFCの技術支援は、インドネシアのジャワ島で持続可能な木材を利用して家具作りを営む人々に役立てられています。

AGUS DURIANI

## 新世代の持続可能性基準の導入

IFCは、持続可能性のいくつかの分野で指導的な立場を確立しています。最近その強化が図られた社会・環境持続可能性に関する基準(p.30-31参照)はその最たるものです。持続可能性は、IFCの長期的開発効果支援能力および企業や金融機関のより良い業務への取り組みの土台です。IFC以外の国際金融機関は、エクエイター・プリンシプルズ(赤道原則)を採択することによりIFCの先導に従っています。このエクエイター・プリンシプルズはIFCの基準に基づいて改定されました。これらの金融機関は開発途上国のプロジェクト・ファイナンスの80%以上を担っており、改定されたエクエイター・プリンシプルズを全ての産業セクターの資本コスト1,000万ドル以上の民間資金によるプロジェクトに適用

することとしています。その結果、エクエイター・プリンシプルズ—引いてはIFC—は、プロジェクト・ファイナンスにおける社会・環境パフォーマンスの事実上のグローバルスタンダードとなっています。IFCは、エクエイター・プリンシプルズ採択銀行と協力し、二国間・多国間機関を含む他の金融機関のエクエイター・プリンシプルズの採択推進にも取り組んでいます。

### 鉱物資源採掘産業

石油や鉱物価格の高騰による投資拡大に伴い、IFCの資金と社会・環境分野での専門知識に対する鉱物資源採掘産業からの需要が増大しています。このセクターへの自己勘定からの契約調印額と協調融資額を合わせた金額は、本

年度6億7,100万ドルに達し、昨年度の3億1,400万ドルに比べ2倍以上の伸びを示しています。特に中小および地場投資家への資金提供の伸びは、際立っています。同時にIFCは、再生可能エネルギーや天然ガス・エネルギー・プロジェクトへの投融資も増大させています。IFCは、ガバナンス問題が最重要な課題となっている鉱物資源採掘産業の持続可能な成長の分野において指導的地位を大いに拡大しています。世界銀行グループは、世界20カ国の政府と協力し、鉱物資源採掘産業透明性イニシアティブを実施しています。これは、石油・ガス・鉱業からの企業の納付額と政府収入の完全な公表と検証を通じて、資源の豊かな国のガバナンス改善を支援する取り組み

### 持続可能性を通じた先導

	06年度	05年度
持続可能なエネルギー分野でのIFC契約調印額*	393百万ドル	221百万ドル
IFCの契約調印によってもたらされた持続可能なエネルギー分野での投融資総額	18億ドル	832百万ドル

\* プロジェクト・コスト総額の中の再生可能なエネルギーあるいは省エネルギープロジェクト部分で表現された部分の割合に相当するIFCの投融資の推定分

## 鉱物資源採掘産業の持続的成長

地域に深く関わり、地域の権利を拡大し、地域の能力を開発することは、単に鉱物資源採掘産業への投融資の成功のみならず、油井、パイプライン、鉱山それぞれの寿命を超えた持続可能な開発のためにも不可欠です。

IFCは、鉱物資源採掘産業プロジェクトが地域社会に与える長期的開発効果の向上のために1,000万ドルの契約調印を行いました。地域開発ファシリティ・イニシアティブは、利害関係者、地域の財団、地方や地域のガバナンスの関係者の能力開発および、地場の供給者や小規模企業の開発、さらに環境、ジェンダー、HIV/エイズに関

するプログラムを含んでいます。

例えば、グアテマラでこのイニシアティブは、Marlin鉱山の環境への影響を監視するための幅広い利害関係者の代表から構成される地域密着型の監視委員会に資金提供を行っています。この取り組みは、グアテマラ国内各地での地域社会と鉱物資源採掘産業の間の建設的な対話のモデルになると期待されています。最近、同イニシアティブは、鉱山事業と地域社会を一体化する、地域で最も革新的な取り組みとしてLatin American Mining Organizationから表彰されました。



CITIZENS DEVELOPMENT CORP'S INTEGRATED COMMUNITY DEVELOPMENT PROJECT. より写真提供

このような小規模事業主も、グアテマラのサンミゲルの Marlin 鉱山が支援する地域プロジェクトを通じ、マイクロファイナンスを受けました。

みです。

政府が受け取る額と企業が支払う額を知ることは、これらの収入の用途について意思決定者に説明責任を果たさせるための重要な第1歩であり、このセクターへのIFCの投融資は、透明性と持続可能性の向上を支持するIFCの姿勢が表れています。

も資金提供して支援を行う予定です。ギニア政府は、2005年に鉱物資源採掘産業透明性イニシアティブの原則を受け入れることを公式に表明しており、2006年3月には鉱業セクターからの政府収入の未監査報告を公表しています。

- 持続可能な鉱物資源採掘プロジェクト

策およびパフォーマンス基準を確実に順守させる予定です。これらの基準を早い段階で導入することにより、プロジェクトが建設、生産の段階へ進む中で、円滑な基準の順守が期待されます。

## 石油・ガス・鉱業プロジェクトの長期的開発効果を改善するために、IFCは環境、社会、地域プログラムに1,000万ドルの契約調印を行いました。

- 2006年度に、IFCは、政府への支払い内容を全て国内向けに開示すること表明したRio Tintoの子会社であるギニアのSimferの株を5%取得することに合意しました。IFCは、ギニア東部で高品位鉄鉱石の採掘に関するフィージビリティ・スタディに

トを支援するために、本年度IFCは、アフリカやアジアの中小鉱業・探鉱プロジェクトの初期段階の株式投資等を行う予定のAsian Lion Fundへ600万ドルを資本提供することに合意しました。このファンドは、その出資先の会社にIFCの社会・環境政

## 女性企業家のエンパワーメント（権限付与）

IFCは、ジェンダー問題を業務全般に組み入れ、未だ使われていない新興市場の女性の能力の活用支援を行っています。IFCのジェンダー起業家市場イニシアティブは、主にアフリカと中東で女性のファイナンスへのアクセスの拡充、IFCの投融資プロジェクトの付加価値の増大、また政府の要請に応じて民間セクター開発に女性が全面的に参加する上でのジェンダー固有の障害の調査に重点を置いています。例えば本年、女性起業家への金融を行っているナイジェリアのAccess Bankを支援する目的で1,500万ドルのクレジットラインと技術支援を提供しました。



IFC のアドバイザー・サービスは、サモア政府が国営航空会社の運航継続のために新たな民間セクター・パートナーを見つけるのを支援しました。

## 官民パートナーシップのためのアドバイスへの需要が急増

民間セクターの開発機関であり、かつ世界銀行グループのメンバーである IFC は、インフラストラクチャー・プロジェクトに商業性と公共の利益を両立させながら民間セクターを参加させる仕組みを構築する特異な能力を有しています。IFC のアドバイザー支援に対する需要は過去3年間に150%の伸びを示しており、アドバイザー・マンドートの数が3年前の12件から2006年度末は30件に増えました。この活動はアフリカと中東に最も集中しています。

こうしたマンドートは世界銀行のセク

ター改革に伴い IFC に出されることが多く、その後の民間投資の基礎造りを行います。IFC のアドバイザー・サービス担当チームは、公共的部分を含むプロジェクトの組み立てを支援します。最近の例としては、ケニア、ウガンダ間の国際鉄道権益の売却があります。そこでは世界銀行の貸付により鉄道従業員の移転と業務再編が支援される一方、IFC は、入札プロセスに関してアドバイスを提供しました。また本年は、フィリピン政府に対し配電網以外の電力供給の民営化についてアドバイスし、さらにカメ

ルーン政府とサモア政府に国営航空会社の部分売却についてもアドバイスしました。

### インフラストラクチャーへの投融資

インフラストラクチャー整備は、開発途上世界にとって必要不可欠なものです。清潔な水や安全な衛生環境がないために、毎日何百万人もの人々の命が危険に晒されています。無数の企業が作業工程に必要な信頼できる電力を得られず、製品を市場へ送るために必要なインフラストラクチャーの不備に苦し

### インフラストラクチャー、保健衛生・教育分野での民間セクター成長の制約に取り組む

	06 年度	05 年度
情報通信技術分野の契約調印額	366 百万ドル	200 百万ドル
インフラストラクチャー分野の契約調印額	955 百万ドル	599 百万ドル
保健衛生・教育分野の契約調印額	126 百万ドル	81 百万ドル
地方政府プロジェクト契約調印額	52 百万ドル	—
公共インフラストラクチャー・サービスへの民間セクター参加を促進するアドバイザー・マンドートの数	30	25

## ナイジェリアの大学のための情報技術

民間セクターが提供し得なかったサービスを実現したSocketWorks Limitedを、IFCは支援しています。これはナイジェリアの10大学の管理プロセスの自動化や、15万人の大学生に海外の図書館を含めたオンライン学習ツールへのアクセスを提供したりするものです。IFCの250万ドルの地場通貨建て融資と継続的な技術支援を受けて、SocketWorksは、大学管理プロセスの導入先をさらに14カ所増やし、オンライン・サービスを提供する学生の数を倍増し、さらにナイジェリア以外のアフリカ諸国への拡大を計画しています。

SocketWorksは、大学と長期契約（多くは10年間）を結んでいるため、一般にナイジェリアの民間セクターの企業で得られる期間より長期にわたる資金調達を必要としていました。同社は、各大学に自家発電設備、空調設備、電気配線、機材

とソフトウェアなど重要なインフラストラクチャーを契約期間中提供し、維持することを契約しています。SocketWorksのCollegePortal技術をインストールしたコンピュータを大学教職員に提供し、ソフトウェアに関するトレーニングを提供し、さらに大学の様々な情報のデータベース化も行います。学生がナイジェリアの銀行システムを介して支払う授業料には、SocketWorksのサービス料20ドルも含まれています。

IFCは、2003年からSocketWorksへ技術支援を提供しています。経営力の強化とコーポレート・ガバナンスの改善に加え、IFCの技術支援は、同社が提供する商品を増やし、ナイジェリア以外のアフリカ諸国へビジネス・モデルを持っていく上で役立っています。同社は最近シエラレオネに51%出資の子会社を設立しました。



んでいます。

2006年度、IFCのインフラストラクチャー分野での契約調印額は、前年に比べ50%以上増えました。総額9億5,500万ドル、本年度契約調印総額のほぼ15%に相当します。この増加は、プロジェクトの機会を探しているインフラストラクチャー関連企業への取り組みを早める私たちの努力を反映しています。

### 地方政府へのファイナンス

加盟各国における政府サービスの地方分権化の進展は、世界銀行グループに市・州・省レベルの政府を支援するという新たな機会をもたらしました。2003年に創設されたIFCの地方自治体ファンドは、世界銀行グループがソブリン保証無しで地方政府の貸付需要に応える第1段階の対応です。2006年度に、IFCは、グアテマラ、メキシコ、南アフリカ等の

国の地方政府プロジェクトに5,200万ドルの契約調印を行いました。IFCの地方自治体ファンド・プロジェクトは非常に大きな開発効果を持つため、私たちは、この分野での支援を増やし、さらなる支援の機会を求めています。

### 保健衛生・教育

IFCの保健衛生・教育分野への契約調印額は昨年度と比べ50%以上増え、1億2,600万ドルに達しました。この分野でIFCは、病院、学校、大学の設備投資資金の提供と、教育サービスへの技術支援の経験を引き続き積んでいます。IFCは、市場に革新をもたらし、ベスト・プラクティスを示し、そして公共セクターの目的に合致する機関を支援することを目指しています。

IFCは、学生ファイナンス・イニシアティブを推進する革新的な方法を

模索する一方で、公共機関と直接協力して必要性の高いサービスを提供する民間企業の支援も行っています。進行中の事業としては、中国各地の公立病院の看護師が医療訓練を受けられるように、民間セクターが遠隔教育技術を提供するプロジェクト等があります。

IFCは、二国間・多国間開発機関としては特異な民間の保健衛生・教育分野での経験を活用し、世界の民間機関と投資家とのネットワークと情報のセンターとなることを目指しています。本年度、IFCは中国財政部と共に、教育分野における官民パートナーシップに関する会議と技術・職業教育と訓練に関するワークショップを開催しました。またIFCは、第2回私立高等教育への投資のための国際フォーラムを開催し、世界30カ国135の機関の代表者の出席を得ました。



TOREK FARHADI

## 地場金融市場の開発により資金へのアクセスが拡大

よく機能する金融市場の開発は、好調で持続的な経済成長の実現には不可欠です。IFCの金融セクターへの投融資は2006年度に13%増え、25億ドルに達し、IFCのポートフォリオの中で最も大きな割合を占めています。銀行は全ての地域において最も重要なIFCのパートナーですが、IFCの開発使命の中心にあるのは、リース会社、株式市場、格付け機関、ベンチャー・キャピタル・ファンド、マイクロファイナンス機関を含む全ての金融機関です。

### 金融セクター技術支援

2006年度末時点で、IFCの金融セクターへの技術支援活動には133のプロジェクトが含まれていました。具体的には、金融機関への技術支援や、債券や証券市場整備等の金融インフラストラクチャーの整備支援等を実施しています。本年の成功事例としては、インドネシアで資金へのアクセスが改善され、150を超える中小企業が、地場銀行から1,050万ドル相当の新規融資を受けるようになるのを支援しました。IFCは、直接投資と技術支援の両方によって、資金へのアクセス拡

大に必要な金融インフラストラクチャー整備の支援も行っています。本年度私たちは、援助国資金によるグローバル・クレジット・ビューロー・プログラムを通じて世界38カ国で個人信用情報機関を作るのを支援しました。

### 金融仲介者への支援

新興市場やフロンティア国では、銀行セクターは一般に正規の金融システムの大部分を占めています。IFCは銀行に十分な資本とマネジメント能力とインフラストラクチャーを提供し、また強力な

### 地場金融市場の支援

	06年度	05年度
金融セクター契約調印総額	25億ドル	22億ドル
住宅金融契約調印額	586百万ドル	565百万ドル
地場通貨建て契約調印額	13億ドル	820百万ドル
金融セクターでの技術支援とアドバイザー・サービスの件数	133	135

## 民間資本の新しい源泉

### 1980年代のIFC：新興市場成長ファンド

1980年代、投資家の関心を「第3世界投融資基金」に向けた努力をする中で、IFCは「新興市場(エマージング・マーケット)」という新語を生み出しました。そして新しい資産クラスが成長すると平行して、この言葉が広く受け容れられてきました。当事、多くの投資家は、市場の脆弱な取引インフラストラクチャーと規制の不備を理由に、開発途上世界の未成熟な株式市場を、非常に投機的だと見ていました。1984年、IFCは、韓国株を対象とした6,000万ドルの単一国ファンドを設立し、かつ共同引受して、ウォー

ル・ストリートの懐疑的な態度を尻目に販売しました。その後間もなくそれより小規模のタイの単一国株のファンドも設立しました。そして全ての開発途上国で株式市場を創設することを旨とした技術支援を続けました。高い評価を受けているアセット・マネジメント会社であるCapital Groupと協力し、IFCは、グローバル・ファンドに自己資金を投じました。これにより、今日世界で分散投資される資産規模5,000万ドルの新興市場成長ファンドへの年金基金や保険会社の参加を早めることができました。

同時にこれらの取り組みは、新たな産業の創設にも一役買いました。20年後の今日、この産業は開発途上国の株や債券に毎年600億ドルを投資しています。このプロセスの中で、巨額の新たな民間資金は、開発途上国の企業に、力をつけさせ、それらを国際金融の舞台に引き上げる一方、雇用創出と貧困削減に貢献してきたのです。

コーポレート・ガバナンスの実践を求めることによって銀行の強化に取り組んでいます。IFCは、財政的・商業的に健全かつ社会・環境面での持続可能性を持つ開発途上の加盟国の銀行に投融資を行っています。

マイクロファイナンス・プログラムは、経済活動の活性化、特に正規の金融機関へのアクセスが限定的あるいは全く無い分野において、重要な役割を果たすことができます。IFCは、できるだけ多くの零細・小規模企業に支援が届くように、マイクロファイナンス機関を支援し、また民間銀行に小規模企業向けの貸付サービスを設けるよう働きかけています。2006年度末には、零細・中小企業への資金提供支援の投融資は、IFCの金融市場関連の契約調印額の60%を占めました。同年中にマイクロファイナンス・プロジェクトの契約調印額は1億3,200万ドルに達しました。2005年12月31日現在、IFCの支援を受けるマイクロファイナンス機関の

貸付残高は2,500万ドル、累計41億ドルに達します。IFCのマイクロファイナンス投資は、金融と技術支援を組み合わせる実施することが一般的です。

中小企業向けの契約調印総額は2006年度末時点で14億ドルに達しています。

ています。地場通貨建て融資は、国内の借入人の資産と負債をマッチさせ、外貨での借入に伴うリスクを排除するのを助けます。IFCは地場通貨建て融資の資金フローを米ドル建てにヘッジできる通貨全てについて、地場通貨建て融資および

IFCのマイクロファイナンス貸出先として74のマイクロファイナンス機関があります。これらの機関は、250万人の借入人に平均1,600ドルの貸付を行っています。

#### 地場通貨建て融資

本年度のIFCの契約調印額の20%が地場通貨建てです。私たちは、ストラクチャード・ファイナンス商品やデリバティブを利用した地場通貨建て商品によって地場通貨建て融資を積極的に進め

ヘッジを提供します。地場通貨建て融資を提供する能力を強化するために、サハラ以南アフリカ地域でデリバティブを利用した商品を開発し、中国、パキスタン、ウクライナへこれらの商品を提供することの承認を申請中です。



IFCは、今年多国間機関としては初めて中国でパンダ債券を発行し、中国の資本市場の発展を支援しています。

## 業務レポート

IFCは、開発途上世界の民間セクター・プロジェクトに融資や出資を行う最大の多国間機関です。2006年度には、自己勘定から67億ドルを契約調印し、協調融資から16億ドル、そしてストラクチャード・ファイナンスから13億ドルを資金動員しました。今年IFCが資金支援した民間セクター・プロジェクト総額について見ると、IFCの自己勘定による契約調印額1ドルが、他の資金源からの2.88ドルの金融に結びついたこととなります。

IFCは、66カ国で284件の投融資プロジェクトを支援する一方、主として企業の技術的専門性の強化と、民間セクター業務の環境改善と持続的可能性を向上させるために、400件以上の技術支援事業を新たに承認しました。

IFCは、1956年の設立以来、毎年利益を計上してきました。ビジネスは、利益を上げ、雇用と富を創出しなければなりません。IFCの財務結果は、世界の新興市場の企業の成功と発展を反映しています。

IFCの業務は、新興市場の経済・金融・環境・社会の持続可能性の向上に貢献しています。今年、IFCの契約調印額の約4分の1が、低所得国あるいは高リスク国でのプロジェクトで、厳しい環境の中でも、民間企業が育つことを示しました。

IFCはまた、企業や経営者のニーズに応え新しいプログラムや商品を投入し、IFCの開発効果の向上の度合いの測定に向けて大きな前進を遂げ、さらに社会・

環境的リスク管理を顧客企業の業務と一体となる要素として採用することを顧客企業に求める新基準も導入しました。

### 財務結果の概観

2006年度のIFCの財務実績は、引き続き近年の堅調な基調を維持しています。2006年度の技術支援とパフォーマンス・ベース贈与のための支出を控除した後の収益（営業収益）は14億ドル

#### IFCの主要な損益項目

(百万米ドル)

	06年度	05年度
対顧客業務—営業収益	\$1,231	\$1,759
融資—営業収益	106	323
出資・準出資—営業収益	1,318	1,425
投融資以外のアドバイザー・サービス	(16)	(8)
技術支援およびパフォーマンス・ベース贈与費用	(90)	(38)
一般管理費その他	(88)	57
IFC財務運用—営業収益	178	194
IFC営業収益	1,409	1,953

で、史上最高であった2005年度より5億4,400万ドル減少しました。IFCの営業収益は、対顧客業務（主にコーポレート・ファイナンスとプロジェクト・ファイナンス）の収益と財務運用による収益から営業上の経費を控除したものです。全体として、平均自己資本営業利益率は2005年度が22.6%であったのに対して、2006年度は13.7%でした。

トレーディング以外の金融商品の損失を含む純利益は、2005年度の20億ドルに対して、2006年度は13億ドルでした。2006年度は、融資の金利および手数料収入、キャピタル・ゲイン、株式配当の全てが増えている一方で、純利益が減少しています。これは、2006年度は貸倒引当金の引当が前年に比べて少なく、また2005年度には株式の評価替えによる臨時収入があったことによるものです。

流動資産ポートフォリオは、いずれもベンチマークを上回る成績を上げ、年間

**ビジネスは、利益を上げ、雇用と富を創出しなければなりません。IFCの財務結果は、世界の新興市場での企業の成功と成長を反映しています。**

の収益はプラスとなりました。対応する調達コストを差し引いた流動資産からの収益は、2005年度は、市場調達流動資産のスプレッド収入が1億2,400万ドル、流動資産からの収益総額は、1億9,400万ドルであったのに対し、2006年度はスプレッド収入9,200万ドルを含め、総額1億7,800万ドルでした。

IFCの自己勘定による新規契約調印額は、5億8,800万ドルの調印済保証を含め、67億ドルでした。これは2005年度がその前年の48億ドルから13%増加して54億ドルとなっていたところからさ

らに25%増えたこととなります。2006年度IFCは、さらに協調融資とストラクチャード・ファイナンスにより、28億ドルを資金動員しました。2005年6月30日現在123億ドルであった投融資残高は、2006年6月30日現在134億ドルに達しています。このような業務の伸びに伴い、IFCの通常の営業費用も増えています。通常の営業費用は、2005年度には前年度比15%増の4億400万ドル、2006年度にはさらに17%増加して4億7,200万ドルに達しました。

#### 投融資活動

##### 投融資およびポートフォリオ活動

オフバランス・シート項目の保証およびリスク管理商品を含むIFCの契約調印済ポートフォリオは、2005年度末の193億ドルから11.9%増え、216億ドルになりました。このうち約76%を融資(164億ド

ル)が占め、次に出資が39億ドルで18%を占めています。保証商品は12億ドルで、契約調印済ポートフォリオの5%、リスク管理商品は1億5,900万ドルで約1%を占めています。これに加え、IFCが協融組成した融資の形で、51億ドルを協融参加機関のために保有し、管理しています。2006年度末における契約調印済ポートフォリオは、112カ国の1,368社に対する融資、出資、リスク管理商品および保証から構成されています。これらの投融資の約4分の1が低所得国あるいは高リスク国でのプロジェクトに向けられ

ています。

新規契約、返済、売却、解約、期限前返済、償却、換算調整を考慮後の契約調印済ポートフォリオの純増額は、23億ドルでした。融資の元本返済および期限前返済額は合計約28億ドルで、5億3,900万ドルの出資が売却または償却されました。

IFC自己勘定による2006年度の実行済残高合計は、2005年度末の123億ドルから、134億ドルに増えました。本年度中に、実行済融資残高は9%、実行済出資残高は10.2%それぞれ増加しました。

##### 契約調印と投融資の実行

IFCの自己勘定による新規契約調印は、ヨーロッパ・中央アジア地域(31%)、ラテンアメリカ・カリブ海地域(26%)、東アジア・太平洋地域(15%)に集中しました。サハラ以南アフリカ地域と北アフリカ・中東地域での契約調印は合わせて2006年度の契約調印全体の20%で、2005年度の14%から増えています。南アジア地域は今年度契約調印総額の8%を占めています。新規契約調印額が最大のセクターは、金融・保険(38%)で、公益事業(8%)がこれに次ぎました。

IFCの自己勘定による実行額は、2005年度の35億ドルから44億ドルに増えました。融資の実行額は37億ドル、出資実行額は7億1,100万ドルでした。またIFCの協調融資に参加している金融機関のために、13億ドルの貸出実行を行いました。

##### 融資と仲介サービス

IFCは、自己勘定から一般的に7~12年の期間の融資を行ってプロジェクトや企業に資金提供します。この期間は20年に及ぶこともあります。IFCは、仲介役を務める銀行、リース会社、その他の金融機関に対して、例えば中小企業などへのオン・レンディングを目的とした融資も行っています。IFCは、顧客のニーズに合わせて主要通貨立てでも、地場

通貨建てでも融資を行っています。IFCは、スワップ取引等を使って通貨リスクをヘッジしています。

2006年度新規融資として50億ドルを契約調印しました。2006年度の融資か

クターのプロジェクトが2006年度の協調融資の約4分の3を占めています。

#### 出資と準出資

IFCは、自己資本を使ってリスクをと

#### ストラクチャード・ファイナンス

ストラクチャード・ファイナンス商品は、本来ならすぐには入手することが困難な費用対効果の高い金融をIFCの顧客に提供します。IFCが提供している商品には、部分保証、ストラクチャード流動性ファシリティ、ポートフォリオ・リスク移転、証券化等があります。IFCはAAA/Aaa格付けを生かしたこれらの商品によって、顧客の金融源の多様化、償還期限の延長、希望通貨による金融を支援しています。

2006年度IFCは、特に地場通貨での取引を中心に、革新的なストラクチャード・ファイナンスによる各種提案を既存の顧客や新規顧客に提供し、新興市場での存在感を引き続き高めました。本年度実施された多くの重要な取引の中には、グアテマラ、ロシア、南アフリカの地方自治体向けの部分保証が含まれています。そこでIFCは革新的な商品を提供し、顧客のインフラストラクチャー・プロジェクトの実施を可能にするとともに、各国の資本市場の発展に貢献しました。またIFCは、バルカン諸国、マダガスカル、モロッコでマイクロ・ファイナンス機関や中小企業への地場通貨建て融資のポートフォリオに対して、リスク共有ファシリティを提供しました。

メキシコでは、GMAC Financieraがまとめた住宅ローン債権のポートフォリオを対象に、初めてのメキシコ・ペソ建て住宅ローン債権の証券化を行いました。ロシアでもIFCが信用を補完して、初めての市場売却型の消費者ローンの証券化を行い、Russian Standard Bankから発行しました。サウジアラビアでは、Kingdom Installment Companyの住宅ローンを担保とする湾岸協力会議諸国初の証券化を行いました。

その他2006年度には、リスク共有ファシリティを含むストラクチャード・ファイナンス取引により、ブラジル、中国、コロンビア、ハンガリー、ペルー各国の

## ストラクチャード・ファイナンスを通じて本年は13億ドルの資金を動員し、3億2,700万ドルの契約調印を行いました。

らの金利および手数料収入は（保証料を含む）、2005年度の6億6,000万ドルから22%増え8億700万ドルになりました。

2006年度の貸倒引当金合計額は8億9,800万ドルで、融資実行済ポートフォリオに占める割合は、2005年度の9.9%から8.3%に低下しました。この減少は、1億1,100万ドルの償却と1億2,000万ドルの一般貸倒引当金の積み増し後に、特定引当金が2億1,000万ドル減少したことによるものです。

#### 協調融資

IFCの協調融資は、商業銀行や他の金融機関が開発途上国の民間セクター・プロジェクトに参加することを支援します。協調融資は、追加的資金を動員し開発効果を高める重要な役割を果たします。IFCは契約上協調融資の貸手となります。参加金融機関は、IFCの優先的債権者の地位の恩恵を受ける一方、プロジェクトの商業上の信用リスクはIFCと共に負担します。本年度の協調融資の新規契約調印額は、前年度比約50%増の16億ドルでした。うち約半分が、ラテンアメリカ・カリブ海地域のプロジェクトに関するもので、残りはアジア、ヨーロッパでのプロジェクトでした。一般製造業、インフラストラクチャー、石油・ガス・セ

り、プロジェクト対象企業、プロジェクトのその他の主体、金融機関、ポートフォリオおよびプライベート・エクイティ・ファンドへ投資を行います。株式投資は、長期的なリスクを想定し、かつ利潤に参加しつつ、同時に株式投資は、企業の改革支援、特にコーポレート・ガバナンスの支援をする機会を提供します。企業家や民間企業が最も必要とする長期にわたる支援を提供します。

一般にIFCの持ち株比率は5～20%です。IFCは、長期的投資を行い、普通は保有株式を手放す際は、相対または、流動性がある場合、株式公開後に資本市場で売却します。IFCは、負債または資本のいずれかの性格を持つ準出資商品を使った投資も行っています。出資・準出資は、IFCの内部留保を資金源として行っています。

2006年度の出資ポートフォリオの配当等収益は、9%減少し12億ドルでした。株式の売却によるキャピタル・ゲインは、2005年度の7億2,300万ドルより増え、2006年度は9億2,800万ドルになりました。

IFCは、2005年度に株式投資の減損評価プロセスを概ね時価評価を基準とする方法に変更しました。2006年度の株式投資の評価損は5,700万ドルでした。

顧客に対して地場通貨での資金の動員を行いました。

### 流動資産管理

2006年6月30日現在の貸借対照表上の流動資産の総額は、前年度が133億ドルであったのに対して、127億ドルでした。流動資産の大部分は米ドル建てで保有されていますが、投融資の実行のためにユーロ資産や円資産も小額存在します。流動資産の総額は、IFCのAAA/Aaaの格付けと矛盾しない範囲で、新規資金調達と投融資の実行のペースを見て決定します。

### 資本と内部留保

IFCの自己資本は、内部留保と払込資本から構成されています。IFCの払込資本は変わらず24億ドル、一方内部留保は、本年度の13億ドルの純利益により87億ドルに増加し、2006年度末のIFCの自己資本額は111億ドルになりました。

2006年6月30日現在における払込資本、内部留保（利用可能な資本として勘定しない科目を調整）および一般引当金とオンバランス・シートとオフバランス・シートのリスク・ウェイト調整後の資産を比較したIFCの自己資本比率は54%です。これは、1994年5月に理事会によって採択された自己資本比率フレームワークで規定されている30%の最低限を大きく上回っています。IFCのレバレッジ・レシオ（借入金および保証残高の払込資本と内部留保の合計額に対する比率）は、1.5対1で、IFCの財務政策で規定されている4.0対1の範囲に十分収まっています。

IFCの財務能力は、その払込資本、内部留保、一般貸倒引当金から構成されます。これらの金融資本によって、IFCのトリプルAの格付けを保つ体力と景気循環に逆行する役割を演じる体力が維持される一方、これらによってIFCの現下のビジネスが支えられ、その中期的成長機会や戦略的計画への適切な対応が行われ、そして加盟国を見舞う危機、あるいは

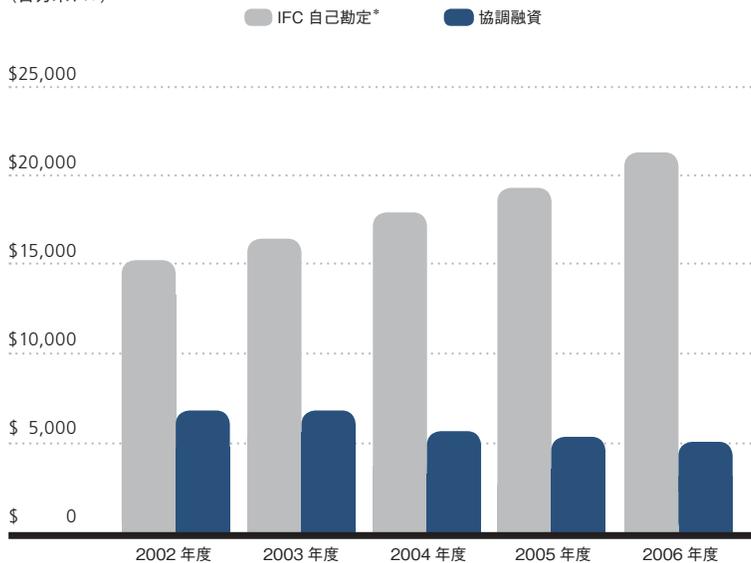
### IFCポートフォリオの内訳

2006年6月30日現在（百万米ドル）

	2006	2005
IFC 自己勘定による契約残高	\$20,318	\$18,108
融資	16,407	14,781
出資	3,912	3,327
オフバランスシート・エクスポージャー (リスク管理商品および保証商品)	1,309	1,146
IFC 自己勘定による契約残高合計	21,627	19,253
協調融資契約残高	5,079	5,283
実行済残高	13,408	12,276
未実行残高	6,911	5,832

### 2002～2006年度のIFCの契約済ポートフォリオ

(百万米ドル)



\* IFC 自己勘定の合計にはリスク管理商品と保証を含む。



AGDより写真提供

は、より広範囲の市場の低迷を持ちこたえるバッファーが支えられるのです。

IFCは、これらの目的を達成するのに十分な能力を中期的に有していると考えられています。2004年度からは、内部留保の一部を技術支援に割り当てることが認められました。このように実現利益の機能も拡充しています。

### 資金調達管理

IFCは、国際資本市場で債券を発行することにより融資のための資金を調達しています。IFCは、多くの新興市場の地場通貨で債券を発行した最初の国際機関、あるいは最初の複数の国際機関の一つです。IFCの投融资の大半は米ドル建てです。しかし債券の発行は、資金調達の多様化、調達コストの軽減、そして地場資本市場の育成のために、様々な通貨で行っています。IFCの融資の大半は米ドル建て変動金利で行われているため、借入の大半は米ドル建て変動金利にスワップされます。2006年度、IFCは国際資本市場で、18億ドル相当を調達しました。米ドル建てグローバル・ボンドが10億ドル、残りは他の様々な市場で調達しました。(2006年度債券発行額通貨別内訳はP.2を参照)

2005年10月、中国国内市場で債券を発行しました。総額11億3,000万人民币元(1億4,000万ドル相当)の10年債は、中国国内の銀行間市場で機関投資家向けに販売されました。この債券の発行は、中国債券市場の拡大を促進し、資本市場への民間企業のアクセスを促進する

ことによって、中国資本市場にとって重要な一歩となりました。

2006年度の技術支援およびアドバイザー・サービス実行額のうち約5,500万ドルは、技術支援およびアドバイザー・サービスのための資金供与メカニズムを通じて、IFCの内部留保から支出されました。援助国パートナーからも資金の提供がありました。理事会の承認はまだですが、2006年度の内部留保のうち2億3,000万ドルを技術支援およびアドバイザー・サービスにあてることを計画しています。

### リスク管理

IFCのポートフォリオ上位10カ国に対するエクスポージャーは、2000年度末の57.4%から2006年6月30日には52%に減少しました。IFCは、毎年エクスポージャーのレビューを行いリスクが集中してきたと見られる時には必要に応じて管理を強化しています。最大エクスポージャーの水準に関する諸ガイドラインが契機となり、リスクと資金吸収能力に基づくレビューが始まります。またガイドラインは、セクター別エクスポージャー、債務者ごとの上限、商品ごとの上限の指針も示しています。

IFCの業務環境は高リスクであるため、その実効性と健全な開発効果を及ぼすことができるかどうかは、社会、環境、コーポレート・ガバナンスの側面を含む様々なタイプのリスクを管理できるかどうかにかかっています。ポートフォリオの持続的・長期的成長、増大する取引量、

フロンティア国あるいはフロンティアセクターへの事業の一層の集中といったこと全てが、事業のプロフィールの変更に伴うリスクに鋭敏に対応し重点的に管理することを要求しています。

過去2~3年間、IFCは財務上、業務上、事業上それぞれのリスク管理を改善するための諸方策を導入してきました。IFCは、リスク管理機能を強化し、業務の一層の地方分権化を支援するため、実務面での見直しを始めました。見直しの最終的目標は、柔軟性と管理のバランスがとれ、変化する業務状況に適応できる組織と手続きを構築することです。リスク管理をより強固なものにするため、2006年7月1日からこれまでのポートフォリオ業務は切り離れた、リスク管理担当の副総裁職が設置されました。

IFCは、伝統的に、一般に認められている米国の一般会計原則(Generally Accepted Accounting Principles: GAAP)と国際財務報告基準(International Financial Reporting Standards: IFRS)に従い単一の財務報告と脚注を作ってきました。具体的な財務方針およびポートフォリオ方針の詳細は、第2分冊に収録しています。近年、主としてデリバティブとヘッジ関連の会計規則の違いにより、単一の財務諸表でGAAPとIFRS両方の要請に応えることが難しくなっています。IFCは、2008年度からIFRSを用いた財務報告の提示を再開する予定です。

## ポートフォリオ管理

IFCは、投融資事後監督の取り組みの一貫として、投融資契約の順守状況を詳細にモニターすると共に、プロジェクトの進行状況をチェックするために現地を訪問し、問題あるプロジェクトの解決策発見を支援しています。また、ポー

担する合意が得られるように交渉に努めます。例外的に、関係者が合意に達することができない場合、IFCは必要かつ適切な全ての手段を講じ、自己の利益を守ります。

IFCは、投融資ポートフォリオにかかる財務リスクとエクスポージャーを市場

## 技術支援および

### アドバイザリー・サービス

開発途上国の民間セクター企業の持続的な成長の促進という投融資商品の提供理由と同じ理由で、IFCは、技術支援およびアドバイザリー・サービスを提供しています。この業務を通じて、IFCは、投融資の機会の限られている地域の開発に貢献しています。IFCはまた、社会的・環境的ニーズに対応した新しいビジネス・モデルを他に先駆け開発・提供する点でユニークな機関となっています。

2006年度の技術支援およびアドバイザリー・サービスの支出額は23%以上増え、1億3,400万ドルでした。その大半が低所得国あるいは高リスク国での業務でした。資金提供が承認されたプロジェクトの約40%がサハラ以南アフリカ地域でのプロジェクトでした。IFCはまた、競争優位のある主要な事業分野に重点を置いています。承認されたプロジェクトの70%以上が金融へのアクセス向上と投資環境の改善を目的とする事業でした。

IFCは今年、業務戦略に合わせて、技術支援およびアドバイザリー活動を5分野に再編しました。この再編によって、技術支援業務の重点化が進んでいます。またこれによってIFCの知見と能力を梃子として、成功事例を複製する能力が強化されるでしょう。

### IFCの開発への貢献を測定する

開発の結果をモニターし評価することは、IFCプロセスの必要不可欠な一部です。IFC事業を評価する独立評価システムは、IFCを民間セクター業務を取り扱う多国間開発金融機関の中で最も優秀な

**Euromoney 誌は、地場債券市場開発の先駆者としての功績により、IFCを2006年度最優秀国家・国際機関借入者 (Sovereign Supranational Agency Borrower) に指名しました。**

トフォリオの監督を強化するために、全ての投融資部局で各ポートフォリオ・マネージャーの下にポートフォリオ監理ユニットを設置しています。この組織構造によって、問題を早急に発見し、対処することが容易となりました。投融資信用リスク格付システムも、このプロセスをサポートしています。IFCは、協調融資に参加している銀行に、緊密かつ継続的な協議の一環として、プロジェクトの進行状況を必ず定期的に知らせるようになっています。

問題が生じた場合、投融資担当部局がプロジェクトを評価します。深刻な問題のあるプロジェクトについては、特別業務局が適切な改善策を決定します。特別業務局はプロジェクトを継続しつつ問題が解決できるよう、全ての債権者および株主とリストラクチャリングの負担を分

ベースのリスク管理商品、ツール、戦略を用いて管理しています。これには、IFCの融資および出資ポートフォリオに関するヘッジ取引を行うための商品や投資買戻戦略が含まれます。全ての取引や戦略は、ダウンサイド・リスクからポートフォリオを守るという目標を共有しています。

IFC経営陣は、投融資部局のポートフォリオ管理ユニットのポートフォリオ・レビューの結果と勧告に基づいて特定融資引当金を決定します。ポートフォリオ全体の見直しは4半期に1度行われます。一般引当金は、IFC経営陣がモンテ・カルロ方式に基づくシミュレーション技法を用いて決定しています。IFCの外部監査人は、引当金の決定に関する勧告、政策、方法を精査しています。

\*列挙の順番は、多国間開発銀行の評価協力グループのコンサルタントが決定。

機関として位置付けています。\*公社、部局、そして職員個々人の目標と動機は全て、プラスの開発効果の達成の方向を向いています。IFCの業務と開発の成果測定をより一体化するために今年、IFCは、新しく投融資活動の開発効果を追跡調査するシステムを導入しました。各プロジェクトの承認プロセス段階で職員が開発結果指標を設定します。そしてプロジェクト・サイクル全体を通し、財務・経済・環境・社会それぞれのパフォーマンスに加えて開発効果指標の達成状況の追跡調査を行います。2006年度、1,200人の職員が開発結果の測定のための訓練を受け、IFCの投融資事業ポートフォリオのうち1,100件のプロジェクトの当初評価が完了しました。

IFCは、技術支援およびアドバイザー・サービスについても同様の手法で実施中の全てのプロジェクトの開発効果をモニターしています。より厳密な開発効果の評価のために、成功の度合いを参照するグループを試験的に作りしました。本年度開催した会議の場で、IFCはこれらの活動から得られた重要な発

見や教訓を職員、援助国、外部の評価専門家と共有しました。

IFCは、活動がもたらす開発効果の報告をすることにも努めており、2007年度の年次報告書から毎年、開発結果の報告を公表する予定です。

### 社会・環境持続可能性に関する新政策と新情報開示政策

IFCは今年、IFCの全投融資活動における社会・環境持続可能性の確保に使用する政策と運用基準の徹底的な見直しを完了しました。また新しい政策では、IFCの情報公開への取り組みが強化されています。

政策と基準を更新する作業は、IFCの実務面での前進の契機となり、また、これらに関心を持つ利害関係者が増える中で、政策と基準の明確さを増す機会にもなりました。この作業の一環として、史上最大の公開協議も行い、持続可能性分野における民間セクターの役割への進化する期待にIFCがきちんと対応するようにしました。新しい基準は社会的・環境的リスクの積極的管理が、

責任ある投融資活動の一部であり、また顧客企業の商業的成功を促進するものであるというIFCの信念を強化するものです。

新しい持続可能性フレームワークは3部から構成されています：

- IFCの新しい持続可能性政策は、顧客と協力・連携してプロジェクトのパフォーマンス向上を支援することは、IFCの責任であると規定しています。
- 社会・環境面のパフォーマンス基準は、プロジェクト運営上の顧客企業の役割・責任を規定するとともに、IFCの支援を受け続けることをプロジェクトの要件として規定しています。この基準では、プロジェクトの影響を受ける地域との協働関係を維持する上での不可欠な要素として情報開示に関する要件も提示されています。
- IFCの情報公開政策は、IFCの活動について情報を開示することはIFCの責任であると規定しています。

## IFCの技術支援およびアドバイザー・サービス

ビジネス環境整備	企業価値向上	社会・環境持続可能性	インフラストラクチャー	資金調達支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境診断</li> <li>• 政策および法制度</li> <li>• 国境を超えるビジネス</li> <li>• 地方政府</li> <li>• 業界固有の課題</li> <li>• 紛争解決</li> <li>• ビジネス関連支援活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コーポレート・ガバナンス</li> <li>• 企業家育成</li> <li>• ビジネス・サービス提供者</li> <li>• 小規模企業リンケージ (サプライチェーン)</li> <li>• HIV/エイズ</li> <li>• ジェンダー</li> <li>• 中小企業への直接支援</li> <li>• 草の根組織</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 持続可能なエネルギー</li> <li>• 生物多様性</li> <li>• クリーナー・テクノロジーとクリーナー・プロダクション</li> <li>• 持続可能な投資活動</li> <li>• 社会的責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保健衛生・教育</li> <li>• インフラストラクチャー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 銀行業務</li> <li>• ノンバンク金融機関</li> <li>• 住宅金融および不動産金融</li> <li>• 証券市場</li> <li>• マイクロファイナンス</li> <li>• トレード・ファイナンス</li> <li>• 個人信用情報機関</li> <li>• 保険</li> <li>• 地方政府金融</li> <li>• 持続可能な金融</li> </ul>

IFCの新しい政策とパフォーマンス基準は、世界の社会・環境基準の中でも強力な政策であり基準です。新しいパフォーマンス基準では、地域との協働および協議、生物多様性保護、地域および労働者苦情処理メカニズム、保安要員の使用、温室効果ガスのモニターに関する要件が強化されています。さらに地域の保健医療、安全、治安、労働条件、公害防止・対策、総合的な社会・環境アセスメント、管理システムに関する要件が新たに加えられています。



KAUSTEN FARMS より写真提供

IFCの新しい社会・環境基準は、民間セクターを担当する他の国際金融機関のいずれの基準よりも強力で、より良く、より包括的です。

IFCの新しい情報公開政策では、情報公開に関する責任範囲が拡充されています。さらに民間セクターを担当する公的機関としての情報公開と、顧客企業の営

業上の秘密の保持義務のバランスについても明確に示しています。新しい政策は、IFCの情報公開プロセスを改善し、公開する情報の幅を広げています。



BTC Pipeline プロジェクトの影響を受けるトルコの地域共同体の人々と会合を持つ IFC 社会・移住モニターパネル。

## 責任ある投資と活動

IFCは、持続可能な民間セクターの開発プロジェクト、すなわち経済的利益を与え、財務的・商業的に健全で社会・環境面の持続可能性を有するプロジェクトを推進することに努めています。健全な経済成長は貧困削減の鍵であること、またそれは企業家精神が生まれ、民間の投資活動が成功することに根ざすということ、そして投資が実を結び人々の生活の改善に貢献するためには、ビジネスが成長できる環境が必要であるということ、私たちは信じています。IFCは、プロジェクトの財務的健全性だけでなく、IFCの厳しい社会・環境パフォーマンス基準に適合していること、補助金や他の歪曲措置に依存していないこと、そして、より広くホスト国経済に恩恵をもたらすことといったことが確保されるように、プロジェクトをふるいにかけます。

私たちは、持続可能性の追求は、新分野での革新的な取り組みを誘い、また顧客の業務パフォーマンス改善を支援して顧客に付加価値をもたらす契機だと考えています。IFCのアドバイザー・サービス、コーポレート・ガバナンス、HIV・エイズ、ジェンダー問題など、変化の触媒となるために幅広いアプローチをしています。IFCはまた、地域開発、省エネ、クリーン・プロダクションといった幅広

い分野での支援を行い、全ての新興市場の小規模企業を支援する開発ファシリテーターのネットワークを持っています。これら全てが持続可能な民間セクターの成長を国レベル、地域レベルそして国際レベルで推進するための手段です。

### 責任ある投資

IFCは世界のほぼ全ての開発途上国で、民間セクターが過半数を所有する企業に投融資を行い、他の投資家と同じリスクを共有して完全に商業ベースで活動します。IFCは開発金融機関として財政的に持続可能であるために、投融資活動から利益を得なければなりません。出資・準出資は、IFCの資本と内部留保を資金源として行い、融資活動には、国際金融市場で公募または私募により資金を調達しています。IFCの利益は資本を増強し、リスクの高い開発プロジェクトやイニシアティブへ資金を流して持続可能性を向上させる能力を高めます。

IFCの除外リストは、特定の活動、製造または特定の商品の売買を含むプロジェクトへの資金提供を禁止しています。除外リストには、兵器・軍需物資、タバコ、放射性物質、国際的に使用が段階的に停止あるいは禁止されている化学物質、国際的に使用が段階的に停止され

ているオゾン層破壊物質、賭博、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」で規制されている野生動植物あるいはその製品、主要な熱帯林での伐採、一部の流し網漁が含まれています。

本年IFCは、投融資の社会・環境持続可能性を確保するために、パフォーマンス基準の見直しを行いました（詳細については、P.30～31を参照）。

### 持続可能エネルギーへの資金提供

IFCは、持続可能なエネルギー分野への民間セクター投資を促すために新しいビジネス・モデルを開発しています。これは、再生可能なエネルギーと省エネ分野への投融資を増やし、低コストのクリーンな代替エネルギーを含む新製品を市場に投入することを支援するIFCの取り組みの一環として行われているものです。IFCは、世界銀行グループ全体が掲げる、この分野のポートフォリオを2005～2009年度に20%増やすという目標の実現により大きな貢献ができると期待しています。IFCは、低炭素エネルギー・システムへの投融資を加速し、また、開発途上国に対する気候変動関連の技術支援を強化するための国際金融機関のフレームワーク構築に向けた世界銀行グループ

の取り組みにおいても重要な役割を果たしています。

本年度IFCは、省エネまたは再生可能エネルギー関連の21件のプロジェクトに投融資を行いました。この中にはブラジルの風力発電プロジェクトと、中国とインドでのIFC初の小規模水力発電プロジェクトが含まれています。中国では、Yunnan Zhongda Yanjin Power Generation Co. Ltd.の総容量78メガワットの3カ所の小規模水路式発電所プロジェクトへ2,200万ドルを融資しました。India Hydropower Development Companyは、6カ所の小規模水力発電所の建設と買収のためにIFCから1,500万ドルを受け取りました。IFCはさらに、チリのTinguiririca Valleyの発電量155メガワットのLa Higuera水力発電所プロジェクトに対し、1億6,000万ドルを提供しました。この融資パッケージは3,500万ドルのシニア・ローン、1億1,500万ドルの協調融資の協融行分、1,000万ドルの劣後ローンから構成されています。

IFCは、省エネのための革新的なメカニズムも提供しています。フィンランド政府の支援を受けて本年度IFCは、中国公益事業ベース省エネ融資プログラムを導入しました。このプログラムで、IFCは、中国の商業界・産業界の顧客に部分リスク共有を提供し、エネルギー設備銀行への銀行融資を支援します。Xinao Gasを含むIFCと共働する中国の公益事業者は、これらの顧客に、よりクリーンなエネルギーを提供します。

### カーボン・ファイナンス

IFCの新興市場での長期プロジェクトと信用リスクの評価・管理能力に基づいて、IFCは開発途上国のプロジェクトから発生した温室効果ガス排出削減クレ



### Rio do Fogo 風力発電プロジェクト

IFCは今年、ブラジルの北西部Rio do Fogoの風力発電公園に49.3メガワットの発電所を建設、運営、維持するプロジェクトを支援するために5,500万ドルをEnergias Renovaveis do Brasil Ltda (Enerbrasil)へ出資しました。Enerbrasilは、総出力約3,600メガワットの風力発電プロジェクトの運営を全世界で手がけ再生可能エネルギー事業をリードする公益事業者Iberdrola Energias Renovablesの100%ブラジル子会社です。2006年6月に運転開始予定のRio do Fogo風力発電所は、ブラジルで初めての商業運転を行う大規模風力発電事業となる予定です。

Enerbrasilは、ブラジルの国営電力会社であるCentrais Eletricas Brasileirasに20年の売電契約に基づき、発電した電力を販売します。これまでもブラジルは水力発電やアルコールをベースとする自動車燃料など再生可能エネルギー資源の主要な利用者でした。

風力、バイオマス、小規模水力発電プロジェクトなど非伝統的な再生可能エネルギー資源を使って発電した電力利用を促進するため、ブラジル政府は、公益事業者との間で市場価格より高い料金での売買契約を締結して、これらのプロジェクトを支援する再生可能エネルギー利用の国家プログラムを始動させました。

ジットの先進国企業や金融機関への受渡しを保証する新商品を始めました。IFCは信用補完により、プロジェクトから発生したクレジットに、国際排出権取引市場でプレミアム価格がつくのを支援する一方、買い手に対しては受渡リスクを除去します。

またIFCは、オランダ政府と共同管理する約1億5,000万ドルの資金を持っており、京都議定書のクリーン開発メカニズムおよび共同実施メカニズムの適格プロジェクトから温室効果ガス排出削減クレジットを購入しています。2006年度

IFCは3社と温室効果ガス削減契約を締結しました。EcoPowerはスリランカで小規模の水路式水力発電所を運営しており、Van der Wiel Stortgasはアルゼンチンで埋立地からのメタン・ガスの回収・燃焼を行っており、そしてEnercon Indiaは風力発電所を所有し、運営しています。

### 顧客の声に耳を傾ける

顧客企業がIFCと共に仕事をした経験について、顧客企業の意見を知らするために、IFCは毎年調査を実施しています。毎年IFCのポートフォリオの約4分の1の顧客

に調査票が送られます。ほとんどの顧客について、プロジェクトあるいは企業への投資の期間中に2回この調査が行われます。こうすることによってプロジェクトの異なる段階でフィードバックを得て顧客サービスの改善を図ることができます。調査は無記名で行うため、顧客は率直な意見や評価を下すことができます。

IFCのサービス全般について2005年の顧客満足度は79%でした。初回の顧客よりリピーター顧客の方が、環境・社会およびコーポレート・ガバナンス関連のアドバイザー・サービス等IFCが提供する付加価値あるサービスを評価しました。IFCの即応性に満足しているという声が増える一方、回答者の半数が、IFCの手続きが非効率であると考え、過半数がIFCをリスク回避的と見えています。



インドのRajasthanでの技術支援プログラムの一環として開発された雨水貯水井戸システムによって、地元  
の女性たちが生活水を求めて歩く距離が短縮されます。

### 責任ある活動

ワシントンD.C.の本部で、そして地域事務所ですべての活動を執行することは、IFCが使命に忠実であり、また顧客に要求することと一貫性を保つ上で重要なことです。事務所ビルの運営や日々の作業

習慣の直接の影響からIFCが活動し生活する地域社会との関係にいたるまで、IFCは社会・環境持続可能性に関してより良い足跡を残すことを目指しています。

IFCの環境専門家の勧告で2002年度に実施された独立レビューであるグローバ



### 文化的連携

IFCは、業務を行っている場所の地域社会を支援しています。1997年、IFCは以前は劇場として利用されていたワシントンD.C.の新本部ビルディングに移りました。IFCは、この文化の発信点において、無料で舞台芸術プログラムを定期公演し、毎年2,000人近くの人々が訪れています。IFCの教育的ワークショップ、講演会、討論会への導入部として、国際的な音楽家、舞踊家、劇団の公演や映画の上映会を開催しています。またIFCは、他の組織と協力し、舞台芸術プログラムを社会問題への意識醸成のためにも活用しています。

ル・レポート・イニシアティブのガイドラインでは、私たちのオフィスが特に大きな影響を持つ中長期的な重点分野を特定しています。IFCが積極的に管理しているこれらの重点分野には、エネルギー利用、調達、ゴミ、紙の消費、電子機器の利用、地域との連携、多様性、職員の意識と取り組みが含まれています。詳細は、Corporation's Sustainability Reportをご参照下さい。www.ifc.org/sustainabilityで入手できます。

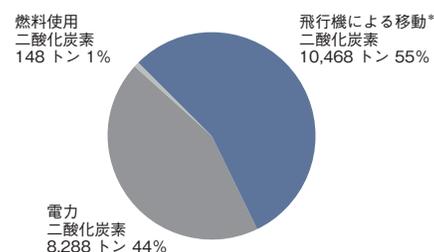
### 職員の声に耳を傾ける

世界銀行グループは、職員を対象に2年に1回無記名によるアンケート調査を実施しています。IFC職員の回答の集計は他の機関と区別して行われます。この調査では、顧客サービス、チームワーク、職員倫理、学習と向上、仕事と家庭の両立についての職員の考えや意見を尋ねます。

2005年の調査では、84%の職員が、IFCは明確な目的を持った機関であると考えていることがわかりました。職員の半数近くが、部局間、本部と地域事務所間での協力や連携をもっと強化する余地があると考え、4分の1が内部手続の改善によって顧客へのサービスを向上できると回答しています。前回の調査と比べると、職員の貢献をIFCが認めるという点で大幅な改善が見られました。

### 2006年度炭素放出

IFC 本部施設と本部所属職員の移動



\* 飛行機による移動の炭素放出量は、世界銀行グループの職員の飛行マイル数を基に、IFC 職員の全体に占める割合から算出。

### IFC カーボン・ニュートラルへ

2006年6月5日世界環境デーのこの日、世界銀行グループは、カーボン・ニュートラルになりました。すなわち、ワシントンD.C.の本部事務所、春と秋の定例会合、職員の通勤、本部からの業務出張から排出される温室効果ガスは、再生可能エネルギーおよび省エネ・プロジェクトへの投融資と開発途上国のプロジェクトから認証された排出削減クレジット購入によって相殺されています。

IFCの炭素放出の大半は、航空機での移動と電力使用によるものです。2004年12月以降IFCは、ワシントン事務所での全ての電力源として再生可能・グリーン電力を購入しています。本部の建物はエネルギー効率が高く設計されており、米国内のエネルギー効率の高い建物の上位25%に入り、2005年を含めそれまでの数年間エネルギー・スター認証を受けています。残りの炭素排出分については、IFCと世界銀行は、排出削減クレジットを購入します。具体的には、モルドバの林野庁のプロジェクトやコスタリカのPrecious Woodsプロジェクトなどの認証済排出削減クレジットを購入します。本年の世界環境デーのテーマである砂漠化対策に果たす森林の役割を強く認識し、私たちはこの選択をしました。

## IFC のガバナンス

IFCは、世界銀行グループの他の機関と協調し活動していますが、法的にも財務的にも独立しています。IFCの178カ国の加盟国は資本金を払い込み、また総務会と24の理事で構成される理事会を通じて、共同でIFCの政策を決定します。

議決権数は、各理事が代表する加盟国の出資比率に比例して算出されます。議決権保有の上位5カ国は、米国(23.66%)、日本(5.87%)、ドイツ(5.36%)、フランス(5.04%)、英国(5.04%)です。しかし議決権によって、政策決定がなされることはほとんど無く、IFC理事会は、厳正な議論によって意見の集約を図ることを重視しています。

理事会は、米国ワシントンD.C.にある本部で定期的に会合を開いています。理事会では投融資プロジェクトの検討と決定が行われる他、戦略に関する総合的な指導をIFC経営陣に行っています。IFCは、公式理事会の議事録を2006年より公開を始めることに合意しています。各理事は、監督責任を果たすのを助ける常任委員会のうち少なくとも一つの委員会のメンバーでもあります。そしてIFCの政策や手続きを詳細に検討します。

- 監査委員会は、財務・リスク管理、コーポレート・ガバナンス、監視面の課題についての助言を行っています
- 予算委員会は、IFCのビジネス・プロセス、業務運営政策、基準、世界銀行グループの業務の費用効果に重大な影響を与える予算面の課題を検討しています
- 開発効果委員会は、貧困削減の進捗状況のモニタリングのために、業務や政策の評価、開発効果などに焦点をあてています
- 人事委員会は、職員の報酬をはじめとする重要な人事政策について助言を行っています
- ガバナンスおよび理事事務委員会は、理事会のその他の責任分野を担当します

## 組織と職員

本年度発表された新しいIFCの運営体制は、新たに地域担当の副総裁2名を加

## IFCの成長と地方分権化は、職員の多様化と才能の蓄積の機会を提供しています。

え、2007年度から実施されます。IFCの財務力を維持しつつリスク許容度の高い組織を目指し、新組織ではリスク管理担当と投融資業務担当に担当を分けます。

過去5年間に35%の伸びにとどまったIFCの職員数は、今後3年間に50%増えることが予定されています。理事会が承認した成長戦略の一環として、2006年度にはIFC史上最も多い人数の専門家を採用し、その大多数をIFC全体の地方分権化の一環として、世界各国の現地事務所に配置しました。現在職員の47%が現地事務所で働き、残りの53%がワシントンD.C.本部で働いています。これは現地事務所で勤務する職員の割合が32%であった2001年と比べると大きな変化です。

IFCの成長と地方分権化は、職員の多様性と才能の蓄積を強化する機会となっています。IFCは近年、女性職員や開発

途上国出身の職員の数を増やし、また多様性の問題についての職員意識の向上を図ることによって、多様性に関する主要

な課題で進展を見せています。「多様性と受容」という問題に対する関心は、女性の上級職への昇進、出身国籍の多様化とより多様な学歴の職員の採用を中心に、今後益々高まっていくでしょう。

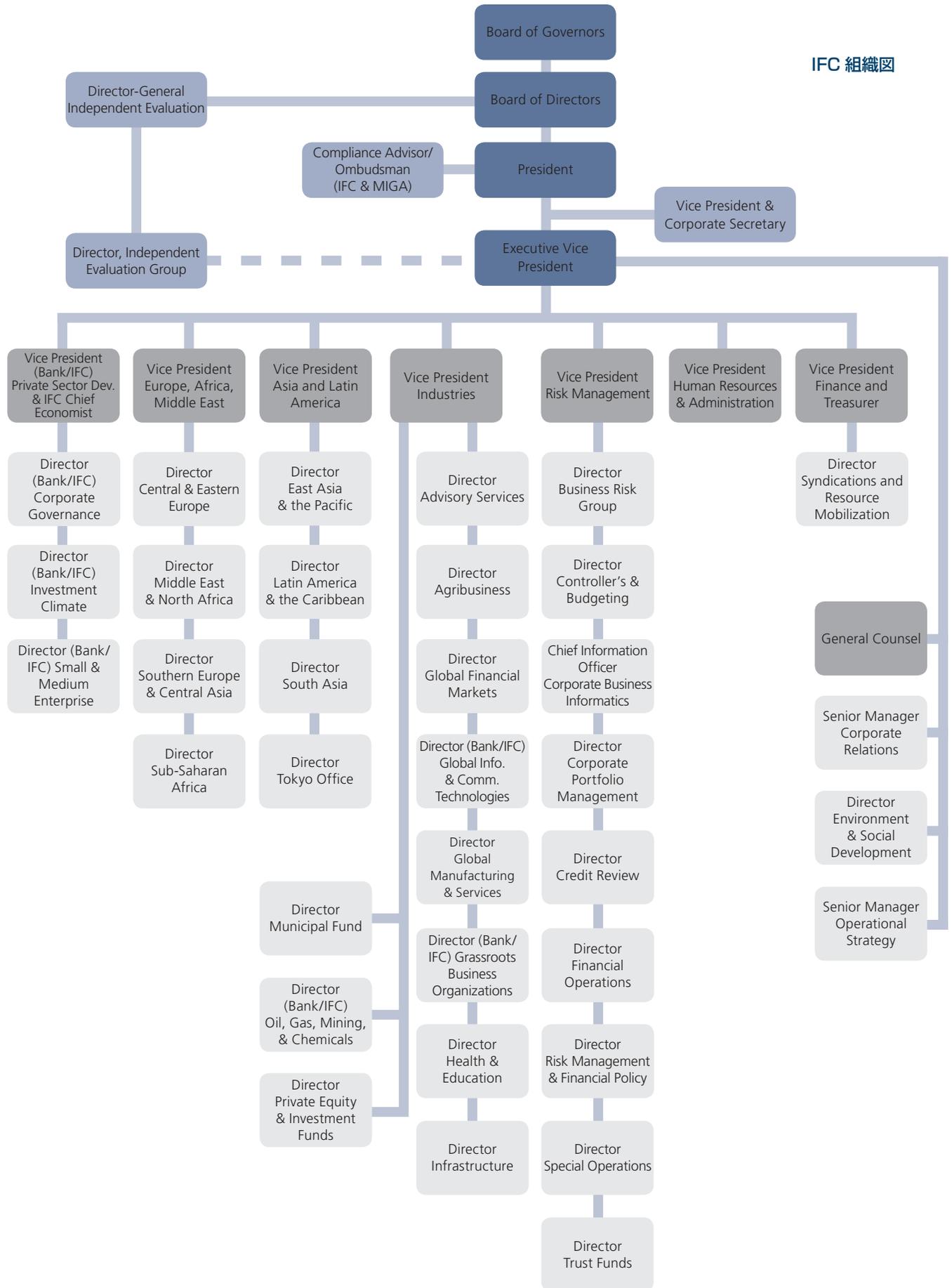
## パフォーマンスを監視する

IFCは、貸出実行前に定めた、社会・環境面のパフォーマンスの報告をしているか、財務・社会・環境パフォーマンスに関する年次報告書を提出しているか等、顧客が投融資契約の中で約束した事項の順守について追跡監視を行っています。IFCの社会・環境政策とパフォーマンス基準の見直しと改善された管理システムの導入によって、投融資サイクル全体を通して、持続可能性を追跡監視し、支援することが可能となります。



バングラデシュの Lafarge Surma Cement が建て、運営するコミュニティ・センターでの子どもたち。

IFC 組織図



**説明責任**

コンプライアンス・アドバイザー/オンブズマンと独立評価グループ（旧業務評価グループ）という2つの独立したユニットが、株主に対するIFCの説明責任とプロジェクトの影響を受けたり、懸念を抱いている利害関係者のIFCへのアクセスを確保しています。

**コンプライアンス・アドバイザー/オンブズマン**

コンプライアンス・アドバイザー/オンブズマン(Compliance Advisor/Ombudsman : CAO)は、民間セクター・開発プロジェクトの影響を受ける人の苦情にIFCが対応するのを、公正、客観的、建設的に支援し、社会・環境面でより良い結果が出るようにすることを任務とする世界銀行グループ総裁直属の独立した組織です。公正

で客観的かつ建設的に支援し、社会・環境開発効果の向上を目指します。CAOはコンプライアンスの確保、世界銀行グループ経営陣への助言、紛争解決の促進という3つの機能を果たしています。

コンプライアンス監査は、関係する政策、基準、手続、ガイドラインの適用状況を独立した立場で評価します。評価の焦点はIFCの役割に置かれていますが、顧客企業の活動やコンプライアンスの確保あるいは阻害に対する他の関係者や要因の影響も考慮されます。CAOは、世界銀行グループ総裁およびIFCならびに多数国間投資保証機関 (Multilateral Investment Guarantee Agency : MIGA) の執行部に、独立した立場からタイムリーに客観的な助言を提供します。この助言は、広義の社会・環境面の政策、ガイドライン・手続・資源・システムに限ら

れています。

CAOは、IFCプロジェクトの社会・環境面の影響について、被害を受けた地域からの苦情の解決の促進もします。オンブズマンの主たる役割は、プロジェクトの利害関係者—地域社会の人々、IFC、顧客企業、他の関係者等—を集めて、互いに強力しながら問題解決を図ることで

です。2006年度にCAOは、IFCが投融資した、あるいは投融資しようとする4プロジェクトについて5件の苦情申し立てを受けています。

**IFC 独立評価グループ**

独立評価グループ (Independent Evaluation Group : IEG) は、世界銀行グループ理事会直属の独立したユニットです。以前は業務評価グループであったIEGは、世界銀行グループ全体の評価機能の独立性を高めるという任務を理事会が承認したことに伴い、新しい名称に変わりました。世界銀行、IFC、MIGAは、それぞれの業務評価局長の下に個別のIEGユニットを置き、多くの評価を協力して行っています。またIEGとIFCは、多国間開発銀行評価協力グループの民間セクター評価に関する作業部会の共同議長を務めています。この作業部会は、評価政策、基準の調和化と、民間セクター業務を行う多国間開発銀行間で報告される開発効果測定内容の調和化に取り組んでいます。

IEGの評価はIFC内部に配布され、主要なIEG報告からの勧告とその実施状況は追跡監視されIFC理事会へ報告されます。2006年5月から実施されている新しい情報開示政策では、IFC理事会へ提出される全てのIEGの評価関連の文書の公開を認めています。この政策は、多国間機関の情報開示と透明性を求める一般の人々の声に応えたものであり、IEG情報の公開を大幅に促進します。

**コンプライアンス・アドバイザー/オンブズマン 2005~2006年の活動**

**コンプライアンス監査**

- ブラジル : Amaggi 大豆投資
- コンゴ民主共和国 : Dikulushi 銅・銀鉱山
- ウルグアイ : Orion and Celulosas de M'Bopicua パルプ工場プロジェクト

**アドバイザー・プロジェクト**

IFC 政策・パフォーマンス基準案および情報開示政策案についての CAO の見解

**オンブズマン介入**

- ボツワナ : Kalahari ダイヤモンド鉱山
- チリ : Pangué 水力発電プロジェクト
- グルジア : Baku-Tbilisi-Ceyhan 輸出パイプライン
- グアテマラ : Marlin 金・銀鉱山
- インド : Allain Duhangan 水力発電プロジェクト
- カザフスタン : Karachaganak 石油・ガスコンデンセート油田
- ペルー : Antamina 銅・鉛・銀・モリブデン鉱山
- ペルー : Yanacocha 金山
- ウルグアイ : Orion and Celulosas de M'Bopicua パルプ工場プロジェクト

上記の活動の詳細は CAO ホームページ [www.cao-ombudsman.org](http://www.cao-ombudsman.org) を参照。

IFCプロジェクトの成果の独立レビュー  
 毎年IFCの投融資担当者は、IEGとIFC経営陣が共同で開発したガイドラインに基づいて、約5年前に承認され成熟初期にさしかかったプロジェクトの中から無作為にサンプルを選び、プロジェクトの自己評価を行います。担当者は、結果を調査・分析し、9つの指標について4段階で評価を行います。その後IEGは、各報告書と関連プロジェクト・ファイルについてレビューを行い、評価を査定し(必要があれば、再評価を行う)、IFC内部での評価基準適用の一貫性の維持に努めます。IEGは、過去2年間の調査結果

を年次レビューの中で分析します。  
 本年度IEGは、2002～2004年に評価されたプロジェクトから無作為に抽出された210件のプロジェクトの開発および投融資結果を紹介しました。これら210件の投融資プロジェクトは、1997～1999年に承認されたものの53%に相当します。IEGは、将来の成果という観点からもレビューを行いました。すなわち、業務の質、リスクの大きさ、戦略的選択、ビジネス環境といったプロジェクトの成果を左右する4つの要因をIFCがどの程度効果的に管理しているかという点です。さらにこの報告では、サハラ以南ア

フリカ地域(P.47参照)で業務を拡大しようとしている中で、ビジネスを行う上で同地域固有の課題にIFCが取り組んでいるかということも評価しています。  
 総じてIEGは、IFCが選んで支援しているプロジェクトでは、プラスの開発効果とプラスの投融資結果は共に起こる傾向にあると報告しています。IFCの47%のプロジェクトが、高い開発効果と高い投融資結果を上げています(金額で見ると、55%)。これはすなわち、個々のプロジェクトのレベルでは、一国の開発への貢献と、IFCの収益性と将来の開発支援の財務力への貢献の両方で、満足のいくあるいはそれ以上の成果を上げていると言えます。評価対象の210件のうち、59%は高い開発効果を上げ、55%は高い投融資結果を上げています(図1参照)。

21%のプロジェクトは、主に選択した投融資商品の違いを反映して、高・低が入り混じった結果を示しています(図1の四角2、3参照)。高い開発効果で投融資結果の低いプロジェクトの多くは出資による事業です。一方開発効果は低いが高投融資結果の高い事業は主として有担保のシニア・ローンを受けています。高い投融資結果と高い開発効果のプロジェクトについても商品選択の違いとIFCの高い業務品質格付が特徴的であり、これらのプロジェクトのうち65%は、IFC自己勘定からの融資のみを受けていました。サンプルとして選んだプロジェクトのうち約半数が融資のみの事業でした。

開発効果、投融資結果共に低いプロジェクトの多くは、業務の質の評価が低いか、ビジネス環境のリスクが高いか、高くなる状況に置かれているケースでした。出資によるプロジェクトは、4分の1のみが、投融資結果が普通か良好という評価でした。出資は本来高リスクであり、驚くには当たりません。IFC投資の成功率は、典型的なベンチャー・キャピタルの収益パターンと似ており、数件のプロジェクトが全体の成功をもたらしています

図1：開発効果と投融資結果のトレード・オフは少ない

79%のプロジェクト(プロジェクト数)が開発効果、投融資結果が共に高いあるいは開発効果、投融資結果が共に低い(四角1、4)。  
 IFCが支援することを選んだプロジェクトの効果尺度で測定した開発効果と投融資結果の間には、トレード・オフはほとんどありません。僅かに開発効果の高いプロジェクトの割合(59%)が、投融資結果の高いプロジェクト(55%)より多く、過去の年次レビューの結果と同じ傾向を示しています。

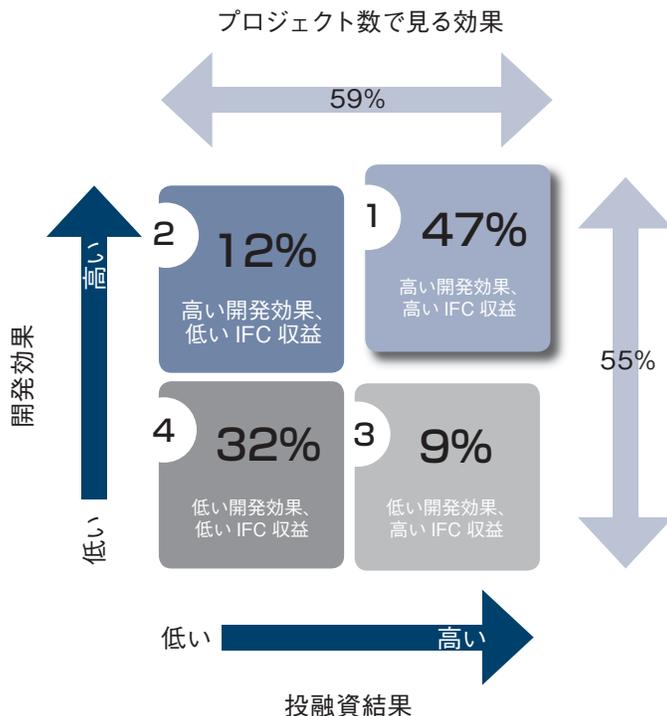
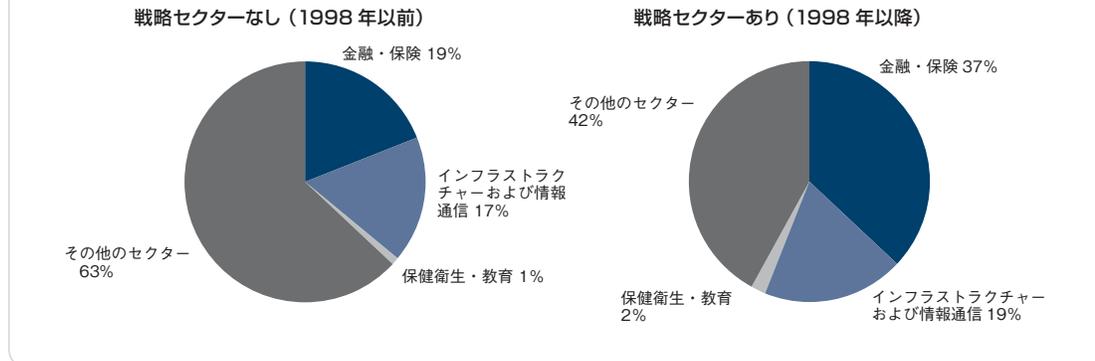


図2：IFCは、1998年以降戦略セクターへの契約調印を増加させた



す。一般的にプロジェクトの財務成績は、広義の開発効果の強力な決定要因です。IEGの年次レビューは、IFCの中核となるビジネス・モデルの中で、4つの主要因の重要性を確認しています：

- IFC業務の質、特にプロジェクトと投融資の選択、審査、組成の質
- プロジェクト承認時点で内在するリスクの大きさとIFCの金融商品選択に伴う財政的リスク
- セクター、重点テーマ、重点国の戦略的選択
- 承認から評価までの間のビジネス環境の質の変化

結果を決定する主要因が制御できる場合は、IFCはそれらを概ね上手に管理しています。1998年から実施されている多くの業務の品質向上イニシアティブの成果とIFCの戦略の一層の重点化を反映して、最初の3つの分野については進展が

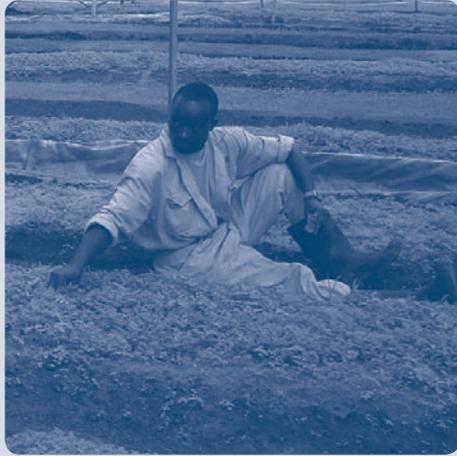
見られます。

業務の質は、近年、大幅に改善されてきています。これは、監督および事務運営が改善されたことを大きく反映しています。つまり、IFCの質向上への歩み—1998年の環境関連手続の強化、1999年のポートフォリオ・ユニットの創設、2001年のIFC持続可能性イニシアティブが、評価対象プロジェクトの実施段階にプラスの影響を与えていることを示しています。

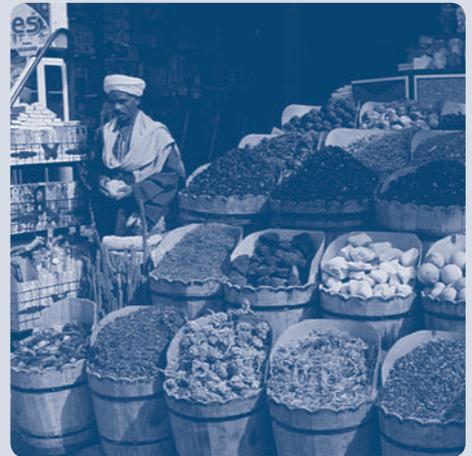
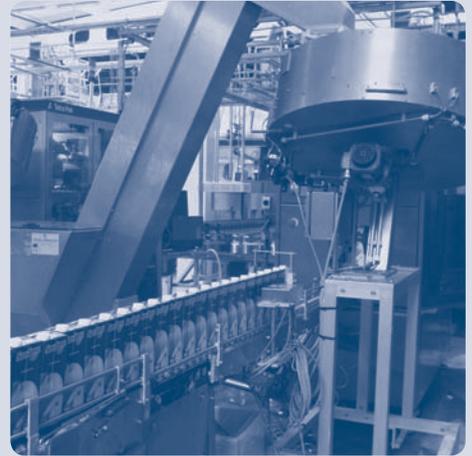
リスクの大きさも軽減されています。IFCは、信用レビュー手続を強化し、より現実的な債務返済比率を設定し、また2002～2004年間の契約調印には準出資をより多く活用しました。これはまた、IFCの審査および組成の質が改善されたこと、そして、より最近に承認されたプロジェクトほど結果の質も高くなる可能性を示しています。

IFCの非戦略セクターに比べ、戦略セクターへの投融資の方が全体としてより良い結果が出ています。IFCは、1998年以降戦略セクターへの契約調印の割合を増加させています（図2参照）。レビュー対象のプロジェクトのうち非戦略セクターに比べ、戦略セクターの投融資事業の方が平均してより高い開発効果と投融資結果を上げています。

1998年、高リスク国または低所得国での活動に重点を置くというIFCのフロンティア戦略が始動し、IFCが最も大きな違いを生み出す能力のある地域での投融資が増大しました。この戦略の採択は、IFCのポートフォリオ上でのビジネス環境リスクは高まり、このリスクをうまく管理できるかどうかが大変重要になっています。



## 地域別レポート





## サハラ以南アフリカ地域

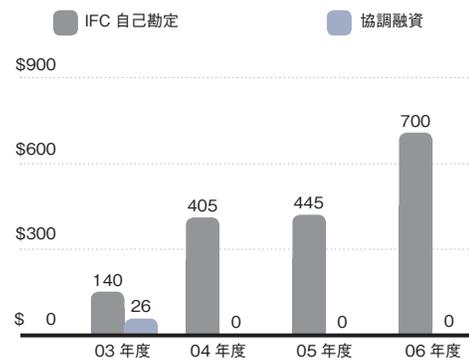
アンゴラ共和国、ウガンダ共和国、エチオピア連邦民主共和国、エリトリア国、カーボベルデ共和国、カメルーン共和国、ガーナ共和国、ガボン共和国、ガンビア共和国、ギニアビサウ共和国、ギニア共和国、ケニア共和国、コートジボワール共和国、コモロ連合、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、ザンビア共和国、シエラレオネ共和国、ジブチ共和国、ジンバブエ共和国、スーダン共和国、スワジランド王国、セーシェル共和国、赤道ギニア共和国、セネガル共和国、ソマリア民主共和国、タンザニア連合共和国、チャド共和国、中央アフリカ共和国、トーゴ共和国、ナイジェリア連邦共和国、ナミビア共和国、ニジェール共和国、ブルキナファソ、ブルンジ共和国、ベナン共和国、ボツワナ共和国、マダガスカル共和国、マラウイ共和国、マリ共和国、南アフリカ共和国、モーリシャス共和国、モーリタニア・イスラム共和国、モザンビーク共和国、リベリア共和国、ルワンダ共和国、レソト王国

### IFCのサハラ以南アフリカ地域戦略

- ・ 2009年度までに投融資契約調印額を、9億ドル程度まで増加。
- ・ 投資環境の整備、中小企業への支援強化、大規模プロジェクトの積極的開発。
- ・ 金融インフラストラクチャーと物理的インフラストラクチャーの整備、トレード・ファイナンス、小規模企業の競争力および新興企業の世界進出支援に特に着目した、国境を超えた活動の更なる重点化。
- ・ 技術支援と投融資業務を統合することによる、フロンティア国でのIFCの活動範囲と、その効果の持続性の大幅な増大。

### サハラ以南アフリカ地域における契約調印額

(百万米ドル)



### IFC活動概観

	06 年度	05 年度
投融資プロジェクト総数	38	30
技術支援およびアドバイザー・サービス・プロジェクト支出合計 (百万米ドル)	\$27	\$26

### IFC職員およびコンサルタント

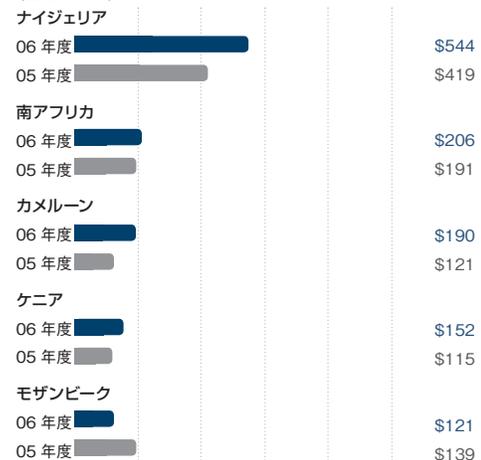
	本部	現地事務所
2006年6月30日現在	5	237

### プロジェクトへの投融資と残高 (百万米ドル)

	06 年度*	05 年度**
IFC 自己勘定投融資契約調印額	\$ 700	\$ 445
融資***	393	357
出資***	72	36
保証およびリスク管理商品	235	52
協調融資調印額	0	0
<b>契約調印額合計</b>	<b>700</b>	<b>445</b>
IFC 自己勘定契約残高	2,033	1,698
協調融資契約残高 (融資および保証)	168	194
<b>契約残高合計</b>	<b>2,201</b>	<b>1,892</b>

### IFCの契約残高上位国

2006年6月30日現在の IFC 自己勘定契約残高  
(百万米ドル)



\* 正式にはグローバル・プロジェクトとして分類されている Veolia Water AMI の各地域に対応する投資分を含む。IFC 自己勘定契約残高は、正式にはグローバル・プロジェクトとして分類されている BAPTFF の各地域に対応する投資分を含む。

\*\* 正式にはグローバル・プロジェクトとして分類されている BAPTFF の各地域に対応する投資分を含む。

\*\*\* 融資は、融資型の準出資案件を含む。出資は、出資型の準出資案件を含む。



AISHETU FATIMA KOLO

Advanced Bio-Extracts Limited の社員は、製薬業界にとって不可欠な活性成分を供給するためにケニア、タンザニア、ウガンダ各国で農民と共に活動しています。

## 民間投資環境の改善

サハラ以南アフリカ地域の経済は、国内総生産が6年連続で増加し、2005年の成長率は4.6%でした。外国直接投資を増大させようとする各国の取り組みや国際社会の努力は一定の成功を収め、天然資源分野への投資は特に増加しています。石油や鉱物資源の価格の上昇と、鉱物資源採掘産業および天然資源セクターへの投資の収益性の高まりの結果、天然資源の豊富な国々が、この地域の最近の経済成長を支配しています。いくつかの大きな国のマクロ経済運営は着実に改善を見せており、引き続き問題は点在するものの、地域全体を通して紛争は少なくなり、政治的安定性が増えています。アフリカ以外の開発途上国の企業による投融資が活発になると同時に、南アフリカの企業を中心に域内投融資活動も増えてきました。

経済が拡大した結果、この地域における民間セクターの投融資に対する評価の高まりと、IFCの技術支援と投融資のより効果的な組み合わせにも支えられて、IFCのサハラ以南アフリカ地域で

の活動は大幅に増えています。今年度のこの地域での契約調印額は合計7億ドルと、前年に比べ60%近い伸びで、金融市場とインフラストラクチャー・プロジェクトに集中しています。IFCのこの地域の残高合計額は今年初めて20億ドルを超えました。

2005年後半に、IFCは、民間セクターの持続可能な成長を促進するための中心的手段としてアフリカ民間企業パートナーシップ (Private Enterprise Partnership for Africa : PEP Africa) を立ち上げました。地域の投資環境が抱える諸課題に対し、PEP Africaは、世界銀行、アフリカ諸国政府と協力して、企業の設立手続や税制の簡素化、民間セクターの財産権制度の整備、女性の金融へのアクセス改善などに取り組んでいます。

### 金融へのアクセス拡充

アフリカの企業の80%は小規模経営であり、当地域の民間企業が金融にアクセスするには、他の新興地域におい

てよりも、はるかに大きな困難に直面します。これを是正するため、IFCは、世界銀行の譲許的融資機関である国際開発協会 (International Development Association : IDA) と共に、地元金融機関の能力を高めて中小企業に対して利益の上がる融資を行えるようにしたり、リスク資本の革新的な提供方法を開発したりして、地場金融市場の強化に取り組んでいます。IDA-IFC中小企業プログラムが現在試験的にブルキナファソ、ガーナ、ケニア、マダガスカル、マリ、モザンビーク、ナイジェリア、ルワンダ、タンザニア、ウガンダの10カ国で実施されています。このプログラムは、技術支援、能力開発、アウトプットベース贈与、規制改革支援を提供しています。利用可能な金融手段としては、パフォーマンス・ベース融資、マイクロファイナンス、地場通貨建てポートフォリオに対する保証商品等があります。このプログラムは、IFCのトレード・ファイナンスおよび住宅金融に関するイニシアティブ、マダガスカルとケニアに設

立した試験的中小企業ソリューション・センター、モザンビークでの中小企業に関するイニシアティブを補完するものです。

IFCのサハラ以南アフリカ地域の投融資の半分は金融セクターのプロジェクトに対するものですが、IFCはまた、技術支援に

よっても金融セクターの開発を支援しています。アフリカの一部の国では財産権関連の法制度が未整備で、これらの国の人々は担保が付けられず、借入れができません。

このため、IFCはリース・プロジェクトへの投融資を増やし、金融の代替手段を提供する民間銀行を支援しています。今年度の

契約調印の中には、ケニア、ナイジェリア、ウガンダの小規模企業向けの信用枠供与やマイクロファイナンス・ファシリティが含まれています。

#### インフラストラクチャーへの投融資

2006年度中にIFCは、電力、上水道、衛生、運輸セクターのプロジェクトに1億8,500万ドルの契約調印を行いました。アフリカで実現可能なインフラストラクチャー・プロジェクトを増やすために、IFCは世界銀行グループの他の機関との協力を強化しています。ケニアとウガンダを結ぶ鉄道網の入札プロセスにIFCはアドバイスと技術支援を提供しま

IFCのグローバル・トレード・ファイナンス・プログラムは、世界貿易市場で開発途上国のシェアを拡大させ、新興市場向けおよび新興市場発の貿易を促進することを目指しています。



RAJESH BEHAL

#### 南アフリカの葡萄栽培農家は 国境を超えて拡大

IFCは本年度、南アフリカ有数の食用葡萄輸出業者Karsten Farmsに724万ドル相当の南アフリカ通貨ランド建ての融資を行いました。同社は、この資金を使い、南アフリカでの業務拡大とエジプトでの葡萄栽培事業を立ち上げる予定です。これは、南南投資として知られる新興市場企業による外国直接投資の傾向を反映するものです。地域内で、他の国に投資を行うアフリカ企業は、リスク・エクス

ポージャーの分散と他の市場での経験の蓄積による利益を得ています。またIFCのKarstenへの融資は、同社が能力の増大、生産基盤の多様化、そして通年生産をすることを可能とし、同社が成功し、成長を続けることを支援します。

資金提供に加え、IFCは同社がHIV・エイズ、成人識字化、技能研修、保健医療のための地域プログラムを実施することも支援します。Karstenはまた、IFCと南アフリカ最大のフルーツ輸出業者であるCapespanが南アフリカの黒人農業従事者を支援するために協力して取り組んでい

るThandiプログラムという、黒人の経済的エンパワーメント（権限付与）プロジェクトの技術パートナーでもあります。プログラムの対象である農家と共に働くことにより、Karstenはその技能やマーケティング経験を小規模農家と共有し、輸出用葡萄の質を高め、品質管理やフルーツの取扱いの国際基準を他のアフリカの人々に教えています。

した。また、私たちは世界銀行の部分リスク保証局と共にこの新しい権益に金融を提供する作業を進めています。IFCの支援にはケニア経済との経済的連携を最大化するPEP Africaプログラムも含まれています。IFCは世界銀行と協力し、カメルーン、コートジボワール、ガーナ、ルワンダ、セネガル、ウガンダ各国のインフラストラクチャー・プロジェクトに対して技術支援と政策助言を資金提供に組み合わせて提供しています。

IFCのこれまでに契約調印したアフリカでの最大インフラストラクチャー事業は、カメルーンの総合電気事業会社であるAES Sonelへの金

## セネガルでの発電プロジェクト

IFCは、セネガルの電力セクターが切望してきた67.5メガワットの独立発電プロジェクトの開発と資金調達において重要な役割を果たしました。IDAは、部分保証を提供して、地場の商業銀行がこのプロジェクトに地場通貨建て融資を行うのを支援しました。

複数の開発銀行の提供する融資パッケージの一部として提供されるIFCの契約調印額1,700万ユーロは、ダカールの郊外に重油を燃料とする民営のディーゼル発電所を建設する資金として使われます。ベースロード発電の提供を目的としているため、他の発電方法より費用効率が高い発電所です。生産した電力は、国有電力会社のSociété Nationale d'Electricité du Sénégal (Senelec)が、15年の契約で購入することになります。民間セクターのパートナーは入札で選ばれる予定です。

## トレード・ファイナンスによる成長を促進する

IFCのグローバル・トレード・ファイナンス・プログラムは、世界貿易における開発途上国のシェアを拡大させ、新興市場向けの輸出入を促進することを目指すものです。このプログラムを通じ、IFCは、対象となる貿易取引について信用状の確認銀行に部分保証あるいは完全な保証を提供し、またプログラムに参加している信用状の発行銀行の支払いリスクを保証します。

プログラム開始後9カ月間で、IFCは、380件以上、金額にして3億1,700万ドルの保証を行いました。ハイテク製品から農産品まで、このプログラムは40カ国以上の発行銀行と確認銀行のネットワークを通じ、貿易を支援しています。平均保証額は100万ドル未満で、本年度の約80%の取引がサハラ以南アフリカ地域でのものでした。

アフリカでの取引には次のようなものがありました：



IFCは、100万ドルのヤシ油輸出に部分トレード・ファイナンス保証を提供しました。

- 南アフリカからケニアへの37万ドルの鋼材輸出。確認銀行が発行銀行の信用リスクを引き受けられない中で、IFCは2つのアフリカの国の間の貿易を促進する上で重要なこの小額の取引に便宜を図りました。
  - ブラジルからナイジェリアへのバスの販売のためにIFCが提供した980万ドル、3年間の保証は、ナイジェリアの都市交通への民間投資に希少な長期資金を提供しました。
- IFCの銀行リスク保証によって、保証を

受けた銀行はトレード・ファイナンス取引を多くの国と銀行の広範なネットワーク一杯に広げ、顧客へのサービスを向上させることができます。IFCは、輸出の潜在的能力が高いアンゴラ、カメルーン、エチオピア、ルワンダ、セネガル、スーダンを含む他のアフリカの国々でトレード・ファイナンスを拡充できることを願っています。

IFCは、カメルーンの電力事業会社である AES Sonel に、電力供給の信頼性を向上させ、新たな顧客を獲得するための資金 8,900 万ドルを提供しました。

融パッケージです。複数の開発金融機関からの融資パッケージの一部として提供された IFC の資金は、今後 5 年間にわたる電気供給の信頼性向上と、新たな顧客の獲得のために使われます。IFC は、インフラストラクチャーについてカメルーン政府と対話を重ねている世界銀行と緊密な連携を図りつつ活動しています。また IFC と IDA は、ガーナ政府と協力して、電力セクターへの民間投資の促進を図っています。

アフリカの水道・衛生プロジェクトを遂行するために設立された Veolia Water AMI への 6,500 万ユーロのファイナンスパッケージを通じて、IFC は、アフリカで初めて水道と衛生分野での投融資を行いました。同社は、先進国と開発途上国の両方で公共サービス事業を営み、環境サービス分野で世界をリードする Veolia Environnement グループに属しています。IFC の投融資は、アフリカ大陸全体の水道・衛生分野のサービス向上



カメルーン AES Sonel 発電所。

を支援します。

運輸セクターでは、130 万ドル相当の融資を貨物輸送会社の 3T-Cameroon へ提供することとし、アフリカで初めて物流の分野のプロジェクトに契約調印を行いました。これは同社の輸送用トラック部隊の増強、追跡・監視装置の購入、貨物の集積倉庫の建設のための資金に充

てられます。またカメルーンでは、SN Brussels をカメルーン航空の運営・部分所有管理会社として選定した際に、IFC は政府に助言を提供しました。

## 紛争後地域に投融資する：コンゴ民主共和国

2006 年 2 月の IFC のラース・テュネル長官のコンゴ民主共和国への訪問を受けて、IFC と世界銀行は、同国の政権移行に続いて、民間セクター投資機会と技術支援の機会を最大化するために、紛争後イニシアティブを試験的に開始しました。イニシアティブの第 1 段階では—世界銀行、多数国間投資保証機関 (Multilateral Investment Guarantee Agency : MIGA)、コンゴ民主共和国政府と協調しながら— IFC の 6 つのチームが、電気通信、インフラストラクチャー、鉱業、金融市場、一般製造業セクターにおける民間企業の機会と課題についてのアセスメントを集中して行います。この国の選挙後に短期・中期・長期イニシアティブを実施に移せるよ

う準備が整えられました。

IFC と世界銀行の共同チームは、電力、電気通信、土木建築、金融市場分野への民間セクター投資の可能性と、インフラストラクチャー、投資環境、企業家育成を含む多くの分野でのアドバイザー・サービスと技術支援の可能性を見出しました。コンゴ民主共和国での業務経験から得られる教訓は、紛争後国での復興・再建事業への世界銀行グループの包括的アプローチの基礎となると期待しています。IFC は、世界銀行と協力し同国の投資・鉱業法典を作りました。そして IFC は、新しい鉱業法が適用される初めてのプロジェクトへの資金提供に契約調印しました。IFC は、オプションを行使し、550 万ドルで 7.5% の株式を取得して Kingamyambo Musonoi Tailings SARL の株主となりました。IFC の投資は、鉱業から排出される副

産物処理のフィージビリティ・スタディを支援します。IFC は KMT に対して 2007 年に操業開始予定の 4 億ドルの銅・コバルト鉱山開発のために追加して融資と出資を行うことを検討中です。プロジェクト実施の早い段階から投融資を行うことで、IFC は社会・環境面の影響のアセスメントと地域社会との関係構築計画でも役割を果たしています。

## IFCのアフリカにおける活動についての IEG の評価（1990～2005年）

本年度サハラ以南アフリカ地域での活動の拡充をIFCが進める中、独立評価グループ（Independent Evaluation Group：IEG）はこの地域固有の課題への取り組みについての評価を行いました。ビジネス環境リスクは今も多くのアフリカの国で民間投資の主要な障害となっています。数カ国の例外はありますが、アフリカは世界で最もリスクの高い投資環境です。1994年以来IFCのアフリカ戦略は、アフリカ経済を支えている小規模企業の育成と共に、ビジネス環境の改善をこの地域の最優先課題として繰り返し取り組ん

きました。

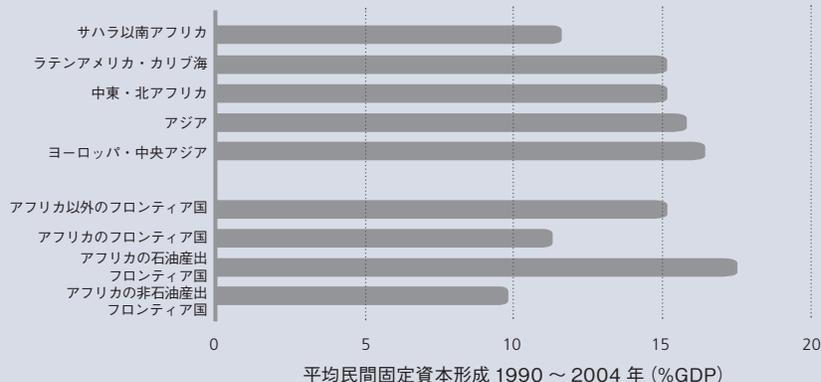
しかしビジネス環境の劣悪さや、優良な民間セクターの事業実施者による実行可能な投資プロジェクトの相対的欠乏のために、この地域の多くの国でIFCの投融資機会も、契約調印も限られたものとなっています。下のグラフが示すとおり、ビジネス環境が良くないことが、特に非産油国であるフロンティア・アフリカを中心にこの地域の投資を著しく抑えています。

しかし過去数年間にいくつかの国は投資環境を改善させ、民間投資の水準が上昇しました。IFCのサハラ以南アフリカ地域での活動も近年変化しました。6カ所の小規模事務所を支援する中核となる事務所をヨハネスブルグに設け、1995年以降、IFC

はこの地域での存在を確固たるものとしています。小規模企業を支援するプログラムを再編し、アフリカ民間企業パートナーシップを立ち上げました。1990～2003年まで収益が上がらなかったIFCのアフリカのポートフォリオは、過去数年間に目覚ましい転換を見せています。このことは、財務的に好調な企業が開発効果をより幅広くもたらすことから重要です。

アフリカで評価の対象となった高い開発効果を実現したプロジェクトは、1ドルの投融資が現在価値で換算して1.5ドルの経済的純利益をもたらしているとIEGは見積もっています。一方、低開発効果のプロジェクトは、1ドルの投融資に対し0.10ドルの経済的純利益でした。全体として開発の成功率は、プロジェクト数で48%、投融資額で64%でした。投融資額の増大と結果の質の向上の両方が実現できれば、IFCが提案するアフリカへの事業拡大をより効果的に行うことができるでしょう。

民間投資：アフリカ vs. 世界の他の地域（1990～2004年）



資料：世界銀行統計データベース



RICHARD LORD



## 東アジア・太平洋地域

インドネシア共和国、カンボジア王国、キリバス共和国、サモア独立国、ソロモン諸島、タイ王国、大韓民国、中華人民共和国、トンガ王国、バヌアツ共和国、パプアニューギニア独立国、パラオ共和国、東ティモール民主共和国、フィジー諸島共和国、フィリピン共和国、ベトナム社会主義共和国、マーシャル諸島共和国、マレーシア、ミクロネシア連邦、ミャンマー連邦、モンゴル国、ラオス人民民主共和国

### IFCの東アジア・太平洋地域戦略

- ・地域の金融機関を強化し、資本市場を発展させ、中小企業の金融・ガバナンス、環境・社会面の活動に国際基準を適用しようとする中国国内の企業を支援します。
- ・ノンバンク金融機関と資本市場の成長を支援し、十分な金融が受けられない市場での金融へのアクセスを改善します。
- ・インドネシアのインフラストラクチャーへの多大のニーズに対応するためにモデル・インフラストラクチャー・プロジェクトを作ります。
- ・中小企業のニーズに重点を置きつつ、東アジア・太平洋地域の低所得かつ高リスク国の金融市場を育成し、インフラストラクチャーに投融資します。

### 東アジア・太平洋地域における契約調印額

(百万米ドル)



### IFC活動概観

	06 年度	05 年度
投融資プロジェクト総数	41	40
技術支援およびアドバイザー・サービス・プロジェクト支出合計 (百万米ドル)	\$26	\$24

### IFC職員およびコンサルタント

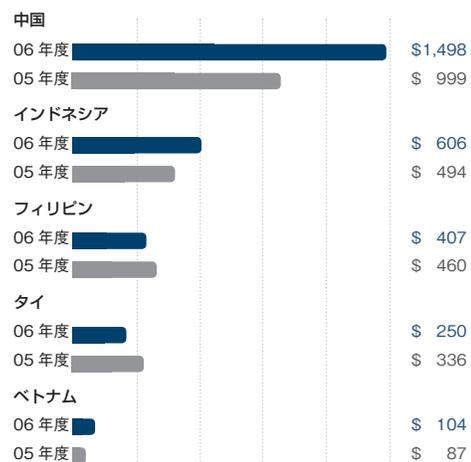
	本部	現地事務所
2006 年 6 月 30 日現在	6	344

### プロジェクトへの投融資と残高

(百万米ドル)	06 年度*	05 年度
IFC 自己勘定投融資契約調印額	\$ 982	\$ 740
融資**	624	520
出資**	310	195
保証およびリスク管理商品	48	25
協調融資調印額	243	72
<b>契約調印額合計</b>	<b>1,225</b>	<b>811</b>
IFC 自己勘定契約残高	3,253	2,920
協調融資契約残高 (融資および保証)	689	821
<b>契約残高合計</b>	<b>3,942</b>	<b>3,741</b>

### IFCの契約残高上位国

2006 年 6 月 30 日現在の IFC 自己勘定契約残高 (百万米ドル)



\* 正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている Soco Facility および Avenue Asia の各地域に対応する投資分を含む。

\*\* 融資は、融資型の準出資案件を含む。出資は、出資型の準出資案件を含む。



HOANG TUAN DUNG

IFC はベトナムの Bat Trang Ceramics Association の製品の売上増と輸出を支援しています。

## 高度成長と持続可能な民間セクター開発の両立

東アジア・太平洋地域は、国内総生産の伸びが2004年の7.5%から2005年6.8%へと幾分減少したものの、引き続き世界で最も急成長を続ける地域です。カンボジア、インドネシア、ベトナムの経済成長は加速し、中国経済も引き続き高い成長率を見せる一方、マレーシア、フィリピン、タイ、そして太平洋地域の小さなエコノミーの経済は減速しました。石油価格の高騰によって経済成長に抑制がかかる一方、地域の消費者と企業の景況感は共に変わらず良好で、民間消費と投資の伸びは勢いを増しています。中国企業が域内外への重要な投資家となったことから、域内貿易は引き続き成長を続けています。

経済の急成長が、インフラストラクチャー、環境、社会組織、金融システムに緊張を生じさせています。地域の経済成長の持続可能性を維持できるかどうかは、金融システムを進化させられるか、小規模企業を育成し、経済成長の裾野を広げられるか、インフラストラクチャーへのニーズに対応できるか、高い成長率をもたらす社会・環境面の影響に対処できるかどうかにかかっています。

IFCの東アジア・太平洋地域戦略は、投融资活動、技術支援、官民協働の革新的組み合わせによって、これらの課題への解決策を作り出すことです。

IFCの契約調印額は、2005年度が7億4,000万ドルであったのに対して、2006年度は9億8,200万ドルでした。これには、農業関連産業、情報通信、製造業の各プロジェクトへの資金提供を増加したことが含まれています。IFCは、今年新たにフィリピンの低開発の農村地域と、インドネシアの2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波の被害からの復興を進める地域の2カ所に新たに技術支援ファシリテーターを設立しました。

### 金融セクター育成

本年度もIFCは、地場通貨建て債券を含む地場通貨建ての長期融資商品の投入やノンバンク金融機関への投融资により、地域の金融セクターの進化と多様化に引き続き取り組みました。本年IFCは、中国国内の発行体が政府以外の民間市場で、多国間機関としては初めてのパンダ債券の発行体となりました。これは人民元債券市場が国際金融機関に

門戸を開いた記念すべき取引です。

この地域でのIFCの金融セクターへの契約調印には、インドネシアのPT Bank Danamonへの1兆3,000億ルピア、(約1億5,000万ドル相当)の地場通貨での融資が含まれています。これはIFCの世界最大の地場通貨建て融資であり、またインドネシアでのIFC史上最大の取引で、同行のマイクロ・クレジット部門の拡充を支援します。

### 小規模企業と地域企業の支援

開発機関としての任務の一環として、IFCは、国内のみで営業していた企業が地域市場さらに国際市場を舞台に活躍する企業へと生まれ変わるための支援も行っています。IFCは、4,500万ドルの融資をアジアの主要な農業関連産業グループであるCharoeon Pokhpand Groupのインドネシア子会社のCentralpertiwi Bahariに、その生産能力拡大のために提供しました。この融資は、同社が増大する輸出需要に対応するのを支援し、同時に限られた経済活動しかない農村地域に5,000人分の雇用を創出します。IFCは、ベト

ナムの木製家具輸出業者Paul Maitland Internationalへも80万ドルの契約調印を行いました。この融資は長期融資とともに認証木材製品の分野で同社が国際競争力を維持するのを支援します。

IFCが中小企業へ提供する技術支援は、新興経済の「フロンティア」地域では特に重要です。現在東アジアには、フィリピンとインドネシアのアチェ州における新しいイニシアティブを含め、6つの技術支援のための民間企業パートナーシップがあります。これら6つのファシリティは全て投資環境問題、金融へのアクセス、コーポレート・ガバナンスに焦点をあてています。ニアスとアチェへの新しい民間企業パートナーシップは、農産物ビジネスと漁業セクターの小規模企業の再活性化と、2004年の津波で壊滅的な被害を受けた企業の金融へのアクセスの改善を行っています。IFCのメコン民間セクター開発ファシリティ (Mekong Private Sector Development Facility: MPDF) は、今年カンボジア製衣料品の最大の買い手であるGap Inc.と協力し、650人以上の衣料品工場の監督者を対象に訓練を実施しました。

### インドネシアで融資へのアクセス拡充

インドネシアの銀行は概して、経済成長に重大な貢献をしている成長目覚ましい小規模企業よりも大規模企業に、運転資金のための短期融資を行っています。小規模企業が抱える金融上の障害を打破するために、IFCの東部インドネシア中小企業支援プログラムは、プロジェクトのパートナーであるSwisscontactと共に「企業の融資へのアクセスの促進」という名前の新しいビジネス・センターを開設しました。このセンターは、小規模企業が地場の銀行から融資を受ける支援を行い、事業所サービスの提供業者に研修を行います。同ビジネス・センターの支援を受けてこれまでに150社を超えるインドネシアの中小企業が1,050万ドル相当以上の新たな融資を地場銀行から得ています。

観光セクターでは、MPDFは、インターネットによるポータル・サイトと地元宿泊予約事務所の導入の技術支援を行い、メコン地域の400を超える小規模ホテルや民宿の経営者に、オンラインでの宣伝や予約受付の機会を提供しています。このプロジェクトは、現在独立してWorldhotel-linkとなっています。同社がフィジー、サモア、バヌアツ向けに開設したホームページの運営は新会社に引き継がれます。

### 長期にわたる持続可能な成長

企業、特に開発が天然資源に及ぼす影響が深刻な東アジア・太平洋島嶼国地域の企業は、長期的にリスクを軽減する上で持続可能なビジネス習慣が価値あることを認識し始めています。IFCはこの地域で、中国の発電施設からの排出ガス削減から、開発プロジェクトの影響を受けた地域の人々に安価な住宅や就労機会を提供することまで様々な業務に取り組んでいます。



IFCの東部インドネシア中小企業支援プログラムは、地元の家具製造業者と共に質の改善と競争力強化に取り組んでいます。

IFCは今年、中国の主要なリンゴ・ジュース製造会社のNorth Andreに技術支援を提供しました。これは、同社のサプライ・チェーンの中の数万にも及ぶ農家の食品トレーサビリティ（追跡可能性）と農業慣行の改善を目的とするものです。同社の従業員の健康や安全、農薬の使用状況は、North Andre製のジュ-

隣地域の小規模企業の支援も行っています。IFCの東部インドネシア中小企業支援プログラム（Program for Eastern Indonesia Small and Medium Enterprise Assistance：PENSA）は、インドネシアのアカシア農園が世界自然保護基金のグローバル・フォレスト・アンド・トレード・ネットワークのメンバーになること

アジアの主要農業関連産業グループである Charoeon Pokhpand Group の子会社は、生産能力増強のための4,500万ドルのIFC融資を利用して、インドネシアの農村地域に5,000人分の雇用の創出を目指しています。

スを購入する多国籍企業にとっても懸念材料です。

IFCの民間企業パートナーシップは、持続可能性のベスト・プラクティスに関する技術支援も提供しています。インドネシアでは、海草養殖と林業分野のプロジェクトによって安定的な雇用を創出し持続可能な生活を実現させています。さらに大型天然ガス・プロジェクトのサプライ・チェーンの一部となる近

を支援しました。違法伐採によって自然林が失われ続けている国の造林業にとってこの認証を取得することは大変画期的なことです。東南アジアで私たちは、国際労働機関（International Labor Organization, ILO）と協力し、ニッチ観光イニシアティブの推進と工場コンプライアンス・プロジェクトの制度化に取り組んでいます。ベトナムでは、IFCは女性経営者や女性管理職が直面する制約の



IFCは、中国で革新的な民間セクター保健医療サービスを提供しているUnited Family Hospitalsを支援しています。

分析を完了させ、彼らの金融へのアクセスを改善するための持続可能な資金提供プログラムを始めました。

#### インフラストラクチャーと保健医療

この地域でIFCが高い優先度を与えているインフラストラクチャーへの投融資は、既存のシステムを維持し、貧困削減が可能なペースで経済成長を持続させるために必要です。IFCは今年、新たに中国の淡水化プロジェクトと小規模水力発電プロジェクトに融資を行い、東アジアのインフラストラクチャー・セクターへの関わりをさらに多様化させました。IFCの資金でDagang NewSpringが中国天津に建設する海水淡水化工場によ

#### サモアの官民パートナーシップのモデル・ケース

国際輸送はサモアの経済成長に欠かすことのできないものです。IFCは、民間セクターを入れることによってサモアの航空輸送ニーズに対処するというユニークな解決策をアドバイザー・サービスの中で提供しました。

サモア政府が、国営Polynesian Airlinesの経営を続けるのに必要な補助金を捻出できない中で、IFCは政府が新しい民間セクターのパートナーを選定する競争的プロセスを作り上げるのを支援しました。落札したのは、サモアの観光業の成長と航空アクセスを保証しつつサモア政府の航空会社への負担を削減させる提案を行ったオーストラリアのVirgin Blueでした。Virgin Blueは他の路線でも運航を始めて最初の3年間で観光客の到着数を3分の1以上増加させた実績を持っています。商業的で、利潤追求経営のサモアの官民パートナーシップ事業は、国営航空会社の民営化に低料金の航空会社が参入した初めての事例です。

## 水不足解消を支援するため、IFCはDagang NewSpringに対して海水淡水化工場を中国の天津に建設する資金を提供しました。

て、水不足が解消され、地上水・地下水汚染が緩和されるでしょう。

IFCは、Zhongda Yanjin Power Generationへ3カ所の水路式発電所建設のために2,200万ドルを融資しました。このプロジェクトは開発の遅れている中国西部の省のひとつの雲南省での初のIFCプロジェクトで、これにより、電力不足が緩和され、温室効果ガスの排出が今後30年間に推計800万トン削減されます。またこのプロジェクトにより、都市化された中国沿岸部に比べ投資が立ち遅れている雲南省や近隣の省へ、より多くの投資家の進出を促すことが期待されています。IFCは、また、フィリピン政府に対して、Small Power Utilities Groupの一部門で電力供給網から外れた農村部へ電力を供給する部分の民営化に関するアドバイスも提供しています。

中国の高成長分野である技術セクターの5件のプロジェクトに合計5,000万ド

ルの投融資も行いました。これには、同額の投資を米国のMicrosoft Corporationから受けたソフトウェア・ソリューションのプロバイダーであるChinaSoftへの1,500万ドルの出資、SBCVC technology fundへの2,000万ドルの出資、光ファイバー網のための部品の設計と製造を行うNeoPhotonicsへの1,000万ドルの投融資が含まれています。

IFCは、中国のUnited Family Hospitalsの拡張資金として8,000万ドルの融資を行いました。中国は、保健医療セクターを民間の開業医や外国投資家に開放し始めたばかりです。このプロジェクトによって質の高い保健医療サービスへのアクセスが拡充されます。さらにIFCは、遠隔地の医療従事者も必要な継続教育を受けられるように、中国全土に衛星を通じて質の高い医療教育・訓練を低価

格で提供しているShanghai Aerospace Computer System Engineering Co., Ltd.へも460万ドルのファイナンス・パッケージを供与しました。

### ベトナムの企業制度整備支援

2005年12月ベトナムの国会は、国内外企業の投資環境を改善する目的で、投資法と企業法という2つの重要な企業関連法案を成立させました。IFCのメコン民間セクター開発ファシリティは、立法プロセスにおいて政府の法案起草委員会と国会に対して包括的な技術支援を提供し、ベトナム政府の高い評価を得ました。

メコン民間セクター開発ファシリティの技術支援は、各法案起草委員会に対する調査とその結果の発表から始まりました。調査等のテーマは、投資奨励策の国際的なベスト・プラクティス、投資家保護、コーポレート・ガバナンス、合法的に企業グループを作るための代替的アプローチなどでした。このファシリティの助言と広報キャンペーンによって、これらの問題はマス・メディアを通じ広く国民の間で、また利害関係者間で議論され、法案に関する広範な意見のフィードバックが得られました。



持続可能な観光のための技術支援プロジェクトによって、手工芸生産者の輸出市場が開拓されています。



LARRY JIANG

IFCの投資はインドネシアの海老養殖業者 Central Pertiwi Bahari が新しい輸出市場に進出するのを支援しています。

### 地場通貨建て融資ファシリティの恩恵を受取るインドネシアの小規模企業

IFCは今年、1億5,000万ドル相当のIFC最大の地場通貨建て融資をPT Bank Danamonへ提供しました。同行は、インドネシア市場で中小企業と消費者への融資を行う主要な銀行です。民間市場では銀行が入手できない資金をIFCが提供することによって、同行のマイクロファイナンスと小規模企業への融資の大幅な増大を支援します。地場通貨建て融資は、東アジアが必要としている革新的な大規模融資をIFCが提供できることを実証しています。

Danamon銀行への支援は、インドネシアでIFCが活動を強化し、同時に中小企業への支援を継続するというIFCの幅広い取り組みの一部です。IFCの投資によって、他の金融機関も企業家や中小企業への融資に踏み切るあるいは増大させることが期待されています。

地場通貨建て融資により、国内の借入者が資産と負債の通貨単位を一致させ、外貨での借入に伴うリスクを排除することを支援します。



## 南アジア地域

インド、スリランカ民主社会主義共和国、ネパール、バングラデシュ人民共和国、ブータン王国、モルディブ共和国

### IFC の南アジア地域戦略

- ・ 地域内・外への投融資支援、国際的ベスト・プラクティスの共有、国際競争力を有する中規模企業への出資・融資によって、地域の世界経済への統合を支援します。
- ・ プロジェクト・ファイナンスによるインフラストラクチャーへの投資を増やし、国内金融機関ならびにインフラストラクチャー整備会社の支援、地方自治体向けファイナンス取引、および特定のプロジェクトへのアドバイザー・サービスを増大させます。
- ・ 企業やインフラストラクチャー整備における省エネ、クリーナー・プロダクション、再生可能エネルギーの利用を促進します。
- ・ IFCの投資先企業、国内金融機関、各国政府、業界団体と協力し、中小企業、特に「フロンティア」市場の中小企業の成長を促します。
- ・ 中小企業を含めこれまでサービスを十分に受けていないセグメントへ金融サービスを拡充するため、金融機関、特に「フロンティア」国の金融機関の能力を強化します。

### 南アジア地域における契約調印額

(百万米ドル)



### IFC活動概観

	06 年度	05 年度
投融資プロジェクト総数	25	20
技術支援およびアドバイザー・サービス・プロジェクト支出合計 (百万米ドル)	\$12	\$6

### IFC職員およびコンサルタント

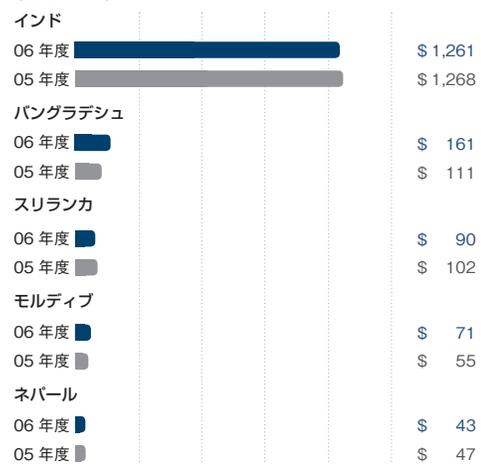
	本部	現地事務所
2006 年 6 月 30 日現在	4	139

### プロジェクトへの投融資と残高

(百万米ドル)	06 年度*	05 年度
IFC 自己勘定投融資契約調印額	\$ 507	\$ 443
融資**	367	384
出資**	130	57
保証およびリスク管理商品	10	2
協調融資調印額	200	200
契約調印額合計	707	643
IFC 自己勘定契約残高	1,800	1,634
協調融資契約残高	584	416
(融資および保証)		
契約残高合計	2,384	2,050

### IFCの契約残高上位国

2006 年 6 月 30 日現在の IFC 自己勘定契約残高  
(百万米ドル)



\* 正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている Avenue Asia の各地域に対応する投資分を含む。

\*\* 融資は、融資タイプの準出資案件を含む。出資は、出資タイプの準出資案件を含む。



CAIRN ENERGYより写真提供

## 起業家の育成とインフラストラクチャーへの民間投資の拡大

世界で最も早い経済成長を続ける地域の一つである南アジア地域は、2005年にも地域の平均経済成長率が7.6%という目覚ましい躍進を続けています。バングラデシュ、ブータン、インド、スリランカ各国は力強い経済成長をする一方、モルディブとネパールは比較的低い成長となりました。

この経済状況を背景に、IFCは2006年度自己勘定から5億700万ドルを契約調印し、さらに2億ドルを協調融資によって動員しました。本年の南アジア地域へのIFCの投融資の多くが、顧客企業の拡張支援と新商品・サービスの開発に向けられました。経済成長と人々の生活の質向上に欠かせないインフラストラクチャーの整備もまたこの地域でのIFCの投融資戦略の中心です。

投融資の機会が限られている分野での民間セクター開発のための我々の貢献は、主として小規模企業の成長のための技術支援を通じて行っています。バングラデシュ、ブータン、スリランカでのIFCの技術支援は、金融市場の育

成と、より一般的に投資環境改善の支援を行っています。

IFCは、南アジア企業開発ファシリティ (South Asia Enterprise Development Facility: SEDF)を通じ、バングラデシュ、ブータン、インド北東部、モルディブ、ネパール、スリランカの中小企業の成長支援を続けています。SEDFプログラムは、地元の銀行に働きかけ資金へのアクセスを増大させ、政府と共にビジネス環境を改善することによって、将来の投資機会の基盤を築いています。SEDFは、投資環境アセスメントを含む世界銀行の分析を活用して、世界銀行と緊密に連携しています。本年IFCは、低所得・高リスク地域のニーズにより効果的に対応するために、インド北部のゴハティとスリランカに新しく事務所を開設しました。

インドの経済成長は目を見張るものがありますが、貧困者の生活の質の改善はそれほど劇的には進んでいません。IFCは、インフラストラクチャー整備への民間セクターの一層の参加支援と政府の投資増大と農村の生産性向上の取り組み支援を通

じ、引き続きインドの投資環境改善に重点を置いてまいります。

### インフラストラクチャーへの投融資

南アジア地域の成長を維持するためには、インフラストラクチャーの大幅な改善が必要とされています。電力、上水道、輸送サービスといったセクターが抱える深刻なボトル・ネックが引き続き経済競争力を阻害しています。インフラストラクチャーの制約に対処するため、IFCは、2006年度に3件の官民パートナーシップ事業に総額4,400万ドルの投融資を行いました。

IFCは、米国に本拠を置くNational Rural Electric Cooperative Associationおよび、インドの電力セクター向け公的金融機関Power Finance Corporationとの間で、農村への配電のための官民パートナーシップ事業を立ち上げ、試験的電化事業に関するアドバイザー・サービスも提供する契約に調印しました。この連携は、2012年までに全国電化を目指すインドにとって重要な一歩です。このプログ

ラムによって設立される農村の配電事業会社は、非政府組織の小額融資と事業体支援を受けて、地域社会の組織が所有し、民間企業が運営します。最初のプロジェクトは、国営の電力会社による電化率が僅か人口の1%の西ベンガル州で実施される予定です。

IFCは、中小規模の水力発電施設をインドのヒマーチャル・プラデシュ州、マハラシュトラ州、マディア・プラデシュ州の6カ所に建設するHydropower Development Companyに、1,500万ドルを融資しました。これは、官民パートナーシップによるインフラストラクチャー・プロジェクトの推進について州や市の自治体政府に助言する能力増強のためにInfrastructure Development Finance Company Limitedに提供した1億ドルの協調融資と技術支援に続くものでした。

IFCは、インドで初めての民間による海水淡水化による水道供給に乗り出したChennai Water Desalination Limitedに2,500万ドルの資金を提供して、インドの上水道セクターにも初めて参入しました。この事業はまた、世界的に成長して



ブータンで IFC は小規模事業主に訓練を提供しました。

いる海水淡水化セクターでのIFCとして初めての投融資でした。

スリランカでは、小規模水力発電所の開発・運営会社であるEco Power Private Limitedの炭素排出削減クレジットの販売を支援しました。IFCとオランダ政府との共同イニシアティブのIFC-オランダ・カーボン・ファシリティは、2005年8月Eco Powerの再生可能エネルギー・プロジェクトの温室効果ガス排出削減クレジットを450万ドル相当購入する契約

に調印しました。この炭素排出削減クレジットの購入は、オランダが京都議定書のクリーン開発メカニズムを利用してその数値目標を達成するのを支援します。

### 新興セクターの成長のための ファイナンス

IFCは、今年は特に製造業、農産物ビジネス、情報技術、金融サービス分野へ主要な投資を行って、インドに長期融資や出資を引き続き行いました。

### 新興市場の多国籍企業間の戦略共有

新興市場間の投資の流れは、1995年から2003年の間に3倍に増え460億ドルに達し、開発途上国の外国直接投資の約35%を占めています。南南投資を支援するIFCの契約調印額も急速に伸び、今年6億7,300万ドルに達し、また、各地域において、こうした投融資プロジェクトがありました。

新興市場の企業が互いの国境を超える投融資の経験を学ぶことを支援するために、IFCは、フィナンシャル・タイムズと協力して2005年11月にインドのムンバイで会議を開催しました。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、中東、ラテンアメリカから来た地域ないし世界的な政府や財界首脳によるプレゼンテーションは、35カ国から集まった250名の参加者が投融資動向と国境を超える投融資の効果的戦略に関する理解を深めることに役立ちました。

IFCの資金による砂糖生産能力の拡充に伴い、農村地域のサトウキビ農家の雇用が増えます。

## 経済成長に拍車をかける電気通信ネットワークの充実

クウェートに本拠を置く Wataniya Telecomの子会社である Wataniya Telecom Maldives Private Limitedへの2,000万ドルの融資によって、モルディブの電気通信分野での競争が促進され、100以上の島々を含むこれまでサービスを受けられなかった地域へ携帯電話サービスの範囲が拡充されます。同社は、全国規模の携帯電話網を構築しつつあり、また海底光ファイバー・ケーブルを敷いて世界の他の国々との接続を改善することを計画しています。

Wataniya Telecomのプロジェクトは、モルディブの主要な漁業海域はもとより人が住む全ての島に携帯電話サービスを提供するものです。Wataniyaは、地元の民間企業 Horizon Fisheriesと密接に協力して、漁船の船長が通信技術を使って地元の加工工場の需要に魚の供給をうまく合わせるようにするのを支援しています。

IFCは、インドの大手パルプ・製紙会社の一つである JK Paperが、国内需要を満ち、環境システムを改善する能力を向上させるために2,650万ドルを出資と準出資を組み合わせ提供しました。またIFCは、インドのインフラストラクチャーの整備を支援するために、インド最大の大口鋼管製造会社である PSL Limitedへ2,000万ドルを出資と融資を組み合わせ資金を提供する契約を締結しました。自動車部品産業では、IFCは LGBと International Auto Limitedに対して、増大する需要に対処するための資金提供を行いました。

農産物ビジネス・セクターでは、インドの食用油製造会社の Ruchi Soyaが IFCの資金を使い、設備の増設、社員の訓練、労働力の増強を図っています。IFCは、インドの農産物ビジネスと化学の総合会社の DSCLの支援も行いました。昨年度の化学部門への3,000万ドルの投資に続き、IFCは、2006年度には DSCLの砂糖生産能力の拡充のために1,500万ドルの投融資を契約調印しました。これにより同社は、単位原価を下げ、農村地域のサトウキビ農家の雇用を増やす予定です。

技術セクターは輸出の25%を占め、引き続き経済成長を牽引しています。IFCは、初期段階技術ファンドの iLabsへ2,000万ドルを出資して、インドの情

報技術セクターの企業設立当初の資金ニーズに応えました。さらにIFCは、Indecomm、Nevis、KPIT Cummins Infosystemsへも出資しています。

南アジア地域の石油・ガス開発を支援するために、IFCは、Cairn Energyへ1,500万ドルの第2次融資を提供しました。Cairnはインドとバングラデシュで油田・ガス田を開発していますが、IFCの今回の新たな投資は、インドのラジャ

スタン州の未開発地域での業務を支援します。このプロジェクトは、ラジャスタン州の油田・ガス田の近隣の地域コミュニティにとって大切な機会であり、IFCは Cairnと協力して、地域コミュニティの広範な関与と経済開発プログラムを支援しています。

金融セクターではIFCは、小規模企業を含め、これまで金融サービスを十分に受けられなかった市場に対して、金融



IFCのブータンでの初めての投資は、リゾート建設への資金提供により、観光セクターを支援するものでした。

サービスを拡充しようとしている民間金融機関に、投融資および技術支援を提供しています。IFCは、インド南部の中規模民間セクター銀行のFederal Bankが全国展開し、増資の必要性の高まりに

BankとEastern Bankの2銀行は、地場輸入業者が世界の確認銀行のネットワークを通じてより良い資金アクセスを得られるようにIFCのグローバル・トレード・ファイナンス・プログラムに参加しました。

を行いました。繊維関連の諸取極め、特にマルチファイバー協定の終了によって、輸出額の75%以上を占め200万人の雇用者を抱えるバングラデシュの衣料品産業を取り巻く環境は競争が激化しています。南アジア企業開発ファシリティは、ニットウェア製造業者の米国への貿易使節団を組織・派遣し、市場コンタクトと販売の機会を作り、マーケティング・スキルを向上させる支援を行いました。ファシリティは使節団派遣のフォローアップ事業として産業内の協力と競争力の強化も進めています。

インドの若手企業家養成のために、IFC草の根ビジネス・イニシアティブは、不利な条件に置かれた若者に立ち上げ資金と指導・訓練を提供するBharatiya Yuva Shakti Trust (BYST) を支援しています。IFCは、BYSTが今後5年間に9万人の若手企業家と3万人の指導者に

## IFCは、2006年度に2,000人を超えるインドの草の根企業家と職人が新しい仕事を見つけ、売上を伸ばすのを支援しました。

対処するのを支援するために3,150万ドルを投融資しました。IFCはまた、インド各地のマイクロファイナンス機関に投資する目的で設立された投資ファンドLok Investmentsに200万ドルを出資しました（囲み参照）。バングラデシュのDhaka

### 企業家支援と競争力強化

IFCの南アジア企業開発ファシリティは本年、Bangladesh Knitware Manufacturers and Exporters Associationと協力し、地元の製造業者が市場でのシェアを広げ、販路と市場要件に関する理解を深める支援

## マイクロファイナンスの革新的ソリューション

Lok Investmentsは、IFCの200万ドルの出資と他の金融機関からの資金を合わせてインド各地で20余りのマイクロファイナンス機関への投資を行います。同社は、マイクロファイナンス・セクターの潜在的利益を実証することによって、地場銀行がマイクロファイナンスに一層重点を置くように促したいと考えています。ノンバンク金融会社への投資に加え、Lokはサービス会社—融資を行い、マイクロファイナンスの顧客とパートナー—銀行間のキャッシュ・フローのマネジメントを一定料金で引き受ける独立した民間の有限会社—への投資も計画しています。

このマイクロファイナンス育成の革新的アプローチは、インドの複数の銀行によるテスト・ケースで成功しています。Lok Investmentsの投資によって、農村地域の低所得者を中心に150万人の人々へのマイクロファイナンス融資が生み出されることが期待されます。



インドのAndhra Pradesh Paper Millsの拡張工事。

手を差し伸べるのを支援する予定です。

さらにIFCは、民間企業の「ミッシング・ミドル（失われた中間層）」—商業金融へはアクセスすることができないが、マイクロファイナンス機関の能力を超える資金需要を持つ企業—へ手を差し伸べようとする企業家成長ファンドへ50万ドルの資金を提供しました。



インドのラジャスタン州にある Cairn Energy の掘鉱リグ。

### インドでの「エイズへの挑戦」

IFCの「エイズへの挑戦」プログラムは、民間企業も政府、非政府組織、国際開発機関と協力してHIV/エイズの抑制に寄与できることを証明しています。今年このプログラムはインドにおいて、IFCの顧客4社と共に職場と地域社会での意識向上とHIV予防プログラムを開始ないし拡充しました。Ambuja Cement Foundation、Apollo Tyres、Ballarpur Industries Limited、Usha Martinは、IFCと協力して、プログラムの開発・拡充、性感染症治療を通じたHIV/エイズ治療の臨床能力の強化、長距離トラック運転手、季節労働者、その他業務上エイズ感染の危険に晒されている人々のエイズ予防や行動変化を促進するといった取り組みを行いました。



## ヨーロッパ・中央アジア地域

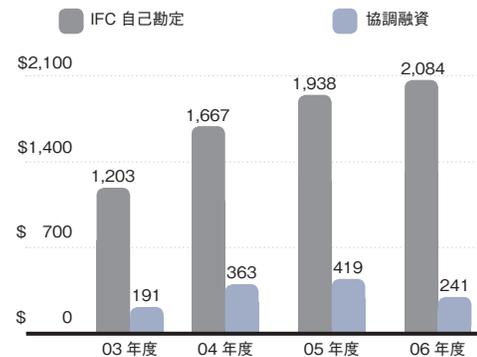
アゼルバイジャン共和国、アルバニア共和国、アルメニア共和国、ウクライナ、ウズベキスタン共和国、エストニア共和国、カザフスタン共和国、キルギス共和国、グルジア、クロアチア共和国、スロバキア共和国、スロベニア共和国、セルビア共和国、モンテネグロ共和国、タジキスタン共和国、チェコ共和国、トルクメニスタン、トルコ共和国、ハンガリー共和国、ブルガリア共和国、ベラルーシ共和国、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ポーランド共和国、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、モルドバ共和国、ラトビア共和国、リトアニア共和国、ルーマニア、ロシア連邦

### IFC のヨーロッパ・中央アジア地域戦略

- ・「フロンティア」市場を中心に、社会・環境面で持続可能なプロジェクトの透明性および良好なコーポレート・ガバナンスの向上に取り組みます。
- ・市場経済への移行を加速させつつ、経済の多様化と産業構造およびインフラストラクチャーの近代化への投資を支援します。
- ・中小企業のファイナンスへのアクセス、制度構築、革新的な金融商品に重点を置いて、金融市場を育成します。
- ・インフラストラクチャー・セクターと社会セクターでの官民パートナーシップと域内投融資の触媒としての役割を果たします。

### ヨーロッパ・中央アジア地域における契約調印額

(百万米ドル)



### IFC活動概観

	06 年度	05 年度
投融資プロジェクト総数	80	67
技術支援およびアドバイザー・サービス・プロジェクト支出合計 (百万米ドル)	\$32	\$38

### IFC職員およびコンサルタント

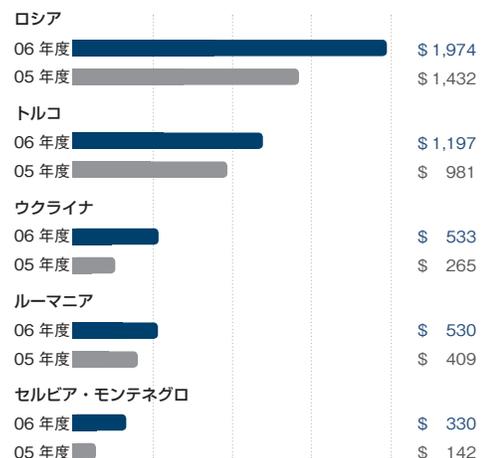
	本部	現地事務所
2006 年 6 月 30 日現在	12	486

### プロジェクトへの投融資と残高

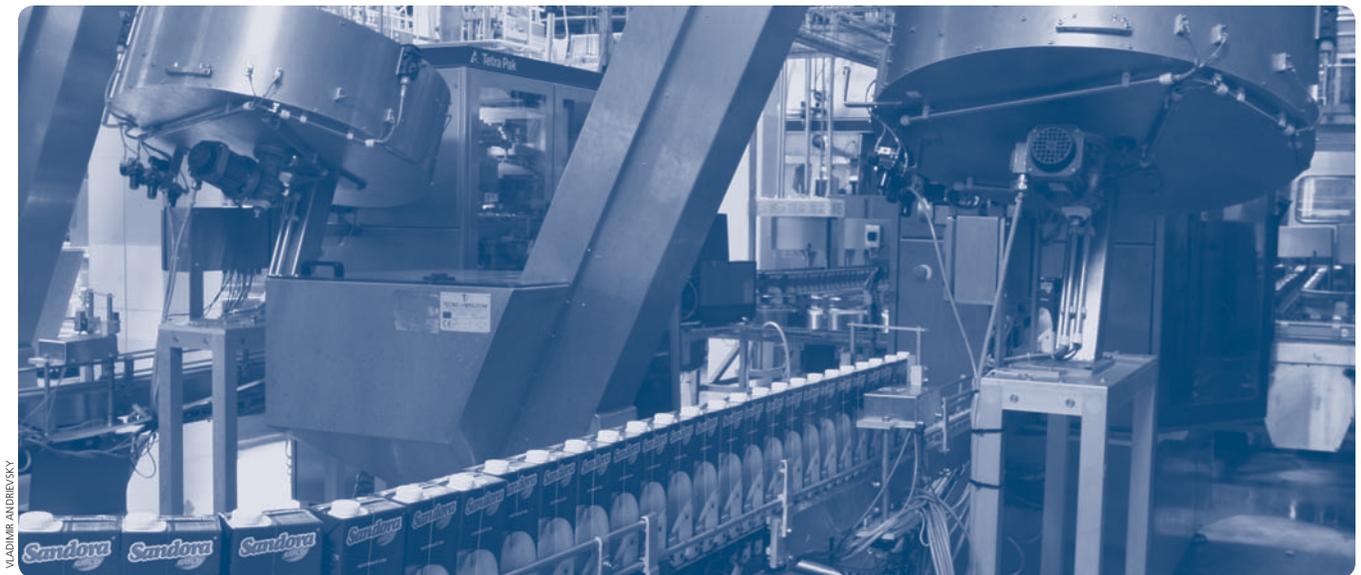
(百万米ドル)	06 年度*	05 年度**
IFC 自己勘定投融資契約調印額	\$2,084	\$1,938
融資***	1,710	1,751
出資***	231	187
保証およびリスク管理商品	143	0
協調融資調印額	241	419
<b>契約調印額合計</b>	<b>2,325</b>	<b>2,357</b>
IFC 自己勘定契約残高	6,525	5,423
協調融資契約残高	995	1,008
(融資および保証)		
<b>契約残高合計</b>	<b>7,519</b>	<b>6,431</b>

### IFCの契約残高上位国

2006 年 6 月 30 日現在の IFC 自己勘定契約残高 (百万米ドル)



\* IFC 自己勘定契約残高と協調融資には、正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている BTC Pipeline の各地域に対応する投資分を含む。  
 \*\* 正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている Melrose Facility の各地域に対応する投資分を含む。IFC 自己勘定契約残高と協調融資には、正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている BTC Pipeline の各地域に対応する投資分を含む。  
 \*\*\* 融資は、融資タイプの準出資案件を含む。出資は、出資タイプの準出資案件を含む。



VLADIMIR ANDREVSKY

ウクライナでIFCは、大手ジュース製造会社 Sandora の新工場建設の資金を提供しました。また IFC は、地元の農家が同社への果物と野菜の供給を改善するための技術支援も行っていました。

## ファイナンスへのアクセスと地場市場の拡充

ほとんどの国の成長率が5%を超え、2005年もこの地域の力強い成長は続きました。アゼルバイジャン、アルメニア、ラトビア各国は二桁の成長率となり、コーカサス地方とバルト諸国の国内総生産は特に急成長しました。新しく欧州連合に加盟した国々も世界市場への一層の統合の結果経済は伸びました。カザフスタン、ロシアといった豊かな資源に恵まれた多くの体制移行国では、高い商品価格に支えられて力強く経済が成長しました。同時にキルギス、ポーランド、ルーマニア、ウクライナ等の諸国では経済成長は急速に減速しました。

ヨーロッパ・中央アジア地域において本年IFCは20億8,000万ドルの自己資金による契約調印と、協調融資による2億4,100万ドルの資金動員を行いました。これらの投融資の多くはロシアとトルコに向けられました。ロシアでは、27件のプロジェクトに5億9,100万ドルを超える自己勘定による投融資と協調融資1億4,200万ドルを提供しました。トルコでは10件のプロジェクトに自己勘定による投融資5億1,300万ドルと協調融資5,000万ドルを追加動員しました。

バルカン諸国でのIFC事業は引き続き増えました。特にルーマニア、セルビア・モンテネグロでこの傾向は顕著でした。IFCのウクライナでの活動も2年連続で増大しました。コーカサス地方とバルカン諸国での事業拡大も目覚ましいものがありました。中央アジア諸国でのIFCの投融資活動は、零細・小規模ビジネスへの重点を強化しつつ、昨年と変わりませんでした。

IFCの技術支援は、金融機関の育成、ビジネス環境の改善、コーポレート・ガバナンス実践の強化といった継続事業を含め、旧ソ連諸国で引き続き重要な役割を果たしています。バルカン諸国でIFCは、これらの分野へ技術支援を再重点化すると共に、紛争解決の代替メカニズムの推進や欧州連合基準への企業の適合支援さらにインフラストラクチャー分野での官民パートナーシップの促進に力を入れています。

### 金融市場支援

金融機関の整備は依然この地域の全ての国の重要な優先課題であり、IFCの2006年度の投融資プロジェクトの半数

と技術支援の大半が金融機関の整備を目的とするものでした。

この地域の小規模経済では、地場銀行の強化のために資金提供とベスト・プラクティスに関する専門知識を組み合わせ提供しています。例えば2006年度にIFCは、アルメニアのInecobank、アゼルバイジャンのAzerigazbankとMicrofinance Bank of Azerbaijan、さらにグルジアのTBC BankとMobiasbancaの各銀行と共に活動しました。IFCはロシアの開発が遅れた地域でも同様のアプローチを継続しており、新しい顧客2行を含むモスクワ郊外の4銀行と共に活動しました。ウクライナでは、小規模ビジネスへのオン・レンディングのためにAval Bankに劣後融資を提供しました。南東ヨーロッパでは、ルーマニアのBanca Comerciala Romanaへの資金提供とセルビア・モンテネグロのBanca Intesaへの融資を通じて、小規模企業への融資支援を行いました。IFCは、ドイツの2国間融資機関のKreditanstalt für Wiederaufbauと協力して、零細・小規模ビジネスへの融資を促進するためにEuropean Fund for Southeast Europeに3,700万ドルの資金提供を契約調印し

した。ボスニア・ヘルツェゴビナでは、IFCは、低所得の女性企業家への融資を行うマイクロクレジット組織MI-BOSPOと協力しました。

IFCは、この地域のビジネス強化のためのプライベート・エクイティ・ファンドへ8,200万ドルの投資を契約調印しました。Emerging Europe Convergence Fund、Marbleton Property Fund、Euroventures Ukraine FundへのIFCの投資は、インフラストラクチャー、不動産、中規模民間企業への投融資を支援します。

この他の2006年度のIFCのプロジェクトはリースと住宅金融に重点を置きました。アゼルバイジャンのリース・セクターへの国際金融機関からの初めての投資であるIFCのUniBankへの融資は、アゼルバイジャンのリース産業の発展のために、IFCがスイス政府と共に実施したアドバイザー・サービスから生まれました。IFCは、Primary Mortgage Market Development Projectへのアドバイザー・サービスの提供と、Absolut Bank、Credit Bank of Moscow、Delta Credit Bankに対する住宅金融実施のための資金提供を通じて引き続きロシアの住宅金融セクターの成長を支援しました。IFCは、開発の遅れたスルプスカ共和国で営業しているボスニア・ヘルツェゴビナのNova Bankaへの投融資（この地域を拠点とする投資ファンドと共に）を通して住宅金融と小規模ビジネス金融を促進しました。

IFCは、この地域の企業向け信用情報

**アゼルバイジャンの中小企業向けの金融の不正への取り組みとして、IFCはリース業界育成のために技術支援と300万ドルの融資を提供しました。**

### ウズベキスタンの規制改革が小規模企業を後押し

IFCのアドバイザー・サービスによってウズベキスタンの小規模企業は年間3,300万ドルの資金を節約することができました。IFCの国内駐在アドバイザー・チームとの協議の結果、ウズベキスタン政府は、小規模企業の税制、検査、許認可、財務報告手続きを簡素化して同国のビジネス環境を改善する7本の大統領令を採択しました。

ウズベキスタンの企業家の書類作成事務は今ではコストが軽減され、小規模企業は売上げの13%相当の税金を一回納めるだけでよくなりました。検査官は、裁判所を経由することなく営業停止を命ずることも、軽度の違反や初犯に対し法外な罰金を課すこともできません。これまで年間20%のウズベキスタンの企業家に発行されてきた小売業および他の10種類の商業活動の免許制度が廃止され、市場への参入や事業拡大の自由化によりビジネスが促進されています。IFCは、ウズベキスタンで毎年実施する企業家調査を通じ、これからもこれらの改革の効果やアドバイザー支援の効果モニターします。

サービスの育成のための技術支援を続けました。この情報は金融機関の融資リスクと融資コストを軽減します。

### インフラストラクチャーの制約への取り組み

民間セクターは、ヨーロッパ・中央アジア地域の企業の成長を阻むインフラストラクチャー面の障害を取り除くことによって、市場へのアクセス増大を支援しています。IFCの南東ヨーロッパ民間企業パートナーシップ（Private Enterprise Partnership for Southeast Europe：PEP-SE）は、インフラストラクチャー

での官民パートナーシップの構築・実施に関するアドバイザー・サービスを提供しています。2005年10月の発足以来、PEP-SEのインフラストラクチャー担当は、セルビア・モンテネグロ政府から国営航空会社のJat Airways再建の首席アドバイザーに任命され、またアルバニア政府から同国の官民パートナーシップ政策のさらなる推進を任されました。このファシリティは、上水道、下水道、廃棄物処理サービスに関する同様のパートナーシップについても活動しています。

ロシアでIFCは、Brunswick Rail Leasingの拡張とEurosib Groupが国内の様々な地域に6カ所の内陸コンテナ・ターミナルを建設するのを支援しました。IFCはまた、旅客機シャトル・サービスを提供するロシア企業のAir Taxiと、グルジアで空港プロジェクトを進めるトルコのTAV Holdingsに資金提供を行いました。

## 環境に効果のある投融資

2001年以來IFCは、東ヨーロッパの国々の銀行が省エネ事業に資金を提供するのを支援してきました。IFCは、銀行やリース会社に対して、省エネ促進金融商品の開発やマーケティングに関するアドバイスおよび研修と共にクレジット・ラインや信用補完パッケージを提供しています。

寒さが非常に厳しく、エネルギー・コストが高騰した2005年の冬には、多くのハンガリー国民は以前より家庭の暖房費の支払いが少なくなりました。IFCは過去2年間、ハンガリーの地場銀行が、良質の断熱材、暖房効率を上げる窓、新型温度自動調節器などの個人家庭の省エネ対策に資金提供するのを支援しました。

今年IFCはロシアでも、旧式の暖房システムや老朽化した生産ラインの改良といった企業の省エネ対策に銀行が資金を提供するのに協力を始めました。ロシアの工業設備の半数近くは20年以上前のものであり、エネルギー原単位（生産製品単位当たりのエネルギー消費量）は最も豊かな国の10倍です。ロシア南部のロストフ・ナ・ドヌーでIFCは、400世帯への新しい暖房設備を含む複数の省エネプロジェクト資金として、400万ドルのルール連動融資をCenterInvest Bankに提供しました。新しい暖房設備によっ

て暖房費が40%削減されることが期待されます。

2006年度には他にもブルガリアとルーマニアでプラスの環境効果をもたらすことが期待されるプロジェクトを実施しました。電子メーカーで2001年からIFCの顧客であるEPIQ NVは、ブルガリアでの事業の拡張と近代化のための融資を受けました。自動車メーカー向けに同社が製造するセンサーによって、ヨーロッパのディーゼル車の排気ガスのモニターと燃費改善が図られます。ルーマニア最大の民営河川輸送会社CNFR Navrom Galati S.A.は、1,400万ユーロのIFC融資を使い同社のタグボートのエンジンを欧州連合の排出ガス規制を満たすエンジンに変える予定です。

IFCの鉄鋼セクターへの2件の大型投融資事業も近隣地域社会の環境に著しい改善をもたらすことが期待されています。OMKグループに属するロシアのVyksa Steel Worksへの6,000万ドルの融資と、ウクライナのIndustrial Union of Donbassへの1億ドルの融資は、両社が公害をもたらす平炉利用を段階的に停止し、国際的な環境基準へ適合するのを支援しつつ、両社の大規模な近代化プログラムに資金提供するものです。



IFCは、住宅金融プロジェクトを通じてキルギスの住宅事情の改善を支援しています。

## IFCの金融支援の恩恵を受ける キルギスの零細起業家

IFCは今年、キルギスの主要な小額融資機関の一つのMicro Credit Agency Bai Tushum Financial Foundationに220万ドルの金融パッケージを提供する契約に調印しました。IFCの資金を使いBai

Tushumは、非営利団体から、持続可能な商業ベースの金融機関となり、農民、民間企業家、辺境地域の小規模企業への融資を手がけるようになります。法令の規定に基づくマイクロファイナンス会社であるBai Tushumは、地場の零細企業家にはこれまであまり利用できなかった幅広い融資や財蓄商品を提供できるようにな

ります。推定3,200人のキルギスの新規零細企業家がこの恩恵に浴して、民間セクターの富を増大し、雇用を創出すると期待されています。

### その他の経済セクター

交通インフラの不備や小売・物流ネットワークの整備の遅れによって、この地域の地場市場へのアクセスは制約を受けています。IFCは、ウクライナで成長目覚ましいガソリン・スタンド網の拡充を図る Galnaftogaz への投融資などの契約調印を行いました。ウクライナではまた、家の改修を行う Nova Liniya という小規模な会社が州内各都市へ事業を拡大するための資金を融資し、Biocon Group が薬品の流通・小売業務を拡大するのを支援しました。アルメニアでは、800 を超える小規模小売業者に資金を提供して彼らが営業を行う首都エレバンのバザールの改良と拡張を支援しました。ロシアで IFC は、近代的冷凍食品配送・保管センターの Trio に資金を提供しました。さらに IFC は、Ramstore がロシアの開発が遅れた地域へ事業を拡大するのも支援し、モスクワ地域の交通インフラや流通ネットワークと結び付くことで、Trio は、傷みやすい製品の高品質な取り扱いに関する新たな業界基準を打ち立てることでしよう。

IFC のヨーロッパの農産物ビジネスへの投融資は主要な食品加工業者の市場を拡大するでしょう。バルカン諸国で IFC は、そのままでは経営が存続できない状態にあった Agrokor の食肉加工工場 2カ所の再建を支援しました。また IFC は総合農産物ビジネス企業の Rise に 100 万ドルを資金提供して、同社がモルドバ、ロシア、ウクライナで進める主要な納入業者やサービスへの農民のアクセスを広げる取り組みも支援しました。IFC はさら

に、Rise の経営計画の見直しやコーポレート・ガバナンスの向上の支援も行いました。

地域全体にわたる建設の伸びは、本年 IFC が支援したもう一つのセクターである建築資材に対する需要を増大させました。IFC は Zeus Ceramica に、ウクライナのドネツク地域にセラミック・タイル工場を新設する費用を融資しました。トルコでは、Sanko Group へ融資し、同社が大型セメント工場を建設するのを支援しました。

IFC は、Petrotel-Lukoil のルーマニア製油所に IFC の自己資金からの融資と協調融資合わせて 8,200 万ドルを提供しましたが、これは IFC による東ヨーロッパで初の石油精製セクターへの投資です。IFC は、このロシア企業が近隣諸国に事業を拡大するのを支援するのに加えて、同社が近代化を進め、環境面の改善を図るのを支援します。

IFC は、過去 3 年間 アドバイザリー・サービスを提供してきたトルコの携帯電話会社 Avea に 1 億 2,000 万ドルの融資を行いました。この融資は、トルコの電気通信業界の自由化を支援し、競争を推進し、究極的には電気通信サービスを利用者に手頃な価格で提供するものです。

ロシア南部の 400 世帯は、CenterInvest Bank への IFC のルール連動融資によって新しい省エネ型暖房設備を手に入れました。



IFC がアレンジする 8,200 万ドルの資金によって Petrotel-Lukoil のルーマニアの精油所の近代化と環境面の改善が図られます。

## トルコの保健衛生・ 教育分野への投融資

IFCは、トルコで民間セクターによる保健衛生・教育プロジェクトへの支援を拡大しています。今年IFCは、450万ドル相当の初めてのトルコ・リラ建て融資をアンカラの小中学校兼情報技術訓練機関であるYuceに提供しました。この融資を使いYuceは情報技術セクターで高まる職業訓練への需要に応えると共に公立および私立学校で広く利用されている教育用ソフトウェアの改良を図ります。ほとんどの機関が地場通貨建ての収入を得ている社会セクターでは、プロジェクトに地場通



トルコのアンカラにある Yuce School。

YUCE SCHOOLより写真提供

貨建ての資金を提供できることは特に重要です。

IFCはまた、イスタンブールで病院および外来診療施設ネットワークを運営するAcibadem Healthcare Groupへ4,000万ドル相当の融資を行いました。同社の事

業拡大のためのIFCの2回目の融資によってAcibademは、イスタンブール市内および質の高い保健医療サービスが限られているより小規模な都市にネットワークを拡大することができます。



Sandoraの事業に欠かすことのできない高品質の果物。

VLADIMIR ANDRIEVSKY

## ウクライナの農産物ビジネス

ウクライナ有数のブランドのジュース製造会社のSandoraは、瓶詰め工場の新設、製品の品質向上、流通の改善のためにIFCから2,000万ドルの融資を受けました。

同社が求める高品質の果物と野菜の安定供給を支援するために、IFCの民間企業

パートナーシップは、地場生産者と一緒になって、農場経営とマーケティングの改善を行っています。このプロジェクトは、スウェーデンの援助資金提供によるもので、農家が供給契約を交渉する際の法律面の支援も提供しています。Sandoraや他の同様の会社がより良い生産物へのアクセスを確保する一方、ウクライナの農民は、農村地域の雇用安定につながる

より強力なビジネス・パートナーシップを形成します。2006収穫年度についてSandoraは、25軒の農家と560万ドル相当の長期供給契約を結びました。これらの農家全体で1,500人以上の雇用が確保されます。



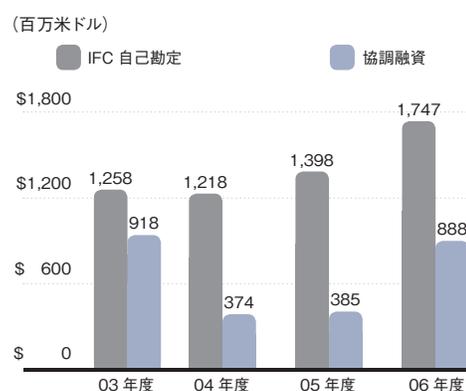
## ラテンアメリカ・カリブ海地域

アルゼンチン共和国、アンティグア・バーブーダ、ウルグアイ東方共和国、エクアドル共和国、エルサルバドル共和国、ガイアナ協同共和国、グアテマラ共和国、グレナダ、コスタリカ共和国、コロンビア共和国、ジャマイカ、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、チリ共和国、ドミニカ国、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ共和国、ニカラグア共和国、ハイチ共和国、バハマ国、バルバドス、パナマ共和国、パラグアイ共和国、ブラジル連邦共和国、ベネズエラ・ボリバル共和国、ベリーズ、ペルー共和国、ホンジュラス共和国、ボリビア共和国、メキシコ合衆国

### IFC のラテンアメリカ・カリブ海地域戦略

- ・ ビジネス環境整備と小規模企業の正規の経済への参加を支援します。
- ・ 資金へのアクセス向上：零細企業家、小規模企業、中規模企業を支援し、企業に長期資金を提供します。
- ・ 民間セクターの参加を増大させ規制の枠組改革にアドバイスを提供して、インフラストラクチャーを強化します。
- ・ コーポレート・ガバナンスおよび、社会・環境パフォーマンスの基準を高め、持続可能性を高めます。

### ラテンアメリカ・カリブ海地域における 契約調印額



### IFC活動概観

	06 年度	05 年度
投融資プロジェクト総数	69	54
技術支援およびアドバイザー・サービス・プロジェクト支出合計 (百万米ドル)	\$13	\$5

### IFC職員およびコンサルタント

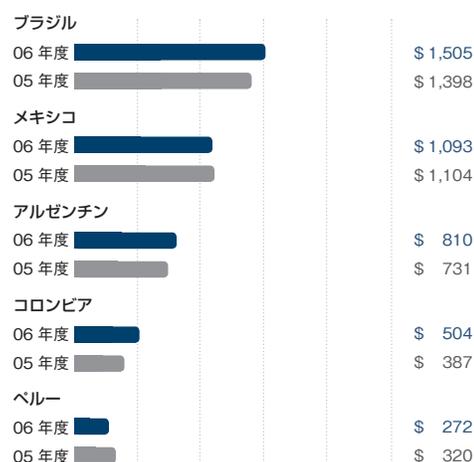
	本部	現地事務所
2006 年 6 月 30 日現在	11	95

### プロジェクトへの投融資と残高

(百万米ドル)	06 年度	05 年度
IFC 自己勘定投融資契約調印額	\$1,747	\$1,398
融資*	1,371	1,221
出資*	265	75
保証およびリスク管理商品	111	103
協調融資調印額	888	385
<b>契約調印額合計</b>	<b>2,635</b>	<b>1,783</b>
IFC 自己勘定契約残高	6,299	6,124
協調融資契約残高	2,328	2,179
(融資および保証)		
<b>契約残高合計</b>	<b>8,627</b>	<b>8,304</b>

### IFCの契約残高上位国

2006 年 6 月 30 日現在の IFC 自己勘定契約残高  
(百万米ドル)



\* 融資は、融資タイプの準出資案件を含む。出資は、出資タイプの準出資案件を含む。



ALEJANDRO PEREZ

IFCの地方自治体ファンドは、サンパウロの新しい地下鉄路線の車両の購入と運行費用に部分保証を提供しました。

## 長期的パートナーシップを通じた新興産業のリーダーの支援

ラテンアメリカ・カリブ海地域は、4年連続の経済成長となり、2006年度の成長率は前年と同じ4%増を達成すると見られています。しかし、国内の経済政策の改善や地域の商品の価値上昇にもかかわらず、この地域の経済成長率は他の新興市場に後れをとっています。過去25年間の世界全体の平均との比較で見ると国民一人当たりの国内総生産の伸びはサハラ以南アフリカ地域を除く他の全ての新興市場地域より低い状況です。実はそのサハラ以南アフリカ地域にさえ2005年には追い越されていました。

根強い貧困と格差が地域の社会的・政治的緊張を高め、経済成長の恩恵を得られない人々の間で不満が高まっていることは最近の選挙結果からも明らかです。新しい政権の国々の中には、経済運営に国がより大きな役割を果たそうとする国もあり、投資家の間に不安感が広がった結果、地域全体の投資レベルが下がり、経済の非効率性が高まっています。このことは経済成長を抑制し、貧困削減の努力の足枷となりえます。しかしラテンアメリカ・カリブ海地域の大部分の国々の政府は、民間セクターが開発の

力強い推進力であるという認識を持ち、また民間セクター自体はより積極的に格差是正に取り組み、企業家の育成を進めています。この地域の投資家の多くが、利害関係者の参加と持続可能性が、地元連携を強化し、評価を高め、底辺の引上げを実現するための重要な戦略であると認識しています。

IFCの活動は、こうした困難な状況を反映しています。IFCは、出資、融資、技術支援、アドバイザー・サービスを通じ、顧客企業との長期的パートナーシップを育て、小規模企業の市場へのアクセスを改善し、地域の有力企業の世界市場への事業拡大を支援しています。2006年度のIFCのラテンアメリカ・カリブ海地域での契約調印額は69プロジェクト17億5,000万ドルに達し、さらにこれに加えて民間銀行から協調融資によって8億8,800万ドルを動員しました。

IFCは、開発効果のある力強い成長の実現に努める一方で、常に顧客のニーズを優先しています。地域レベルと国レベルのIFCのラテンアメリカ・カリブ海地戦略は、ビジネス環境の改善、インフラストラクチャー、金融へのアクセ

ス、民間セクター活動の持続可能性に重点を置いています。顧客企業と共に成功を収めるために、IFCは創造的なソリューション、効率的かつ効果的な金融サービス、地球規模の知見、革新性を提供しています。

### 資金へのアクセス向上

協調融資参加銀行からの5,900万ドルの融資を含め、この地域でIFCは25件の取引を通じて金融セクターに記録的な6億3,500万ドルの契約調印を行いました。各国事務所に投融资担当者を増強したことの証として、これらのプロジェクトの3分の2以上を、各国事務所が遂行しました。IFCの金融セクターへの契約調印額の約70%、すなわち4億1,000万ドルが、ブラジル、コロンビア、ペルーで実施された革新的プロジェクトを含め、地場通貨建てで行われたものです。IFCは、中規模銀行と共に、中規模起業が融資を利用し易くするための強力なプログラムも開発しました。

この地域での金融セクターへの契約調印には、コロンビアへの1億5,600万ドル、メキシコへの1億3,000万ドル、

ブラジルへの1億1,100万ドル、さらに今年大幅に増えたカリブ海諸国でのプロジェクトへの8,100万ドルが含まれています。IFCは、零細・中小企業向け融資へ2億800万ドル、住宅金融へ1億5,000万ドル、そして一般銀行融資に1億2,000万ドル近くを契約調印しました。4件の貿易金融ラインが26件総額4,500万ドルの取引につながり、その多くはブラジルの小規模輸出業者を支援しました。IFCはまた、出資・準出資の形で1億8,300万ドルを地域の企業へ資金提供しました。

#### インフラストラクチャー、保健衛生・教育分野への投融資

IFCは今年、この地域の14件のインフラストラクチャー・プロジェクトに4億700万ドルの契約調印を行い、さらに協調融資によって3億1,200万ドルを動員しました。開発の効果を最大化するため、IFCは世界銀行と協力し官民

## ラテンアメリカ・カリブ海地域の金融市場セクターへのIFCの投融資契約調印の70%が地場通貨建てで行われました。

パートナーシップを推進しました。IFCは、アドバイザー・サービスと投融資の提供に加え、民間セクターの視点から政府との協議に参加しました。その結果ブラジルでの新しい官民パートナーシップ法やメキシコでの官民パートナーシップ関連の規制枠組の改善といった進展が見られました。グアテマラでは、市およびその他地方政府へのファイナンスによる支援を提供しました。

2006年度のIFCのインフラストラクチャーへの投融資には、ブラジルの最も貧しい州の一つであるセアラ州に信頼性の高い発電のための310メガワットの

火力発電所プロジェクトへの6,250万ドルの投融資と6,750万ドルの協調融資が含まれています。この発電所は、特別目的会社Central Geradora Termoeletrica Fortalezaが建設・運営する予定です。

IFCは今年、ジャマイカのSangster国際空港拡張のための金融パッケージを含め、数件の空港および航空会社への資金提供も行いました。ドミニカ共和国のLas Américas空港の空港施設改良とSamana空港建設にもIFCは融資を行っています。ブラジルのTAM航空の事業拡大を支援するため、5,000万ドルの資金提供にも契約調印しました。

IFCは、より多くの人々が質の高く手頃な価格の教育サービスにアクセスできるようにするため、地域全域で教育プロジェクトに投融資しました。メキシコで3番目に大きな私立大学Universidad Tecnológica de Méxicoの3つの新しいキャンパスの建設に3,000万ドル相当の地場通貨建て融資を行いました。またIFCは、タンピコの病院Centro Españolの近代化と拡張のために500万ドル相当の資金を地場通貨建てで提供しました。IFCが関与することによって、同病院が、より効率的な会計と財務管理プロセスを設定し、また、給水、医療廃棄物、衛生・感染対策、防火面の管理体制を強化することが支援されます。ブラジルでは、主として低所得層の学生のための大学であるAnhaguera Educacionalの事業拡大を支援するためFundo de Educação para o Brasilへ出資と融資を行いました。

#### 住宅金融および貿易金融

IFCは今年、住宅金融と貿易金融へのアクセスを向上するための数件の投融資を実施しました。IFCは、ブラジルのRio Bravo Securitizadoraが住宅用不動産への融資と証券化事業を拡大するために150万ドルの出資と2,200万ドル相当のクレジット・ラインから構成される資金を提供しました。コロンビアでは、大手住宅ローン取扱銀行のBanco Daviviendaの資金源の多様化と満期の不整合を是正するため6,100万ドル相当の資金をパッケージで提供しました。

IFCは、Latin American Agribusiness Development Corporationへの3,000万ドルのクレジット・ライン提供によってラテンアメリカ16カ国で輸出指向の小規模農産物ビジネスを支援しています。同公団はこの長期資金の提供を受けて、輸出農家および中小農産物企業に資本投資を行うことができるようになります。この地域の小規模企業の金融へのアクセスを改善するため、IFCは、ボリビアの小規模輸入業者への貿易金融資金としてBanco Mercantilへ投融資を行いました。さらにIFCは、地域全域でマイクロファイナンス機関へ準出資タイプの投融資を行う投資会社Solidusの設立に300万ドルを出資しました。

## 持続可能性を推進する

IFCは、ブラジルとペルーを中心に、多数のコーポレート・ガバナンス・イニシアティブを実施し、また顧客の市場へのアクセスを改善するための技術支援も提供しています。社会・環境問題で指導的役割を果たす企業の事業拡大を支援するため、IFCは今年、アルゼンチンの同族経営のキャンディー・メーカーのArcorに2億8,000万ドルの資金パッケージを提供しました。同社は、この資金をラテンアメリカ数カ国への事業拡大に使用します。

IFCは、グアテマラ、ガイアナ、ペルーでの炭鉱セクター・プロジェクト、ブラジルのアマゾン地域の農産物ビジネス、チリとニカラグアの森林セクターの事業などで社会・環境面の基準を設定する役割をしました。これらの多くの取り組みを通じIFCが目指すのは、IFCの資金面の支援と技術支援の複合効果を最大化することです。例えばガイアナのGuyana

Goldfieldsへの460万ドルの投融資は継続中の探査プログラムとプロジェクトのフィージビリティ・スタディを支援するものです。事業の初期段階からプロジェクトに関与することによって、IFCは同社と協力して地域社会と市民社会とのパートナーシップ構築、地場経済の成長、環境面の管理を進めています。

チリのプライベート・エクイティ・フォレストリー・ファンドのFondo de Inversión Forestal Lignumへの投融資を通じ、IFCはチリの中小地主が革新的な不動産の証券化によって当面の所得を増大する支援を行っています。IFCの投融資機会が限られている高リスク・低所得国でIFCは、経済活動の持続可能性を向上させるための技術支援を提供しています。例えばニカラグアでは世界自然保護基金と協力して森林イニシアティブを実施しています。

IFCは、サンパウロ証券取引所のBovespaがブラジル株式市場向けに投

入したビジネス持続可能性インデックス・ファンドの開発を支援するための資金を提供しました。新興市場では2番目となるこのインデックスはCenter for Sustainability Studiesが開発し、サンパウロ証券取引所に上場する28社の地場企業が含まれています。これは、企業の業績に加え、コーポレート・ガバナンスと社会・環境面のパフォーマンスを追跡します。このインデックスは、2005年12月にサンパウロでIFCが主催した新興市場の持続可能なファイナンスに関する会議で発表されました。

## ビジネス登録手続の簡素化

IFCと世界銀行の共同報告書「Doing Business」は、この地域の抱えるビジネスおよび投資上の制約に対する意識を高めました。IFCは、ブラジル、コロンビア、メキシコ、ペルー各国の改革政策を支援しています。IFCのラテンアメリカ・



JOUNI MARTTI EERIKAINEN

ブラジルの Tecon Salvador の貨物ターミナルに対する IFC の資金提供によって、そのコンテナ取扱量が倍増されました。

## インフラストラクチャーでの官民パートナーシップ

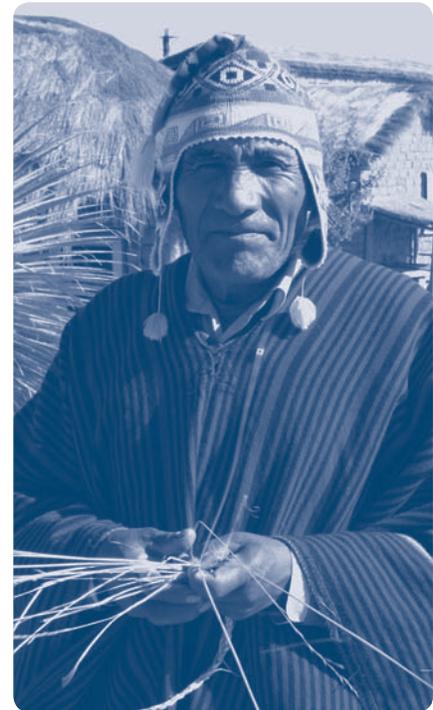
IFCは2002年からメキシコ政府に官民パートナーシップについてのアドバイスを提供していますが、その努力がLeon Hospitalプロジェクトとイラプアトとラ・ピエダド間の道路工事プロジェクトの入札の成功に結実しました。ブラジルでは、バイーア州の道路と北東部のポンタルの灌漑プロジェクトの2つのイニシアティブについてIFCは連邦政府にアドバイスを提供しています。

グアテマラ・シティでは、Transmetro大量輸送システムの建設に資金を提供するために世界銀行と協力しています。地方政府への資金供給のために Banco G&T Continentalに最高660万ドル相当の地場通貨建てリスク・シェアリング・ファシリティによる部分保証を提供しました。総額では、IFCは4,620万ドルを都市交通システムのために動員する支援をします。このプロジェクトは通勤手段を公共交通機関に頼る多くの人々を含め1日当たり18万人の人々に恩恵を与えると期待されています。

カリブ海ファシリティは、ビジネス登録  
手続簡素化に取り組み、小規模企業の正  
規の経済への移行を助けています。

60%を越える企業がインフォーマル経  
営を続けるペルーでIFCは、リマでの起  
業に要する日数が60日以上かかったの  
を2日以内に短縮し、正規のセクターへ  
のこれらの企業の参加を支援していま  
す。IFCはまた、ボリビアの多くの都市  
で市役所職員を訓練し、また市役所の情  
報技術インフラを整備しています。企業  
登録手続を改善し、登録までに企業家  
が市役所へ出頭する回数を平均で6回  
から2回へと減らしたことによって、正  
規の経済に参加するボリビアの企業  
の数が増え、市役所の企業登録関連  
収入も25%増えました。

IFCは、電気通信サービス事業者の  
Digicelに1,500万ドルの資金を提  
供して、ハイチでは過去30年間で最  
大となる外国投資を支援し、電話サ  
ービスへのアクセス向上を助けてま  
した。



IFCの先住民企業開発プログラムの恩恵を受ける  
地元手工業者。

### ブラジルで石油化学製品に付加価値化をつけるのを支援

IFCは、ブラジル最大の石油化学会社の一つであるSuzano Petroquímicaから、サンパウロ近郊で同社の石油化学製品を付加価値の高いプラスチック製品へ変換する小規模企業の能力を向上させるよう支援要請を受けました。IFCの支援は二つの恩恵をもたらすと期待されています。Suzanoにとっては、さらなる需要を創出し、より利幅が大きくなる可能性があり、ブラジルにとっては、基本的に一次産品の輸出国である現状から抜け出し、価値連鎖の上方へ移り、新たな投資機会と雇用を創出し、国内により多くの付加価値をとどめるチャンスです。このイニシアティブによって約1,200人の従業員を擁する20～30社の中小プラスチック製造業者のグループの成長が支援されることが期待されています。

またIFCは今年、Suzanoに6,000万ドルを契約調印しています。同社はこの資金を使い企業買収と企業再編を進める予定です。

IFCの最初の投融資は、1956年にSiemensに対して行った、ブラジルで発電用設備を製造するための期間15年の200万ドルの融資でした。半世紀を経た現在IFCは、ボリビアやハイチといった当地域の低所得国の30企業への6億ドル近い投融資を含め、ラテンアメリカ・カリブ海地域で310億ドルの投融資と資金動員を行っています。業務を通じ、IFCはラテンアメリカ企業の成長を促進するための長期的パートナーシップを築いてきました。

### アルゼンチン

IFCは、時として困難な投資環境の下で、アルゼンチンの112の企業に60億ドルを投融資しました。2001年のアルゼンチン通貨危機の間も、IFCは民間セクターを支援する唯一の国際金融機関としてアルゼンチンにコミットし続けました。私たちは、1986年以来の顧客である主要農産物ビジネスグループのAceitera General Dehezaなどの顧客への融資を続けました(P.17参照)。

### ブラジル

IFCはブラジルの167企業に80億ドルの投融資を行いました。ブラジル経済が浮き沈みを繰り返す中、例えば、2002年に8億ドルの貿易金融を再開するなど、IFCは危機において革新性を発揮しました。IFCは、一貫してブラジルの新しい成長産業を支援してきており、例えば、1970年代にはブラジル初の石油化学プロジェクトを支援しましたが、これは今日ブラジルの国内総生産の中の第5位の産業へと成長した石油化学産業の最初の一步でした。そして現在同セクターは国際競争力の強化へ向けた整理統合の第2段階にあります。2006年度IFCは、主要石油化学会社数社に3億5,000万ドルの投融資を行いました。

### メキシコ

IFCは、メキシコの経済危機の間も活発に投融資活動を続けました。経営に行き詰っていたGrupo Visaの再建と復興にもIFCは非常に重要な役割を果たしました。1982年のメキシコの経済危機以降、同社はIFCとVisa Groupの管理の下、財務整理を進

めました。1988年、IFCは8,000万ドルを融資し、これを触媒として同社はさらに1億4,600万ドルの投資を動員することができました。その後同社は名称をFEMSA (Fomento Económico Mexicano, S.A.)に変え、ラテンアメリカ最大の消費財製造会社へと成長し、2005年の売上は990億ドルに達しています。

### コロンビア

1990年代初頭より、IFCはコロンビアの資本市場の一層の効率化と規制枠組の健全化を支援する上において重要な役割を担ってきました。2001年、パートナーの地場金融機関と共にIFCは、コロンビア初の住宅ローン債権流通会社のTitularizadora de Colombiaへ4,000万ドルの出資と1億ドル相当の地場通貨建て保証ファシリティを提供しました。さらに、2002年3月には、発行額が約1億ドルに相当する2,250億コロンビアペソ建て債券を発行しました。IFCはコロンビアペソ建て債券を発行した最初の国際機関です。

### ハイチでの民間セクターの活動

90年代にハイチは国としての崩壊に瀕していたにもかかわらず、IFCは同国で活発に投融資活動を続けました。1998年、IFCはハイチ初の零細企業家向け金融機関のMicro Credit Nationalの設立に50万ドルを投融資しました。このIFC初のハイチ資本市場プロジェクトは、近年の情勢不安定な時でも変わらずに、国のいたるところで商業ベースの事業活動を続けています。

2006年度IFCはこの地域での長期的パートナーであるDigicelと共に、ハイチの電気通信プロジェクトに1,500万ドルを提供しました。過去30年間で最大の外国投資であるこのプロジェクトを通じて、2007年までに携帯電話の普及率が50%以上に拡大すると期待されています。カナダ国際開発庁の資金を得てIFCは世界銀行と協力して、Electricité de Haïtiの監査にも着手しています。



## 中東・北アフリカ地域

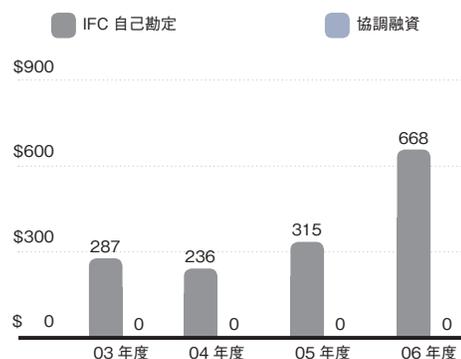
アフガニスタン・イスラム共和国、アラブ首長国連邦、アルジェリア民主人民共和国、イエメン共和国、イラク共和国、イラン・イスラム共和国、エジプト・アラブ共和国、オマーン国、クウェート国、サウジアラビア王国、シリア・アラブ共和国、チュニジア共和国、バーレーン王国、パキスタン・イスラム共和国、モロッコ王国、ヨルダン・ハシェミット王国、ヨルダン川西岸・ガザ地区、大リビア・アラブ社会主義人民ジャマール・ヒリーヤ国、レバノン共和国

### IFC の中東・北アフリカ地域戦略

- ・ 投融資と国際的ベスト・プラクティスに関するアドバイスを通じ経済改革を支援します。
- ・ 金融、インフラストラクチャー、中小企業セクターへ投融資を集中します。
- ・ 金融セクター、中小企業、ビジネス環境、官民パートナーシップ、民営化に関しての絞った高い効果の技術支援を提供します。
- ・ 経済統合とビジネス拡大を加速する地域内および地域間投融資を促進します。

### 中東・北アフリカ地域における契約調印額

(百万米ドル)



### IFC活動概観

	06 年度	05 年度
投融資プロジェクト総数	29	21
技術支援およびアドバイザー・サービス・プロジェクト支出合計 (百万米ドル)	\$20	\$5

### IFC職員およびコンサルタント

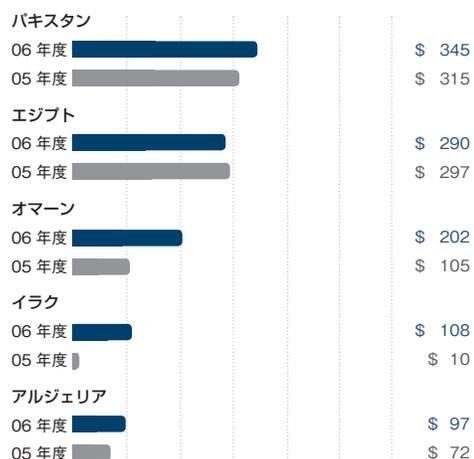
	本部	現地事務所
2006 年 6 月 30 日現在	4	189

### プロジェクトへの投融資と残高

(百万米ドル)	06 年度*	05 年度**
IFC 自己勘定投融資契約調印額	\$ 668	\$ 315
融資***	504	257
出資***	100	20
保証およびリスク管理商品	64	38
協調融資調印額	0	0
<b>契約調印額合計</b>	<b>668</b>	<b>315</b>
IFC 自己勘定契約残高	1,556	1,210
協調融資契約残高	314	664
(融資および保証)		
<b>契約残高合計</b>	<b>1,871</b>	<b>1,874</b>

### IFCの契約残高上位国

2006 年 6 月 30 日現在の IFC 自己勘定契約残高 (百万米ドル)



\* 正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている Soco Facility と Veolia AMI の各地域に対応する投資分を含む。IFC 自己勘定契約残高には、正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている BAPTFP の各地域に対応する投資分を含む。

\*\* 正式にはグローバルなプロジェクトとして分類されている BAPTFP と Melrose Facility の各地域に対応する投資分を含む。

\*\*\* 融資は、融資タイプの準出資案件を含む。出資は、出資タイプの準出資案件を含む。



MICHAEL HIGGINS

## 新興市場企業の世界進出を促進する

石油輸出各国が力強い経済の拡大を見せる一方、イラク、レバノン、シリア、ヨルダン川西岸・ガザ地区、イエメン各国が比較的弱い成長にとどまる中、中東・北アフリカ地域全体の2005年の国内総生産の成長率は5%でした。この地域の多くの部分を覆う高い失業率に駆り立てられ、エジプト、パキスタンなど、いくつかの国は民間セクターの投融資を呼び込み、雇用を創出することを目的とする改革に乗り出しました。これらの改革に合わせて、IFCは地域全体で投融資および技術支援活動を増大させています。

2006年度のこの地域でのIFCの契約調印額は、前年の21プロジェクト、3億1,500万ドルから100%以上の伸びを見せ、プロジェクト29件で総額6億6,800万ドルに達しました。ポートフォリオの拡大を目指し、IFCはアルジェリア、エジプト、パキスタン、アラブ首長国連邦で上級職員を雇用して事業の展開を推進しています。2006年度のIFCの投融資活動はインフラストラクチャー、製造業、石油・ガス、金融機関

といった経済セクターで、地域全体に広がっています。金融機関への投融資は、IFCのこの地域での契約調印額の40%以上を占めています。IFCが主として民間企業パートナーシップ・ファシリティを通じて顧客企業、政府機関、業界団体へ提供する技術支援も今年大幅に増えました。

### 金融機関と金融市場支援

パキスタンのHabib Bank Limitedの民営化を支援するため、IFCは同銀行の資金調達先を多様化し、また同行が地場企業により長期の融資提供をすることが可能になるように5,000万ドルの長期融資を行いました。このプロジェクトはIFCとAga Khan Fund for Economic Developmentとのパートナーシップによる多くの事業の中の一つです。IFCの同行への技術支援は、同行が経営を再建、近代化し、その融資を消費者および中小企業に適合したものにしていくことを続ける中で能力の強化を支援しています。さらにIFCは、同行が社会・環

境に責任ある資金提供を行うのを支援するためのアドバイスも提供しています。

2004年、アフガニスタンのマイクロファイナンス機関のFirst Microfinance Bank of Afghanistanに当初100万ドルの出資に行ったのに続いて、今年IFCは、350万ドルのスタンバイ・クレジット・ファシリティを提供しました。クレジット・ラインに加え、IFCは他の援助国と協力し、FMBAのインフラストラクチャーの制約への取り組みや保安、ジェンダー・アウトリーチ、行員研修を支援するための技術支援パッケージを提供しています。

モロッコで、IFCは、Foundation for Local Development and Partnershipに対し、同財団の成長可能性と今後数年間の事業展開計画を補完する目的で、開発資金と技術支援の総合的なパッケージを提供しました。同財団は都市や準都市地域の零細企業家、特に女性零細企業家にクレジット・ファシリティを提供するマイクロファイナンス機関です。IFCは、FONDEPが地場商業銀

行から地場通貨建てで資金を調達することを支援するために部分信用保証を提供すると同時に、内部統制とリスク・マネジメント・システムを構築するための技術支援も提供しました。この地域でのマイクロファイナンス・セクターへの投融資にはまた、パキスタンのTameer Microfinance Bankの当初資本金の10%を上限とする100万ドルの出資があります。この銀行は、低所得の個人自営業者を対象にする予定です。

別の形態の金融を支援するため、IFCはアフガニスタン、エジプト、ヨルダン、オマーン、パキスタン、サウジアラビア各国でリース会社へ投融資または技術支援を提供しました。住宅金融の分野でIFCは、サウジアラビアでKingdom Installment Companyが不動産担保証券を発行するのを支援して、先例をつくりました。

Paktelは、IFCが提供した3,500万ドルを使い、2007年までにパキスタン全土に携帯電話サービスを普及させる予定です。

#### その他の主要セクターでの投融資

石油・ガスはこの地域の多くの国の経済を支配しています。2006年度のIFCの契約調印にはこれらのセクターでこれまで顧みられてこなかった側面への支援が含まれています。アルジェリアで石油・ガス会社のベース・キャンプへの支援サービスを提供する物流会社Red Medは、IFCから1,000万ドルの収益参加型融資を受けました。さらにアルジェリアでIFCは、同国初の民営化肥料会社Fertialへ2,400万ドルを投融資しました。また同社の肥料の利用者である農民への技術支援も計画しています。

この地域の国々が世界経済との貿易を拡大する中で、インフラストラクチャーは極めて重要な投融資分野であり、IFC

は引き続き運送および海運分野での民間投資を支援しています。ヨルダンでIFCは、セメントの域内輸送を専門とする海運会社のCTI Groupへ1,500万ドルの融資を契約調印しました。同社は老朽化したセメント運搬船団を新しい船に取り替えるために多額の投融資が必要でしたが、地場銀行から長期の資金提供を受けることができず、また伝統的船舶融資へのアクセスも限られていました。IFCから長期の資金提供を受けることは、CTIの船団の刷新と事業拡大計画に不可欠であり、海運業融資を行う国際的な銀行への同社のアクセスを容易にするでしょう。IFCはさらに、CTIと共にコーポレート・ガバナンス実践上での改善を進めています。

#### IFCがアフガニスタンの携帯電話ネットワークへ資金提供

アフガニスタンにおける本年最大の外国投資であったGSM方式のデジタル携帯電話ネットワーク構築と全国規模の営業を支援するため、IFCは、4,000万ドルの融資と500万ドルを上限とする出資をAreeba Afghanistanと契約調印しました。アフガニスタンの電話普及率は、2005年現在100人当たりの固定電話が0.5回線以下、携帯電話は4台以下と世界で最も低い水準にあります。これは、近隣諸国と同様の経済状況にある国々と比べて、著しく低い普及率です。このことは経済活動の障害となるばかりではなく、中央政府と地方政府との間

の意思疎通をさまたげます。

このプロジェクトは、信頼度の高い電気通信サービスを手頃な価格でより多くの消費者、企業、公的機関へ提供すると共に、必要性の大きいアフガニスタンの農村や十分なサービスが提供されていない地域へサービス範囲を拡充します。さらにAreebaへの投融資は、電気通信分野の自由化と民間セクターの参加・競争を推進するアフガニスタン政府の政策を後押しするものです。

Areeba Afghanistanは、ベナン、ガーナ、ギニアビサウ、リベリア、スーダン、シリア、イエメンを含む「フロンティア」市場での実績を持つ携帯電話事業者のInvestcomが所有する会社です。IFCは、低開発市場に投資を行うInvestcomを資金的に支援す

ることによって開発途上国間の資本の流れを促進しています。なおInvestcomは最近、MTNによって買収されました。

Areebaは、2005年9月透明性ある競争的審査プロセスを経てアフガニスタンで3番目の長期事業免許を受けました。同社は2009年までに加入者数が70万人になることが期待されています。

## マイクロファイナンス融資で利益を上げるエジプトの銀行

エジプト第2の銀行であるBanque Misrと協力してIFCが支援するマイクロファイナンスの試行プログラムは大成功を収め、同行はプログラムを拡大しています。エジプトの非常に小規模な企業はわずかに12%の企業しか銀行の資金にアクセスできていな

いため、この市場セグメントは非常に大きな可能性を秘めています。

IFCは初めに零細企業の市場調査を実施し、商品を企画し、ビジネス計画をまとめました。その後IFCは同行のマイクロファイナンスの融資方針、融資手続、実施マニュアルの策定を手助けし、さらに融資追跡システムの導入、融資担当者への訓練、融資対象者向けワークショップの開催を支援しま

した。5支店で、このプログラムを始めて1年以内に、同行は13,000件のマイクロファイナンスから600万ドルの収益を上げ、返済率もほぼ100%でした。このプログラムの成功にエジプト国内や中東の他の国々の銀行が注目しています。

パキスタンでIFCは、カラチ港のコンテナ・ターミナル埠頭に800万ドルの融資を提供しました。Pakistan International Container Terminalはこの融資を使いコンテナ取り扱設備を購入し、取扱能力を増やし、サービスを向上させる予定です。

製造業セクターでは、IFCはイラクとイエメンのセメント工場に1億3,300万ドルの融資を提供しました。イラクへはこれまでのIFCの同国での投融資で最大の9,800万ドルを新規工場建設のために提供しました。この工場は、エジプトのOrascom Construction Industriesが建設し運営します。

アフガニスタンの新鮮な果物と乾燥果物の質の高さはつとに知られ、何十年もの政治不安が投融資を低迷させていたにもかかわらず、干し葡萄と石榴の実は依然として大きな輸出可能性を秘めています。IFCは、生産者と輸出業者が、旧式の生産・加工技術を改良し、サプライ・チェーンを築き、輸出市場に関する知識を広げる支援を提供しています。この努力は、製品の質の向上と輸出入の増加をきつともたらすでしょう。

## 技術支援とアドバイザー・サービスによる民間企業の育成

援助国資金によるファシリティであるIFCの中東・北アフリカ民間企業パー



IFCの800万ドルの融資によってPakistan International Container Terminalはコンテナ取り扱設備を購入し、カラチ港の荷役サービスの向上を図ります。

## アルジェリアの長期資金と技術支援の需要に応えて

IFCは、今年アルジェリアのRed Medに1,000万ドルの投融資を行い、同社が、外国の石油・ガス・セクター企業の増大する現地物流需要に応えるのを支援しました。アルジェリアの炭化水素鉱床は辺境の砂漠地帯にあり、十分なインフラストラクチャーがなく、外国企業の事業運営を困難にしています。Red Medへの投資はIFCによるアルジェリアの地場企業に対する初めての投資ですが、IFCは、クレーン、トラック、航空機、医療試験機器の追加購入を含む今後4年間で3,200万ドルの同社の中核事業の拡大を支援します。

アルジェリアの銀行セクターは、長期資金源に十分なアクセスがない国営銀行に支配されているため、IFCの長期資金提供は同社の事業拡大計画には不可欠です。IFCはまた、持ち株会社構造の改造を含めたRed Medのコーポレート・ガバナンスの向上も支援しています。これらのステップはRed Medが将来国際資本市場へアクセスするのを助けることになるでしょう。

トナーシップ (Private Enterprise Partnership for the Middle East and North Africa: PEP-MENA) は、金融セクター、中小企業、ビジネス環境整備、インフラストラクチャー・プロジェクトにおける官民パートナーシップを支援するための技術支援を提供しています。IFCは、エジプト、パキスタンを中心に地域全体でコーポレート・ガバナンス関連のアドバイザー・サービスを強化しています。エジプトでは、PEP-MENAが運営するBusiness Edge経営訓練プログラムを通じて中小企業の経営能力の強化に努めています。プログラムのパートナーは、マーケティング、人事、ファイナンス、会計、生産性向上策についての訓練を受け、資格を取得します。PEP-MENAは、プログラムの質を



IFCは、ヨルダン政府に Queen Alia 国際空港の民営化に関するアドバイスを提供しています。

一定に維持するためにパートナーのパフォーマンスをモニターします。2004年10月以降、訓練に参加し資格を取得した11名のパートナーが、2,500名を超える企業の管理職や小規模企業の経営者を訓練してきました。IFCは、このプログラムを、ヨルダン、オマーン、アラ

ブ首長国連邦、イエメンに拡げる一方、大企業とのパートナーシップを通じ、これらの企業がそのサプライ・チェーンに属する小規模企業に経営の訓練を提供するようにしています。

IFCは、ヨルダンの Queen Alia 国際空港の拡張および改修に民間セクターを参加させようとしている、同国政府の Executive Privatization Committee の首席アドバイザーです。IFCは、空港の民営化を支援するためのアドバイザー・サービスも提供しています。空港が良くなることによってヨルダンの観光産業の競争力が高まるでしょう。

アフガニスタンで、IFCは Kabul University と協力して、マーケティング、会計、財務計画に関する専門知識を深めることが必要な地場企業家向けのビジネス・スキル訓練プログラムを開発しています。カリキュラムは2つの地元の言語で受けることができ、第1回目の試行パイロット訓練には120名の学生と企業家が参加しています。IFCはまた、大学が訓練を継続的に実施するための戦略を作ることも支援しています。

## IFCのマイクロファイナンス分野への投融資は パキスタンの Tameer Microfinance Bank に 出資して同行の低所得零細企業家への融資を 支援するものが含まれています。

### コーポレート・ガバナンスの強化

2006年度IFCは、中東・北アフリカ地域の200社から参加した1,000人を超える管理職や役員にコーポレート・ガバナンスに関する訓練を提供しました。IFCは、エジプトの2社、レバノン、アラブ首長国連邦それぞれ1社の合計4社のコーポレート・ガバナンス規定に知的貢献を行い、その創設を支援しました。IFCはまたエジプトとパキスタンでジャーナリストに研修を行い、良好なコーポレート・ガバナンスに対する報道関係者の意識向上を図りました。

IFCのPEP-MENAファシリティは、同種の機関としてはこの地域初である Egyptian Institute of Directors への支援を続けました。エジプト企業のコーポレート・ガバナンスを向上させるため、世界銀行と協力しPEP-MENAは、同機関のプログラム実施能力の構築に取り組みました。これにはエジプトで初の企業の取締役会の発展のための検定プログラムが含まれています。

## 略語・注記・定義

### 略語

CAO	Compliance Advisor/Ombudsman
FY	fiscal year
GDP	gross domestic product
IBRD	International Bank for Reconstruction and Development
ICSID	International Centre for Settlement of Investment Disputes
IDA	International Development Association
IEG	Independent Evaluation Group
IFC	International Finance Corporation
IMF	International Monetary Fund
MIGA	Multilateral Investment Guarantee Agency
MPDF	Mekong Private Sector Development Facility
PENSA	Program for Eastern Indonesia SME Assistance
PEP	Private Enterprise Partnership
PEP Africa	Private Enterprise Partnership for Africa
PEP-MENA	Private Enterprise Partnership for the Middle East and North Africa
PEP-SE	Private Enterprise Partnership for Southeast Europe
SEDF	SouthAsia Enterprise Development Facility
SME	small and medium enterprise

### 注記・定義

IFCの会計年度は、7月1日～6月30日。本会計年度は2005年7月1日に始まり、2006年6月30日に終了しました。

投融資金額は、特に明記しない限り、米ドル表示。

オン・レンディングとは、地場銀行やマイクロファイナンス機関等を通じた、IFCの自己勘定での融資プロセス。

参加機関・組織とIFCは、プロジェクトの信用リスクを完全に共有するが、IFCが契約上融資の貸手となるため、参加機関・組織もIFCの多国間開発機関としての地位に由来するメリット(税制面・カントリーリスク関連)が受けられます。

準出資は、融資と出資の両方の性格を持ち、純然たる融資と出資の間に位置する多様なリスクとリターンのトレードオフを提供する金融商品。

端数を四捨五入したため、一部の表の合計が合わない場合があります。

世界銀行には、国際復興開発銀行 (IBRD) と国際開発協会 (IDA) が含まれます。

世界銀行グループには、国際復興開発銀行 (IBRD)、国際開発協会 (IDA)、国際金融公社 (IFC)、多数国間投資保証機関 (MIGA)、国際投資紛争解決センター (ICSID) が含まれます。

## 參考資料

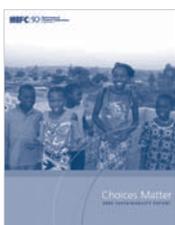
### WEB SITE

The IFC Web site, [www.ifc.org](http://www.ifc.org), contains comprehensive information on every aspect of the Corporation's activities. It includes project information, environmental and

social development policies, publications, contact details for IFC's country offices and facilities, and all products and services.

### OTHER KEY PUBLICATIONS

#### SUSTAINABILITY REPORT



This report shows how IFC is using its unique position and resources to respond to global challenges, including climate change, poverty, corruption, HIV/AIDS, women's participation in private sector development, and the preservation of natural resources.

#### REPORT TO THE DONOR COMMUNITY



Our *2006 Report to the Donor Community* gives a comprehensive description of the main achievements of the partnerships between IFC and its donor countries in reducing poverty and in helping our clients achieve the Millennium Development Goals through technical assistance programs.

#### DOING BUSINESS



*Doing Business* is a series of annual reports from IFC and the World Bank investigating regulations that ease doing business and those that constrain it. The 2007 edition focuses on implementing reforms and compares indicators from 175 developing and industrialized countries. For more information, visit [rru.worldbank.org/doingbusiness](http://rru.worldbank.org/doingbusiness).

#### GOOD PRACTICE NOTES



This series of publications provides guidance and good practice examples to private sector clients on a variety of social and environmental topics, ranging from HIV/AIDS in the workplace to nondiscrimination and equal opportunity promotion.

#### CAO ANNUAL REPORT



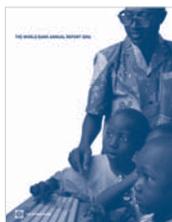
The *Compliance Advisor/Ombudsman Annual Report* highlights efforts of the CAO office to address complaints from people affected by projects and enhance the social and environmental outcomes of projects in which IFC and MIGA play a role. Further information can be found at [www.cao-ombudsman.org](http://www.cao-ombudsman.org).

#### IEG FINDINGS



The *Independent Evaluation Group Findings* is a publication series designed to help inform stakeholders of new evaluation findings and recommendations for IFC's investment and technical assistance projects. Further information about IEG is available at [www.ifc.org/ieg](http://www.ifc.org/ieg).

#### WORLD BANK ANNUAL REPORT



This report highlights the achievements of the World Bank in its efforts to alleviate poverty worldwide and includes its financial statement. The World Bank's Web site is [www.worldbank.org](http://www.worldbank.org).